

平成24年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭及び中堅教員等に対する学校経営研修

1. 教職員等中央研修	
第1回 校長マネジメント研修	1
第2回 校長マネジメント研修	3
第1回 副校長・教頭等研修	5
第2回 副校長・教頭等研修	7
第3回 副校長・教頭等研修	9
第4回 副校長・教頭等研修	11
第5回 副校長・教頭等研修	13
第1回 中堅教員研修	15
第2回 中堅教員研修	17
第3回 中堅教員研修	19
第4回 中堅教員研修	21
2. 英語教育海外派遣研修	23

② 学校現場が抱える喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者の養成等を目的とした研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	25
第2回	27
第3回 (高等学校事務職員)	29
第4回 (小・中学校事務職員)	31
2. 国語力向上指導者養成研修 ～各教科等における言語活動の充実に向けて～	
東部ブロック	33
西部ブロック	35
3. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	37
北海道・東北ブロック	39
関東・甲信越ブロック	41

東海・北陸ブロック	43
近畿ブロック	45
中国・四国ブロック	47
九州ブロック	49
4. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	51
第2回	53
5. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
推進コース・東部ブロック	55
推進コース・西部ブロック	57
授業実践コース・東部ブロック	59
授業実践コース・西部ブロック	61
6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	63
日本語指導者用コース	65
7. 生徒指導指導者養成研修	67
8. 人権教育指導者養成研修	69
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	71
西部ブロック	75
10. 教育相談指導者養成研修	79
11. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	81
西部ブロック	83
12. 健康教育指導者養成研修	
健康コース・東部ブロック	85
健康コース・西部ブロック	87
食育（推進）コース	89
食育（専門）コース	91
学校安全コース・東部ブロック	93
学校安全コース・西部ブロック	95
13. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	97
14. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校経営の改善：A－1団	101
学校経営の改善：A－2団	102
言語力・コミュニケーション力の育成：B－1団	103
言語力・コミュニケーション力の育成：B－2団	104
PISA型学力の育成：C－1団	105
PISA型学力の育成：C－2団	106
学校安全・防災教育の推進：D－1団	107
生徒指導・教育相談の充実：E－1団	108
生徒指導・教育相談の充実：E－2団	109
キャリア教育の充実：F－1団	110
キャリア教育の充実：F－2団	111
スポーツ・健康教育の推進：G－1団	112

学校教育の情報化・ICTの活用：H－1団	113
特別支援教育の充実：I－1団	114
特別支援教育の充実：I－2団	115
学校と地域等の連携：J－1団	116
学校と地域等の連携：J－2団	117

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

(所要経費の全額を派遣者が負担)

1. 産業・理科教育教員派遣研修	119
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	121
工業：B－1（環境工学に関する講義と実習）	123
商業：C－1（マーケティングと経済に関する指導内容・指導方法についての講義と実習）	125
水産：D－1（6次産業化に向けた水産技術に関する講義と実習）	127
家庭：E－1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービスなどの生活産業に関する講義と実習）	129
看護：F－1（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	131
情報：G－1（ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習）	133
技術・家庭（技術）：I－1（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領における指導の充実を目指して）	135
技術・家庭（技術）：I－2（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領における指導の充実を目指して）	137
技術・家庭（家庭）：J－1（食育の推進に対応した家庭分野の指導に関する講義と実習）	139
3. 産業教育実習助手研修	
工業（工業実習に関する講義と実習）	141
4. 学校評価指導者養成研修	143
5. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	145

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修 【第360回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成24年 6月11日（月）～平成24年 6月15日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	87	参加率 116.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	80	92.0	7	8.0	0	0.0	0	0.0	87
		87	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・超一流の講師陣の研修を受けることができて、とても有意義であった。 ・高く広い観点からのマネジメントの重要性が確認できました。 ・中身の濃い研修でした。講師も素晴らしく、資料もありがたかったです。全国の校長先生方と交流できたのも、貴重な財産ができた思いです。 ・内容が濃い上、抽象論ではなく具体的な方策が盛りだくさんであるため、校長の職務を遂行する際の指針・参考となる。 ・今回の講座の全てが有意義であり、ぜひ継続されることを望みます。 ・グループで協議しまとめることが必要な研修の場合、もう少し時間にゆとりがあるとよかった。 ・マネジメントⅡのグループ別研修で、事前レポートを十分に協議し合うことができず、レポート作成に活かしきれなかったのが残念です。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校評価ガイドラインをより浸透させるために、テーマを「人材育成と組織改善」から「学校評価」に改め、より多くのグループ協議を取り入れた。 ・「新しい時代の教育」及び「リスクマネジメント」の時間を延長し、研修内容の充実を図った。 次年度に向けて ・「学校運営演習」及び「リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～」については、受講者からの評価が高かったが、さらに充実させてほしいとの要望が多数あったため、時間を拡充し、研修内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修(360回)

平成24年6月11日(月)～平成24年6月15日(金)

	6月11日(月)	6月12日(火)	6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
8:30～9:00		8:30～9:00 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究④
9:00～9:15	受付				
午前1 9:15～10:30	9:15～10:15 オリエンテーション	9:15～11:45 グループ協議 学校組織マネジメントⅡ (学校評価) 天笠 茂	9:15～11:45 講義・演習 リスクマネジメント NKSJ	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス) 河村 茂雄	9:15～12:15 演習・協議 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて) 浅野 良一
	10:25～10:45 開講式				
午前2 10:30～11:45	10:45～12:00 新しい時代の教育				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略) 浅野 良一	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (新しい時代の学校マネジメント実践) 藤原 和博	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント NKSJ	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 柴田 励司
午後2 14:15～15:30					15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00					

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修 【第366回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成24年10月22日（月）～平成24年10月26日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	76	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	69	7	0	0	0	0	76
割合 (%)	90.8	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	76	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・講師が大変すばらしく、学ぶことが多かったです。本当にありがとうございました。 ・時間がもう少しあればという思いもありましたが、内容が極めて充実した研修で、限られた時間の中でとても工夫された素晴らしい研修でありました。 ・自己の学校経営・運営について再確認・再認識し、今後の方向性を示していただけた。 ・講師の先生方が大変熱心にかつ、適切に指導して下さり、改めて校長の職責の大切さを痛感した。職場に戻り、研修を生かしたいと思う。 ・今まで漠然としていたリスクマネジメントや学校組織マネジメントが整理され、自分の言葉として話ができる自信が出てきた。 ・全国の校長先生と実践交流し、カルチャーショックを受けました。広い視野で学校経営に取り組む校長に成長したいと強く思いました。 ・学校事故や教職員の不祥事の処理・処罰、更に裁判における判例を学ぶことができる講座があるとよいのではないかと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校評価ガイドラインをより浸透させるために、テーマを「人材育成と組織改善」から「学校評価」に改め、より多くのグループ協議を取り入れた。 ・「新しい時代の教育」及び「リスクマネジメント」の時間を延長し、研修内容の充実を図った。 次年度に向けて ・「学校運営演習」及び「リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～」については、受講者からの評価が高かったが、さらに充実させてほしいとの要望が多数あったため、時間を拡充し、研修内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修(366回)

平成24年10月22日(月)～平成24年10月26日(金)

	10月22日(月)	10月23日(火)	10月24日(水)	10月25日(木)	10月26日(金)
8:30～9:00		8:30～12:00 講義・演習	8:30～9:00 実践研究②	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究④
9:00～9:15	受付	学校組織マネジメントⅡ (学校ビジョンと戦略) 浅野 良一			
午前1 9:15～10:30	9:15～10:20 オリエンテーション		9:15～11:45 講義・演習 リスクマネジメント NKSJ	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス) 河村 茂雄	9:15～12:15 演習・協議 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて) 浅野 良一
	10:30～10:50 開講式				
午前2 10:30～11:45	10:50～12:00 新しい時代の教育				
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 グループ協議 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 飯野 眞幸	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (新しい時代の学校マネジメント実践) 藤原 和博	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント NKSJ	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 酒巻 久
午後2 14:15～15:30					15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究①				

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第361回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成24年 7月23日（月）～平成24年 7月27日（金） 平成24年 7月31日（火）～平成24年 8月 9日（木）					15日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	88	人	参加率 88.0%
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市福島区福島6-22-20）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	80	90.9	8	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	88
		88	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・ 演習を入れることで、更によく分かる。交流によっていろいろな考えを聞き自分の考えを導くことができるので、大変良かった。
・ 講義とのバランスはよく、演習やロールプレイ等参加しながら学ぶことは適度な緊張感を生み、とても良い。
・ 自分の問題意識と演習内容が重なっていたので、非常に理解を深めるのに有効であった。また、演習項目も日常的によくある内容であったので、勉強になった。
・ 質の高い講義とグループ演習の組み合わせはちょうどよかったと思います。
・ 学んだことも多かったが、多くの仲間を得たことが収穫であった。今回の研修で得た「絆」をこれからも大切にしていきたい。
・ 現場においてすぐに活用すべき内容が多くありました。日頃管理職として学習しなければならない項目が山ほどあります。しかし、時間が無いことは当然のことではありますが、勉強不足を痛感しております。
・ 学校運営に関わって、具体的にどのように組織をつくっていくのか、人材を育成していくのが事例として聞きたいです。理論的な部分と合わせて伺えるとよいと思います。
・ 今回の研修は「教頭・副校長」対象のものでありましたが、今回のような内容は私のように、これから教頭になる方を対象とした方がよいように思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 東日本大震災の教訓から、「防災管理」を新規に導入した。
・ 児童生徒の小さなサインをキャッチし、未然防止につなげるという観点から「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入した。
・ 文部科学省の施策をより反映させるため、「新しい時代の教育」の時間を延長し定着を図った。また、「コミュニケーション力」の時間を延長し、演習の充実を図った。
次年度に向けて
・ 学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新規導入する。
・ 児童相談所への相談件数が約6万件、小・中・高生の自殺者が約200人で共に増加傾向にある。「児童虐待」「自殺予防」を選択講義とし、情報交換を行うことで、講義内容の共有化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修(大阪開催)(361回)

平成24年7月23日(月)～平成24年8月9日(木)

第1週	7月23日(月)	7月24日(火)	7月25日(水)	7月26日(木)	7月27日(金)	7月28日(土)	7月29日(日)
9:30～9:45	9:30～9:50 受付	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1 9:45～11:00	10:00～11:30 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ 坂田 仰	9:45～15:15 教育法規Ⅱ 三ツ角 直正	9:45～12:15 特別支援教育 徳永 豊	9:45～16:30 生徒指導 嶋崎 政男		
午前2 11:00～12:15	11:30～11:45写真撮影						
午後1 13:30～15:00	13:00～13:20 開講式 13:30～14:45 新しい時代の教育	13:30～15:30 防災管理 片田 敏孝		13:30～15:30 児童虐待 野田 正人			
午後2 15:00～16:30	15:00～16:30 特別講義 杉田 正明	15:45～16:30 実践研究①	15:30～16:30 研修講師となるための 知識・技術	15:45～16:30 実践研究②			
第2週	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)	8月4日(土)	8月5日(日)
9:30～9:45		9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～11:30 メンタルヘルスマネジメント		
午前1 9:45～11:00		9:45～12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 柳澤 良明	9:45～16:30 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり) 林 孝	9:45～16:30 学習指導と評価 大杉 昭英	藤原 忠雄		
午前2 11:00～12:15							
午後1 13:30～15:00		13:30～14:00 演習説明 (リスクマネジメント)			12:30～16:30 コミュニケーション力 音楽座		
午後2 15:00～16:30		14:10～16:30 実践研究③					
第3週	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)	8月11日(土)	8月12日(日)
9:30～9:45	9:30～16:30	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30	9:30～16:00			
午前1 9:45～11:00	リスクマネジメント NKSJリスクマネジメント	9:45～11:45 リーダーとなるために 貴島 孝雄	学校運営演習	学校運営演習			
午前2 11:00～12:15							
午後1 13:30～15:00		13:00～16:30 学校マネジメント 藤原 和博					
午後2 15:00～16:30				16:15～16:30 閉講式			

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第363回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成24年 8月 6日（月）～平成24年 8月10日（金） 平成24年 8月15日（水）～平成24年 8月24日（金）					15日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	78	人	参加率 78.0%
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市福島区福島6-22-20）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	72	92.3	6	7.7	0	0.0	0	0.0	78
		78	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 講義いただいた内容の明確化、イメージ化にも役立った。また、他の先生方との協議を通して、都道府県により様々なケース、対応等があることも分かり、活用を図っていきたいと思う。
・ 講義だけでは伝わらないことも、演習を通してよりはっきりと分かり、身につけることにつながったと思います。
・ 全日程の中で演習のタイミングがとても効果的に設定されていました。
・ 現場での研修でも実際に取り入れられる形があったり、ここでもしか体験できない形があったり、大変工夫していただいているありがたく思っております。
・ 講演で得た情報を演習を通して深く自分の中に取り込むことができました。また、資料を持ち寄ることによって他市・県の様子も知ることができた。
・ 各講師の先生の話をもう少しじっくり聞いたり、質問する時間があればよいと思います。
・ 講義と演習、この2つを一緒に取り入れることによって理解も深まり、考えも広がり、実践につなげることができると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 東日本大震災の教訓から、「防災管理」を新規に導入した。
・ 児童生徒の小さなサインをキャッチし、未然防止につなげるという観点から「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入した。
・ 文部科学省の施策をより反映させるため、「新しい時代の教育」の時間を延長し定着を図った。また、「コミュニケーション力」の時間を延長し、演習の充実を図った。
次年度に向けて
・ 学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新規導入する。
・ 児童相談所への相談件数が約6万件、小・中・高生の自殺者が約200人で共に増加傾向にある。「児童虐待」「自殺予防」を選択講義とし、情報交換を行うことで、講義内容の共有化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修(東京開催)(363回)

平成24年8月6日(月)～平成24年8月24日(金)

第1週	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)	8月11日(土)	8月12日(日)
9:30～9:45	9:30～9:50 受付	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～11:30 メンタルヘルスマネジメント		
午前1 9:45～11:00	10:00～11:30 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ 加茂川 幸夫	9:45～15:15 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:45～12:15 特別支援教育 花輪 敏男	新井 肇		
午前2 11:00～12:15	11:30～11:45写真撮影						
午後1 13:30～15:00	13:00～13:20 開講式 13:30～14:45 新しい時代の教育	13:30～15:30 防災管理 佐藤 健		13:30～15:30 児童虐待 玉井 邦夫	12:30～16:30 コミュニケーション力 音楽座		
午後2 15:00～16:30	15:00～16:30 特別講義 衣笠 祥雄	15:45～16:30 実践研究①	15:30～16:30 研修講師となるための 知識・技術	15:45～16:30 実践研究②			
第2週	8月13日(月)	8月14日(火)	8月15日(水)	8月16日(木)	8月17日(金)	8月18日(土)	8月19日(日)
9:30～9:45			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30 リスクマネジメント		
午前1 9:45～11:00			9:45～16:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 松田 素行	9:45～12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 大野 裕己	NKSJ		
午前2 11:00～12:15							
午後1 13:30～15:00				13:30～14:00 演習説明 (リスクマネジメント)			
午後2 15:00～16:30				14:10～16:30 実践研究③			
第3週	8月20日(月)	8月21日(火)	8月22日(水)	8月23日(木)	8月24日(金)	8月25日(土)	8月26日(日)
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30	9:30～16:00		
午前1 9:45～11:00	9:45～16:30 教育指導上の課題 (学習指導と評価) 角屋 重樹	9:45～16:30 学校組織マネジメントⅡ 北神 正行	9:45～11:45 リーダーとなるために 小杉 俊哉	学校運営演習	学校運営演習		
午前2 11:00～12:15							
午後1 13:30～15:00			13:00～16:30 学校マネジメント 藤原 和博				
午後2 15:00～16:30					16:15～16:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第365回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	高等学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成24年 9月18日（火）～平成24年10月 4日（木）					17日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	147	参加率 98.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	134	91.2	13	8.8	0	0.0	147
		147	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・他の先生方から得るものも多く、また、実際に体験することにより理解が深まるものもあり、演習形式の学習は大変効果的であると思います。 ・演習ごとに構成員を替える方法は多くの方々と意見交換することにつながり、大変ありがたかった。 ・演習を通して、自校の状況を知ることができたとし、他校の先生方の意見を聞くことで、参考になることがたくさんありました。 ・本当に多くの演習が組み込まれ、またグループ編成にも工夫をしていただき、ありがとうございました。自分が研修を組み立てる時の参考にさせていただきます。沢山の参加者と意見交換ができました。 ・限られた日程で、最新の動向等、諸々の情報も沢山持ち帰りたい本音もあり、何が何でも演習を取り入れるというより、必要に応じて入れるのでよいと思います。 ・多くの講義が理論的な内容だったと思いますが、具体例があると現場での活用の参考になるとと思います。 ・講師の方はどなたも一流で素晴らしい方ばかりでした。こういう機会にめぐりあえてとても幸せでした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・東日本大震災の教訓から、「防災管理」を新規に導入した。 ・児童生徒の小さなサインをキャッチし、未然防止につなげるという観点から「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入した。 ・文部科学省の施策をより反映させるため、「新しい時代の教育」の時間を延長し定着を図った。また、「コミュニケーション力」の時間を延長し、演習の充実を図った。
次年度に向けて ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新規導入する。 ・児童相談所への相談件数が約6万件、小・中・高生の自殺者が約200人で共に増加傾向にある。「児童虐待」「自殺予防」を選択講義とし、情報交換を行うことで、講義内容の共有化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修(365回)

平成24年9月18日(火)～平成24年10月4日(木)

第1週	9月17日(月)	9月18日(火)	9月19日(水)	9月20日(木)	9月21日(金)	9月22日(土)	9月23日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 研修講師となるための知識・技術 永尾剛・加治行雄	9:15～14:45 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～11:45 特別支援教育 玉井 邦夫		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①					
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 樋口修資		13:00～17:00 コミュニケーション力 音楽座		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省					
		14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00			
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 特別講義 大島昌子	15:45～17:00 班別協議①	防災管理 藤岡 達也			
第2週	9月24日(月)	9月25日(火)	9月26日(水)	9月27日(木)	9月28日(金)	9月29日(土)	9月30日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 実践研究④	8:30～9:00 実践研究⑥	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～17:00		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30	9:15～15:30	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 小松 郁夫	9:15～11:45 メンタルヘルスマネジメント 河村 茂雄	リスクマネジメント NKSJ		
午前2 10:30～11:45	学習指導と評価 角屋 重樹	生徒指導 松田 素行					
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 自殺予防 新井 肇	13:00～17:00 リスクマネジメント NKSJ			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 教育と芸術 村上敏明・土屋麻美				
第3週	10月1日(月)	10月2日(火)	10月3日(水)	10月4日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 班別協議②	8:30～9:00 班別協議③			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:30～17:00	9:30～17:00	9:15～10:45 リーダーとなるために 石坂 芳男			
午前2 10:30～11:45	浅野 良一	学校運営演習 文部科学省	学校運営演習 文部科学省	11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第368回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	幼稚園・小学校・中学校の副校長・教頭等、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成25年 1月 8日（火）～平成25年 1月25日（金）					18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	196	人	参加率 130.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	186	94.9	9	4.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	196
		195		99.5										

2. 研修内容に関する主な意見

・ 演習あってこそ講義の内容も実感として理解できる。まさにそういう研修でした。日程的にもうまくプログラミングされ、適度な緊張感の中で意欲的に演習に取り組むことができました。 ・ 全国の先生方と交流でき、情報交換できたことも演習の良さだと感じました。 ・ 演習があることで、より主体的・積極的に研修に臨むことができ、実り多きものになると思います。 ・ 講義と演習のバランスはよいと思いました。 ・ 研修では班という大きなくりがあり、所属感を感じられたため安心して演習に臨めました。その上で、講義によって演習のグルーピングがされたことで、情報交換の広がりがあったのも有難かったです。 ・ 素晴らしい講師の方々と、この研修に参加させて頂いて本当によかったと思いました。ここで学んだことを今後にぜひ生かしたいと思います。 ・ 1 講義の内容が豊富で、少し詰め込みという感じがあった。もう少しゆとりがあって、念入りに進めてもらえると、より充実した気持ちを味わえるのではないかな。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 東日本大震災の教訓から、「防災管理」を新規に導入した。 ・ 児童生徒の小さなサインをキャッチし、未然防止につなげるという観点から「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入した。 ・ 文部科学省の施策をより反映させるため、「新しい時代の教育」の時間を延長し定着を図った。また、「コミュニケーション力」の時間を延長し、演習の充実を図った。
次年度に向けて ・ 学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新規導入する。 ・ 児童相談所への相談件数が約 6 万件、小・中・高生の自殺者が約 2 0 0 人で共に増加傾向にある。「児童虐待」「自殺予防」を選択講義とし、情報交換を行うことで、講義内容の共有化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修(368回)

平成25年1月8日(火)～平成25年1月25日(金)

第1週	1月7日(月)	1月8日(火)	1月9日(水)	1月10日(木)	1月11日(金)	1月12日(土)	1月13日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:15～11:45 教育指導上の課題 特別支援教育 梅永 雄二		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①			13:00～17:00 コミュニケーション力		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 辻村 哲夫	15:00～17:00 防災管理 佐藤 浩樹	音楽座		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省					
		14:45～15:15 写真撮影					
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 特別講義 小杉俊哉	15:45～17:00 班別協議①				
第2週	1月14日(月)	1月15日(火)	1月16日(水)	1月17日(木)	1月18日(金)	1月19日(土)	1月20日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 実践研究④	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～17:00 リスクマネジメント NKSJ		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 教育指導上の課題 幼稚園(教育課程) 岩立 京子	9:15～15:30 教育指導上の課題 幼稚園(保育的關係) 神長 美津子	9:15～11:45 メンタルヘルスマネジメント 河村 茂雄			
午前2 10:30～11:45		小中学校(学習指導と評価) 北 俊夫	小中学校(生徒指導) 嶋崎 政男	13:00～17:00 リスクマネジメント NKSJ			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 教育と芸術 家田紀子、金井紀子				
第3週	1月21日(月)	1月22日(火)	1月23日(水)	1月24日(木)	1月25日(金)	1月26日(土)	1月27日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 実践研究⑥	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 班別協議②	8:30～9:00 班別協議③		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田 博文	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり) 北神 正行	9:30～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:30～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15～10:45 リーダーとなるために 木村 政雄		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 教育指導上の課題 児童虐待 野田 正人						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑤						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修 【第369回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成25年 1月 29日（火）～平成25年 2月15日（金）				18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	163	参加率 163.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	151	92.6	11	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6		163
		162		99.4											

2. 研修内容に関する主な意見

・座学だけでなく、演習を通して多くの先生方とふれあい、協議し、意見交換、情報交換できたことは大変貴重であった。 ・演習は主体的に取り組む形態なのでよいと思います。講義と演習の時間配置も工夫されていて、3週間のトータルで考えてもバランスのよい研修でした。 ・演習の時間がもう少し多くあると、いろいろもっとお互いに学べたと思います。 ・盛りだくさんの内容で最初の戸惑いを感じたが、日を重ねるに従って慣れることができた。いろいろと課題は多いのだろうが、各自が課題を持ち寄りそれぞれグループに分かれてしっかり話し合える時間があると良かった。 ・とても素晴らしい講義ばかりで、大変有難かったです。 ・本研修を通して、教育現場に求められている様々な施策の根本に迫る講義や演習を受けることができ、勉強になりました。 ・早口でお話される先生方もいて、メモを取るのに苦労しました。聞き手のことを考えて、大事な点はゆっくり伝えてほしいと感じました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・東日本大震災の教訓から、「防災管理」を新規に導入した。 ・児童生徒の小さなサインをキャッチし、未然防止につなげるという観点から「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入した。 ・文部科学省の施策をより反映させるため、「新しい時代の教育」の時間を延長し定着を図った。また、「コミュニケーション力」の時間を延長し、演習の充実を図った。 次年度に向けて ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新規導入する。 ・児童相談所への相談件数が約6万件、小・中・高生の自殺者が約200人で共に増加傾向にある。「児童虐待」「自殺予防」を選択講義とし、情報交換を行うことで、講義内容の共有化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修(369回)

平成25年1月29日(火)～平成25年2月15日(金)

第1週	1月28日(月)	1月29日(火)	1月30日(水)	1月31日(木)	2月1日(金)	2月2日(土)	2月3日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45	9:15～14:45 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 特別支援教育		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	研修講師となるための知識・技術	清水 幹裕	関戸 英紀		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ	15:00～17:00 防災管理 佐藤 浩樹	13:00～17:00 コミュニケーション力		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	惣脇 宏		音楽座		
午後3 15:45～17:00		14:45～15:15 写真撮影					
		15:30～17:00 特別講義 西田 善夫	15:45～17:00 班別協議				
第2週	2月4日(月)	2月5日(火)	2月6日(水)	2月7日(木)	2月8日(金)	2月9日(土)	2月10日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～17:00 リスクマネジメント NKSJ		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～11:45 メンタルヘルスマネジメント	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)			
午前2 10:30～11:45	角屋 重樹	柳生 和男	河村 茂雄	小松 郁夫			
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 自殺予防	13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2 14:15～15:30			新井 肇	NKSJ			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究(法規)	15:45～17:00 実践研究(法規)	15:45～17:00 教育と芸術 市川、竹澤、岩河				
第3週	2月11日(月)	2月12日(火)	2月13日(水)	2月14日(木)	2月15日(金)	2月16日(土)	2月17日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:15 実践研究	8:30～9:15 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:30～17:00 学校運営演習	9:30～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 竹内 一郎		
午前2 10:30～11:45		浅野 良一					
午後1 13:00～14:15					11:00～11:20 閉講式		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第359回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	高等学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成24年 5月 8日（火）～平成24年 6月 1日（金）					25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	170	人	受講者数	119	人	参加率 70.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	112	94.1	7	5.9	0	0.0	119
		119	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 適度なバランスで講義と演習が配分され、受講者にとっては学習しやすいものだったと思います。 ・ とても練られた研修プログラムで、プログラム作成という点からも大変学ぶべきことが多かった。演習の方法も少しずつ変化しており、研修全体が、研修講師になった時の参考になる内容だった。 ・ グループの班員も多彩に入れ替わり、良かったです。ただ、模造紙やホワイトボードに仕上げ、みんなにプレゼンという手法が多く、もうひと工夫あってもよかったと思います。 ・ 演習を取り入れていただいたことで、より理解も深まり良かったです。ただ、講師の先生によっては一方的な講義形式であったり、説明に使われたスライドが、字が小さくて読めなかったりして、内容に集中できなかったのが残念でした。 ・ 全体として非常に満足度が高い研修だったと思います。特に、講師陣の質の高さが有難かったと思っています。 ・ 今回はどの講師の方も意欲的で、十分に刺激を受けました。演習やグループ活動の時間を確保してもらえたら、さらに理解が深まったと思います。 ・ 講義の中には説明が速すぎてついていけないものもありました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 新学習指導要領への移行期間を終了したことから、「カリキュラム・マネジメント」を廃止する。教職員の休職者が年間約8600人で増加傾向にあることから、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入した。
次年度に向けて ・ 学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新規導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修(第359回)

平成24年5月8日(火)～平成24年6月1日(金)

第1週	5月7日(月)	5月8日(火)	5月9日(水)	5月10日(木)	5月11日(金)	5月12日(土)	5月13日(日)		
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②				
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰 英一	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田 博文				
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①		清水 幹裕	13:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術				
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式						13:00～15:30 教育法規Ⅰ	
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育	樋口 修資						
		14:45～15:15 写真撮影							
午後3 15:45～17:00	15:30～17:00 特別講義	15:45～17:00	15:45～17:00						
		柳本 晶一	班別協議①	実践研究①					
第2週	5月14日(月)	5月15日(火)	5月16日(水)	5月17日(木)	5月18日(金)	5月19日(土)	5月20日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00				
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育	9:15～15:30 メンタルヘルスマネジメント	9:15～11:45 道徳教育	9:15～11:45 リスクマネジメントⅠ	リスクマネジメントⅡ NKSJリスクマネジメント				
午前2 10:30～11:45	梅野 正信	諸富 祥彦	横山 利弘	上地 安昭					
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 コミュニケーションカ		13:00～15:30 生徒指導Ⅰ	13:00～17:00 リスクマネジメントⅡ					
午後2 14:15～15:30	音楽座		石隈 利紀	NKSJリスクマネジメント					
午後3 15:45～17:00								15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③
第3週	5月21日(月)	5月22日(火)	5月23日(水)	5月24日(木)	5月25日(金)	5月26日(土)	5月27日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧				
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 学習指導と評価	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ	9:15～15:30 特別支援教育	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 キャリア教育				
午前2 10:30～11:45	二井 正浩	河村 茂雄	花輪 敏男	教育の情報化 影戸 誠	藤田 晃之				
午後1 13:00～14:15				ボランティア教育 長沼 豊					
午後2 14:15～15:30				健康教育 野津 有司					
				環境教育 高田 研					
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究④	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 教育と芸術 市川、竹澤、岩河	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究⑥				
第4週	5月28日(月)	5月29日(火)	5月30日(水)	5月31日(木)	6月1日(金)				
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備⑨	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:30 班別協議④	8:30～9:00 班別協議⑤				
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:15～11:45 国際理解教育	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 黒岩 禪				
午前2 10:30～11:45	産業能率大学	多田 孝志	文部科学省	文部科学省	11:00～11:20 閉講式				
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 学校運営演習							
午後2 14:15～15:30		文部科学省							
午後3 15:45～17:00									

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第362回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校の教諭（主として小学校） 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者					
開 催 期 日	平成24年 7月24日（火）～平成24年 8月17日（金）				25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	280	人	受講者数	296	人 参加率 105.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	284	95.9	11	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3		296
		295		99.7											

2. 研修内容に関する主な意見

・実践的なものが多く、現場ですぐに活用できるものでした。 ・著名な講師陣による講義はどれも有意義なものばかりでした。今後も継続していただけたらよいと思います。 ・演習ごとにメンバーが変わるシステムがとても良かったと思います。たくさんの先生方と知り合うことができました。 ・グループ研修のとき、ランダムにメンバーが入れ替わり、多くの方と語ることができたのがよかったです。班日誌をグループ責任と協力のもとに仕上げていくのもコミュニケーションを深める上で有効でした。 ・講義と演習のバランスがとてもいいです。 ・講師の先生によっては、唐突に演習が入る場合もあったので、無理に入れなくてもよいと思うし、話の内容に合わせた演習の形がベストだと思う。 ・理論はおおむね理解できたと思いますが講師によっては「具体的にどうすればよい」ということをもう少し聞きたいときもあった。 ・配布される資料と画面に提示される資料があまりに違うと、受講生は講義に集中できません。講師の先生もよりよいプレゼンをしようとしての結果だとは思いますが、改善してほしいと感じます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・新学習指導要領への移行期間を終了したことから、「カリキュラム・マネジメント」を廃止する。教職員の休職者が年間約8600人で増加傾向にあることから、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入した。
次年度に向けて ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新規導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修(第362回)

平成24年7月24日(火)～平成24年8月17日(金)

第1週	7月23日(月)	7月24日(火)	7月25日(水)	7月26日(木)	7月27日(金)	7月28日(土)	7月29日(日)	
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②			
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃 敏行	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 人権教育			
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①		三ツ角 直正	梅野 正信			
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式						13:00～17:00 コミュニケーションカ 音楽座
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育	樋口 修資					
		14:45～15:15 写真撮影						
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 特別講義 平尾 誠二	15:45～17:00 班別協議①	15:45～17:00 実践研究①				
第2週	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)	8月4日(土)	8月5日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥			
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 学習指導と評価	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～11:45 道德教育	9:15～15:30 特別支援教育			
午前2 10:30～11:45	相澤 秀夫	天笠 茂	教育の情報化 野中 陽一	七條 正典	花輪 敏男			
午後1 13:00～14:15	15:45～17:00 実践研究②	13:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術	ボランティア教育 池田 幸也					13:00～15:30 生徒指導Ⅰ
午後2 14:15～15:30			健康教育 野津 有司	柳生 和男				
午後3 15:45～17:00			環境教育 阿部 治		15:45～17:00 班別協議②			15:45～17:00 実践研究③
第3週	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)	8月11日(土)	8月12日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧	8:30～8:50 オリエンテーション⑤	8:30～17:00 リスクマネジメントⅡ			
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 メンタルヘルスマネジメント	9:15～15:30 キャリア教育	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ	9:10～11:45 リスクマネジメントⅠ	NKSJ			
午前2 10:30～11:45	諸富 祥彦	三村 隆男	河村 茂雄	飯野 真幸				
午後1 13:00～14:15				13:00～17:00 リスクマネジメントⅡ				
午後2 14:15～15:30				NKSJ				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 実践研究⑥	15:45～17:00 教育と芸術 腰越 満美、丸山 和範					
第4週	8月13日(月)	8月14日(火)	8月15日(水)	8月16日(木)	8月17日(金)	8月18日(土)	8月19日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備⑨	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:30 班別協議④	8:30～9:00 班別協議⑤			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ	9:15～11:45 国際理解教育	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 酒巻 久			
午前2 10:30～11:45	産業能率大学	多田 孝志	文部科学省	文部科学省	11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15					13:00～17:00 学校運営演習 文部科学省			
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00								

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第364回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校の教諭（主として中学校） 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成24年 8月20日（月）～平成24年 9月13日（木）					25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	138	人	参加率 55.2%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	134	4	0	0	0	0	138
割合 (%)	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	138	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・参加型の研修は理解が深まり、他の人との交流ができ、よかったです。 ・演習があることで、メリハリが付き効果的に研修を受けられました。毎回グループが変わることで、多くの人と交流できてよかったです。 ・殆どの講義で演習または過去の事例・判例・実践例があり、とてもよかった。 ・個々の流れはとても良かったと思いますが、内容がいくつか重なるものもありました。大切なことは全てにつながるのだと思いますが、少々多すぎたのではと思います。 ・大学の先生が多いので自分の研究の内容が多いのですが、実践の事例がもう少し聞きたかった。 ・講師の皆さんの素晴らしさに感動を覚えます。まさに、ここでしかできない研修だと思います。 ・温かい雰囲気の中で、毎回とても充実した研修をさせて頂きました。全国の先生方、特に同じグループの先生方とはこれからずっと学び合っていける絆もできました。 ・日頃の執務でやってきたことに意味づけされたように思います。たくさんの講師の皆さん、受講した仲間たち、このすばらしい研修会の環境を整えて下さった当研修センターの皆さん、心から感謝します。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・新学習指導要領への移行期間を終了したことから、「カリキュラム・マネジメント」を廃止する。教職員の休職者が年間約8600人で増加傾向にあることから、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入した。 次年度に向けて ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新規導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修(第364回)

平成24年8月20日(月)～平成24年9月13日(木)

第1週	8月20日(月)	8月21日(火)	8月22日(水)	8月23日(木)	8月24日(金)	8月25日(土)	8月26日(日)
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②	8:30～9:00 演習準備③		
午前1 9:15～10:30	9:30～9:50 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 人権教育	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)		
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃 敏行	三ツ角 直正	有村 久春	浜田 博文		
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 コミュニケーションカ	13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15～15:30	13:30～14:45 新しい時代の教育 14:45～15:15 写真撮影	坂田 仰		音楽座			
午後3 15:45～17:00	15:30～17:00 特別講義 小川 三夫	15:45～17:00 班別協議①	15:45～17:00 実践研究①				
第2週	8月27日(月)	8月28日(火)	8月29日(水)	8月30日(木)	8月31日(金)	9月1日(土)	9月2日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 オリエンテーション④			
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 キャリア教育	9:15～11:45 道徳教育	9:15～15:30 特別支援教育	9:15～11:45 リスクマネジメントⅠ	8:30～17:00 リスクマネジメントⅡ		
午前2 10:30～11:45	三川 俊樹	渡邊 満	花輪 敏男	飯野 眞幸	NKSJ		
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導Ⅰ		13:00～17:00 リスクマネジメントⅡ			
午後2 14:15～15:30		柳生 和男		NKSJ			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④				
第3週	9月3日(月)	9月4日(火)	9月5日(水)	9月6日(木)	9月7日(金)	9月8日(土)	9月9日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧	8:30～9:00 演習準備⑨		
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略作り)	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ	9:15～15:30 メンタルヘルスマネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 学習指導と評価		
午前2 10:30～11:45	産業能率大学	栗原 慎二	諸富 祥彦	教育の情報化 野中 陽一 ボランティア教育 長沼 豊 健康教育 和唐 正勝 環境教育 阿部 治	加藤 明		
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 教育と芸術 アマデウス五重奏	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究⑥		
第4週	9月10日(月)	9月11日(火)	9月12日(水)	9月13日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:30 班別協議④	8:30～9:00 班別協議⑤			
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 国際理解教育	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 大竹 美喜			
午前2 10:30～11:45	多田 孝志	文部科学省	文部科学省	11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 学校運営演習						
午後2 14:15～15:30	文部科学省						
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第367回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成24年11月19日（月）～平成24年12月14日（金）					26日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	192	人	参加率 76.8%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,580 人、参加率 92.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	184	8	0	0	0	0	192
割合 (%)	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	192	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・演習があるとより実践的であり、体験することで理解が進む。 ・他校種の先生方や同じ校種であっても、地域や特色の違う学校の先生方の様々な実態や考えを聞くことができ、大変良かった。 ・県レベルでは伺うことのできない講義や演習等、とても貴重な学びの機会を与えて頂いたことに深く感謝します。 ・工夫されたものが多く、自分が講師になった時の参考にもなると思いました。 ・演習の時間がものすごく短く、方法だけの紹介になってしまった講義もあったので、取り入れるならじっくり取り組めるよう時間の確保が望まれる。 ・素晴らしい講師の先生方による、素晴らしい講義・演習でした。 ・教育に関わる先駆的な役割を果たされた講師の先生のご講話は、今後の糧になると思っております。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・新学習指導要領への移行期間を終了したことから、「カリキュラム・マネジメント」を廃止する。教職員の休職者が年間約8600人で増加傾向にあることから、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入した。 次年度に向けて ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新規導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修(第367回)

平成24年11月19日(月)～平成24年12月14日(金)

第1週	11月19日(月)	11月20日(火)	11月21日(水)	11月22日(木)	11月23日(金)	11月24日(土)	11月25日(日)	
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:30～9:50 受付	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰 英一	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 三ツ角 直正	9:15～11:45 人権教育 有村 久春				
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション			13:00～15:30 リスクマネジメントⅠ 上地 安昭				
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式							
午後2 14:15～15:30	13:30～14:45 新しい時代の教育					伊勢呂 裕史		
	14:45～15:15 写真撮影							
午後3 15:45～17:00	15:30～17:00 特別講義 童門 冬二	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第2週	11月26日(月)	11月27日(火)	11月28日(水)	11月29日(木)	11月30日(金)	12月1日(土)	12月2日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～15:30 メンタルヘルスマネジメント 諸富 祥彦	9:15～15:30 特別支援教育 花輪 敏男	9:15～11:45 道徳教育 (小・中) 柴原 弘志 (高校) 藤永 芳純	9:15～17:00 リスクマネジメントⅡ NKSJ			
午前2 10:30～11:45	窪田 真二			13:00～17:00 リスクマネジメントⅡ NKSJ				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術							
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00						15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	
第3週	12月3日(月)	12月4日(火)	12月5日(水)	12月6日(木)	12月7日(金)	12月8日(土)	12月9日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 生徒指導Ⅰ (小・中)菅野 純 (高校)松田素行	9:15～15:30 学習指導と評価 (小・中)北 俊夫 (高校)二井 正浩	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ 河村 茂雄	9:15～15:30 キャリア教育 三村 隆男	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 教育の情報化 高橋 純 ボランティア教育 興梠 寛 健康教育 川畑 徹朗 環境教育 高田 研			
午前2 10:30～11:45								
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 コミュニケーション力 音楽座							
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00						15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 アマデウス五重奏	15:45～17:00 実践研究
第4週	12月10日(月)	12月11日(火)	12月12日(水)	12月13日(木)	12月14日(金)	12月15日(土)	12月16日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:15 実践研究	8:30～9:15 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ 産業能率大学	9:15～11:45 国際理解教育 多田 孝志 13:00～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:30～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:30～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15～10:45 リーダーとなるために 川口 淳一郎			
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15								
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00								

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成24年度末現在) ④過去に文部科学省又はセンターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者					
開 催 期 日	別紙の通り				別紙の通り	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	27	参加率 90.0%
開 催 場 所	別紙の通り					

※ 全体受講定員 30 人、 受講者数 27 人、 参加率 90.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	26	96.3	1	3.7	0	0.0	27
		27	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 事前研修会において、同じ大学で研修をする先生方の様々な考えを聞くことができ、興味を持った研究テーマも多々あり、自分のテーマだけでなく、それらについても積極的に学んでいきたいと思いました。
・ 大学研修では、我々の英語力向上を図るねらいと、教員としての授業力向上を図るねらいがバランス良く織りこまれており、計画的で有意義な授業ばかりでした。
・ 大学での授業は、研修参加者のそれぞれのニーズに合った内容にアレンジされていて、役立つ内容でした。
・ 大学のどの先生も、どの授業もアカデミックでプロフェッショナルなものだった。知識も増えたが教え方も学べ大変良い研修となった。また大学の先生方が日本の教育システムや教師の仕事内容をよく知っておられ、とても理想的な授業で、スキルだけでなく私達に合ったやり方や、指導法を教えて下さり、それが大変ありがたかった。
・ 大学で、もう少し多くの活動や、多くのスキルを学びたかったという気持ちはあるが、指導法を変える良いきっかけを作ってくれたということ、改善したいという思いを実行できたことはとても大きい。
・ 事後研修会での活用事例の発表を聞き、同じ内容を大学で学んだが、それぞれ、アレンジを加えて、授業で使っていることを知り、参考にしたいものをたくさん吸収することができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 前年度の派遣先大学での研修内容に、日本の学習指導要領には合わない内容があったとの参加者からの意見を受けた。そのため、海外派遣研修開始前に、学習指導要領を派遣先大学に送り、教授陣に日本の英語教育について事前に理解し、より日本の学習指導要領に沿った内容の研修を行うよう促した。
・ 大学研修最終週に2ヶ月間のまとめとなるプレゼンテーションを各大学で実施した。
また、同じく最終週にTOEFLの試験を行っており、プレゼンテーションの準備に集中している時期にTOEFLの試験を受けても集中できないという意見を受け、大学研修の負担軽減を図るため、帰国後の事後研修会で実施した。
次年度に向けて
・ 派遣先大学で学ぶ教授法や言語活動の意味をより理解できるよう、講師陣から研修内容に関して実施目的や、活動の必要性を常に研修参加者に意識付けしてもらい、研修内容をより深く理解させる。
・ 海外派遣研修後の成果を研修参加者がどのように授業で反映させているのかについて情報共有を図ることを主とした内容で事後研修会を実施したが、そこに研修成果を各地域に広めるためにどのような方策があるのかという観点から、グループディスカッションをする研修手法を用いたコマを新たに設ける。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	8	5/10(木)～11(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/23(土)～8/20(月)	59	11/29(木)～30(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)
	バーミンガム大学	7		6/29(金)～8/27(月)	60	
アメリカ	デンバー大学	12		7/15(日)～9/11(火)	59	
計		27				

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにこれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年10月15日（月）～平成24年10月19日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	149	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 270 人、参加率 122.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	122	81.9	27	18.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	149
		149		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・ 広い視野で物事を考える大切さを知り、全国の先生方との情報交換ができてよかった。 ・ 組織的対応は必須なので、全教職員が少しでも多く研修の機会を与えられるべきです。 ・ 研修内容が多くて、講師の先生がとても早口になっていたのが気になりました。 ・ 戦略マップ作成は、自校のものも作りたかったです。時間が欲しかった。 ・ 自分がいかに狭い枠の中で物事を考える傾向にあるのか、ということを感じ知らされた。研修（校内）に生かしたい演習であった。 ・ リーダーシップについて自分の組織でのあり方や学校組織と重ね合わせて考えることができた。 ・ 今後の研修の構想（各自）についてもう少しグループの方と意見を出し合うことができると、より具体性が出てくるように思いました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 平成23年度は、事務処理の情報化による業務改善に係る事例であったが、学校の事務長からの報告であったがために、多様な現場から参加している受講者のニーズと必ずしも噛み合いにくい面があり、改善点、問題点の考察が深まりにくい状況があった。今年度は、多くの学校が共通して困難を感じている学校WEBページの運営について、省力化を進めている学校からの実践報告としたことから、多くの質問もあり考察が深まった。
次年度に向けて ・ 協議の深化をさらに促進する観点から、受講者の属性を現在の2種から4種に細分化してグループ編成を行う。 ・ 教育現場の経営資源として最も重要な「人」のマネジメントを重視する観点から、演習を伴う新講座「やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント」を設ける。 ・ 研修全体のストーリー化を進める観点から、全体を見通したプロローグ的な演習、具体には受講者に課したSWOT分析による事前課題のグループでの協議「事例校の検討」を初日に設ける。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程表

平成24年10月15日(月)～平成24年10月19日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日 10/15			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官	屋食・休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法 ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	諸連絡								
第2日 10/16	演習 学校コンサル テーション の実際(1)	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス代表取締役社長 桑畑 英紀			屋食・休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとっての マネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 (1)地域との連携 (2)学校からの情報発信 講評: 国士館大学教授 北神 正行	諸連絡							
第3日 10/17	演習 学校コンサル テーション の実際(2)	休憩	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 竺沙 知章			屋食・休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント (1) 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント(2) 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡							
第4日 10/18	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	屋食・休憩				演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	諸連絡										
第5日 10/19	オリエンテーション	演習・講義 学校コンサルテーションの実際(3) ～研修講師となるために～ 群馬県立女子大学講師 飯野 眞幸				閉講式	諸連絡										

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにこれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成24年10月29日（月）～平成24年11月 2日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	121	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 270 人、 参加率 122.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	100	21	0	0	0	0	121
割合 (%)	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	121	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段接することのできない素晴らしい講師の先生方との出会いが非常に刺激的であった。 ・ リーダーシップとは何かがはっきりとつかむことができました。また、マネジメントを進めるときにリーダーが果たすべき仕事内容も明確につかむことができました。 ・ グループでの情報交換は、自校の課題を客観的に見つめ直す機会になり、有意義であった。 ・ 戦略マップの作成を通し、学校経営について再度見直し、様々な視点から”学校”について考えることができた。 ・ 「学校のあるべき姿」をまず考え、現状とのギャップを埋めて行くことが重要であると理解した。 ・ 長時間しゃべりっぱなしの講義はさすがにきついです。その間に1、2回隣との意見交換などを入れていただくと効果大です。 ・ 今回の内容について、もう少し長い時間をかけて演習をできる機会があれば、更に理解が深められると感じました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 平成23年度は、事務処理の情報化による業務改善に係る事例であったが、学校の事務長からの報告であったがために、多様な現場から参加している受講者のニーズと必ずしも噛み合いにくい面があり、改善点、問題点の考察が深まりにくい状況があった。今年度は、多くの学校が共通して困難を感じている学校WEBページの運営について、省力化を進めている学校からの実践報告としたことから、多くの質問もあり考察が深まった。
次年度に向けて ・ 協議の深化をさらに促進する観点から、受講者の属性を現在の2種から4種に細分化してグループ編成を行う。 ・ 教育現場の経営資源として最も重要な「人」のマネジメントを重視する観点から、演習を伴う新講座「やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント」を設ける。 ・ 研修全体のストーリー化を進める観点から、全体を見通したプロローグ的な演習、具体には受講者に課したSWOT分析による事前課題のグループでの協議「事例校の検討」を初日に設ける。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程表

平成24年10月29日(月)～平成24年11月2日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	
第1日 10/29			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官	屋食・休憩	屋食・休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法 ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～									諸連絡
第2日 10/30	演習 学校コンサル ティング の実際(1)	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス代表取締役社長 桑畑 英紀				屋食・休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとつての マネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 (1)地域との連携 (2)学校からの情報発信 講評：国士館大学教授 北神 正行							諸連絡	
第3日 10/31	演習 学校コンサル ティング の実際(2)	休憩	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 笠沙 知章				屋食・休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント (1) 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント(2) 早稲田大学教授 河村 茂雄							諸連絡	
第4日 11/1	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一							屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一									諸連絡
第5日 11/2	オリエンテーション	演習・講義 学校コンサルティングの実際(3) ～研修講師となるために～ 群馬県立女子大学講師 飯野 眞幸			閉講式													

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。					
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年11月5日（月）～平成24年11月9日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	123	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 581 人、参加率 107.6% （第1～4回の合計）
※ 事務職員対象 320 人、受講者数 311 人、参加率 97.2% （第3～4回の計）
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	72	58.5	51	41.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	123
		123		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・当初、出張命令が出た時、私には荷が重すぎる研修に不安だらけで、研修初日を迎えました。初日から「学校組織マネジメント」という言葉の嵐に、洗脳され少しずつ興味をもつようになってきました。最終日になってももちろん100%理解できたわけではありませんが、概要だけでも職場に持ち帰り、その後は自分で内容を深めたいと思いました。
・他県の方々との情報交換ができて、大変有意義だった。
・それぞれの講師の方が、いろいろな切り口から講義をされ、とても参考になった。また他県の方と多く話することにより、貴重な情報交換の場となりました。5日間はかなり長いと感じていましたが、実際、経験してみるとこの位の時間は必要なのかなと、今は感じています。貴重な経験ができました。感謝の一言です。
・これまで何度かマネジメント研修を受け、マネジメントの必要性、課題の解決手法等について、ある程度理解しておりましたので、その確認となり、大変有意義な研修でした。特に今回は私自身あまり意識していなかった新学習指導要領、学校評価についての講義を受講出来たので、貴重な時間となりました。
・管理職の一員である事務長として、学校を運営していくことは、学校長の方針のもと全職員のそれぞれの担当に応じた、経営に参画して校務を効率的、機能的、効果的に行い、組織として特色ある学校づくりに邁進させていく必要があることを理解した。ここで得た知識・技能を持ち帰り、地域・ブロック等で中核となる事務長として役立てていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・演習の流れを変え、演習3で分科会発表、演習4で全体発表とした。その後の振り返りで自身が持ち込んだ、事前課題の改善策を見直すようにした。
次年度に向けて
・引き続き、学校事務職員の参加増を促し学校組織マネジメントを推進する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

※演習 1, 2, 3, 4 については原則として以下に分かれて実施

1. 普通科
2. 専門学科
3. 総合学科
4. 特別支援学校

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。					
受 講 対 象	小学校及び中学校の事務長及びそれに準じる者であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等として、活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成25年2月25日（月）～平成25年3月1日（金）					5日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	188	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 581 人、参加率 107.6% （第1～4回の合計）
※ 事務職員対象 320 人、受講者数 311 人、参加率 97.2% （第3～4回の計）
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	153	81.4	32	17.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	1	0.5	188	
		185		98.4											

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修会では、これまでと別の視点で学校をみること、事務職員でなければできない学校改善があること等々多くの知恵を得ることができた。
・これからの学校のあるべき姿を知り、事務職員としてどのようにかわっていくべきか学ぶことができた。経験年数ばかりが増えマンネリ化した部分があったが、地域を背負う中堅職員として知識や意欲を高めて行きたい。またこの研修で得たものを機会を捉えて伝達し地域事務職員の資質向上の一助としたい。
・受講前は不安もありましたが、多くの先生方の講演を聴講し、グループで具体的に演習してみて、今学校でみんながんばっていることをつなぎ合わせることで、もっともっと活力ある良い学校になるのではないかと少し意欲が出てきました。何か一つでも取り組んでみたいと思います。多くの（全国の）仲間との交流もとても貴重でした。
・今、私たち事務職員が何をすべきかを深く考えることができた5日間だった。考えるだけでなく、必ず実践に結びつけると共に、広く伝達していきたい。5日間はとても短く感じられ、もう少し勉強したい気持ちでいっぱいだが、学校を空けることのできる限界の日程。今後は自学で継続して学んでいきたい。
・学校組織マネジメントとは何か理解できました。学校にもどり今回の研修で得たものを活かしていきたいです。新しい見方、新しい課題解決方法を学ぶことができてとても有意義な時間を過ごせました。ここで終わりにしないようにしたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・演習のねらいや進め方についてより詳しく説明し、演習の充実を図った。
次年度に向けて
・引き続き、学校事務職員の参加者増を促し、学校組織マネジメントを推進する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第4回)日程表
～小・中学校事務職員～

	9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	14:30 14:45	15:00	17:00
2月25日(月)	受付	オリエンテーション 開講式	課題協議1 「教育改革の動向と学校経営」 目的:最新の教育改革及び制度について理解を深める	昼 食	休 憩	課題協議2 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 目的:新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休 憩	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について共有する

	9:00	11:45	12:45	17:00
2月26日(火)	課題協議3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 目的:学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	休 憩	講義 「学校組織マネジメント①」 東京学芸大学客員教授 藤原 和博 目的:学校組織マネジメントの実践について	

	9:00	12:00	13:00	15:00 15:15	17:00
2月27日(水)	講義・演習1 「学校組織マネジメント②」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る	休 憩	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 滋賀県長浜市立湯田小学校 主任事務主査 松田 幸夫 事例発表② 鳥取県米子市立尚徳中学校 事務主幹 中原 千代美 目的:特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る	休 憩	演習2 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的:学校運営における事務職員の役割について振り返る

	9:00	12:00	13:00 13:30	17:00
2月28日(木)	講義・演習2 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める。	休 憩	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 目的:学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する	

	9:00	11:00 11:15 11:30	12:00 12:15
3月1日(金)	演習4 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 発表 目的:学校運営における課題に対する解決方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割について理解を深める	休 憩	指導助言 閉講式 研究協議 「研修講師となるために」 目的:研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める

【演習3、4 指導助言】
静岡県袋井市立袋井北小学校 総括事務主幹 横山 泉
兵庫県芦屋市立潮見中学校 学校副主幹 鳥本 安博
神奈川県川崎市立宮前小学校 事務主幹 田辺 徹馬
金沢市立鳴和中学校 事務主査 佐々木 信夫
岩手県一戸町立奥中山小学校 事務主任 阿部 貴子
埼玉県加須市立花崎北小学校 事務主幹 飯島 由美子

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成24年9月19日（水）～平成24年9月21日（金）					3 日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	101	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)					

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 242 人、 参加率 110.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	95	94.1	6	5.9	0	0.0	0	0.0	101
		101	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 講師の先生方の講話やグループ演習等から言語活動の在り方や考え方についてたくさん情報を頂くと共にじっくり考えることができたことがとても有意義でした。ぜひ、地域に戻ったら今回の研修で得たことを積極的に広めていきたいと思いました。
・ 特に演習は自分を鍛える場になったと思います。全国から集まった見識の高い先生方に囲まれて自分の力量不足を感じることができました。地域に戻ってから研修講師をきちんと務めることができるよう、もう一度復習をしたいと思います。
・ 3 日間という短い期間でしたが、大変に内容の濃い充実した研修となりました。とくに 2 日目のアクションプラン作成では、グループ活動を通して、私自身が「主体的に学ぶ」体験をすることができ、普段子ども達はこの思いでグループで活動をしているのかな。などと改めて考えることもできました。又、言語活動における日々の悩み等がかなり解消できました。
・ 多くの専門の講師の先生方から講義を受けることができた。課題解決のために、思考し、わかりやすくまとめ、ポスターセッションするという、まさに、言語活動を体験し、言語活動の意義、理解を深めることができた。1 つのことだけを考えることのできる環境であり、時間的なゆとりであった。
・ 施設もすばらしく、講師の先生方やセンターの先生方が常に近くにいてくださり、聞きたいことを今すぐ聞くことができた満足と達成感のある研修でありました。私自身、指導主事 3 年目ですが、新たに学びたい、講師の先生方のお話をもっと聞きたいと学ぶ意欲が高まった研修会とすることができたこと、関係者の皆様に感謝申し上げます。大変めりはりのある研修であり、時間の過ぎるのがとてもはやく感じました。
・ 生徒の立場で行動する、他の人々の良い点をたくさん学ぶなど、普段ではできない経験を、たくさんさせていただきました。大いに刺激を受けました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 研修の波及効果を高めるため、受講生に研修プログラムの作成を行う「コース別演習 2 研修プログラムの作成」をもうけた。
・ 全体会「コース別演習の発表」については 3 0 分延長した。
次年度に向けて
・ 「研修講師となるため」にを拡充（9 0 分→1 5 0 分）する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

～各教科等における言語活動の充実に向けた指導者養成～ 平成24年度 国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
9月19日 (水)		受付	開 講 式 ・ オリ エン テー ション	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一 ◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえた本研修のねらいの共有及び3日間の研修内容を知り研修を受講するにあたっての心構えを理解する。	休憩	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 つくば国際大学 教授 入部 明子 2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 一小学校 弘前大学教育学部附属小学校 教諭 秋田 真 一中学校 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 教諭 井上 祐介 一高等学校 愛知県立時習館高等学校 教諭 山内 美穂 ・講評 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。	昼休み	休憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 ③高等学校部会 文部科学省初等中等教育局 視学官 西辻 正副 ◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義について理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際の手立てを理解する。	

第2日目

	【学校全体のアクションプラン作成コース】										17:00
9月20日 (木)	9:00 コース別演習1 「学校全体のアクションプラン作成」 一初等分科会 東京大学海洋ライアンス海洋教育促進研究センター上席主幹研究員 宮崎 活志 (前文部科学省初等中等教育局 視学官) 京都市立錦林小学校 校長 山本 早苗 一中等分科会 横浜国立大学 教授 高木 展郎 栃木県小山市立小山第二中学校 校長 中島聖巳 ノートルダム清心女子大学 准教授 大滝 一登 ◎目的：言語活動の充実が学校全体と各地域で取り組むために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を得る。 【各教科等での学習指導計画作成コース】 9:00 コース別演習1 「各教科等の学習指導計画作成」 一 国語 文部科学省初等中等教育局 視学官 西辻 正副 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 一 社会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 村瀬 正幸 一 算数・数学 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水谷 尚人 一 理科 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 清原 洋一 一 総合 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 田村 学 ◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などについての知識・方法を得る。										17:00
	コース別演習2 「研修プログラムの作成」 ◎目的：コース別演習1で作成した「学校全体のアクションプラン」を基に、各地域等での研修プログラムを作成する際の知識・方法を得る。										
	コース別演習2 「研修プログラムの作成」 ◎目的：コース別演習1で作成した「各教科等での学習指導計画」を基に、各地域等での研修プログラムを作成する際の知識・方法を得る。										

第3日目

	9:00	12:00	13:00	14:30
9月21日 (金)	全体会 「コース別演習の発表」 ◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	昼 休 み	研究協議 「研修講師となるために」 東・西 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 大分市教育委員会 主幹 佐藤 さゆり 岡山市立西大寺小学校 教諭 石原 洋一 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年7月25日（水）～平成24年7月27日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	141	人	参加率
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 242 人、 参加率 110.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	125	88.7	16	11.3	0	0.0	0	0.0	141
		141	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・コース別演習において、グループの先生方と一つの指導計画を作成していく過程が有意義でした。特に作成したものに 対して講師から直接指導していただいたことも有り難かったです。どういう点に気をつけるべきかを具体的な指導計画の 作成の中で指摘していただいたので、今後、研修等で講師をするに役立てていきたいと思います。
・国語力向上を実現するための言語活動の充実に、そのあり方や取り組みを非常に充実したプログラムで学ぶことが できました。教科（国語科）としての取り組みや学校全体としての取り組みの具体的な例を多く知り、有意義な研修でし た。今後自校や所属する区などの研修会等で、今回学んだことを伝えるとともに、さらに自身の実践を磨いて多くの子供 たちや先生方に、言語活動の充実の重要性について自分の姿を通して伝えられるよう研鑽を深めていきたいと思いま す。
・分かりやすい講話（何度も重要と思われる所を繰り返しお話されるスタイル）は、大変役に立ちました。単元を貫く言 語活動という同一テーマで、グループ研修できたことも有意義でした。パネルディスカッションでは5つのブースの発表 を聞き、今後の授業に活かしていきたいと思いました。その後の班別話し合いで書いていただいた紙を基に、もう一回振 り返ることができました。今後この研修で学んだことが、少しでも活かせるように心がけていきたいと思いま す。
・言語活動の充実について学ぶ機会は今までもありましたが、講師の先生方から直接お話が聞けたり質問できたりし た事で、分からなかったことや誤解していたことが明らかになりました。学んだ理論を演習で生かすことで、理解がさらに 深まったと思います。今回の学びを生かして授業実践を行うだけでなく、研修会等での提案につなげていきたいです。大 変充実した3日間となりました
・今回の研修には研究主任という立場で参加させて頂いた。言語活動の充実へ向けた様々な方策を知ること、言語活動を 意図的に組み込んだ授業の有効性等、大変参考になる部分が多かった。また、自分自身が課題と思っていること等をグ ループで話し合うことで解決の糸口を見つけたり、共有したりすることもよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・研修の波及効果を高めるため、受講生に研修プログラムの作成を行う「コース別演習2 研修プログラムの作成」をも うけた。
・全体会「コース別演習の発表」については30分延長した。
次年度に向けて
・「研修講師となるために」を拡充（90分→150分）する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

～各教科等における言語活動の充実に向けた指導者養成～ 平成24年度 国語力向上指導者養成研修 日程表

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
【西部】 7月25日 (水)		受 付	開 講 式 ・ オリ エン テー シ ョ ン	課題協議1 「言語活動の充実の在り 方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一 ◎目的：言語活動の充実に 関する現状と課題、意義・ 目的を踏まえた本研修のね らいの共有及び3日間の研 修内容を知り研修を受講す るにあたっての心構えを理 解する。	休 憩	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 つくば国際大学 教授 入部 明子 2. 国内における取組 ・事例発表 一小学校 福岡教育大学附属久留米小学校 教諭 河鍋 有一 一中学校 広島県廿日市市立大野東中学校 教諭（研修主任） 岡田 信彦 一高等学校 大阪府立大手前高等学校 首席 宮城 憲博 ・講評 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、 国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法につい て理解を深める。	昼 休 み	休 憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 ③高等学校部会 横浜国立大学 教授 高木 展郎 ◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義につ いて理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際 の手立てを理解する。	

第2日目

	【学校全体のアクションプラン作成コース】										17:00
【西部】 7月26日 (木)	コース別演習1 「学校全体のアクションプラン作成」 一初等分科会 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター上席主幹研究員 宮崎 活志 (前文部科学省初等中等教育局 視学官) さいたま市立教育研究所 主任指導主事 大森 恵美子 一中等分科会 横浜国立大学 教授 高木 展郎 ノートルダム清心女子大学 准教授 大滝 一登 広島県廿日市市立大野東中学校 校長 門戸千幸 ◎目的：言語活動の充実の学校全体や各地域で取り組むために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を得る。					休 休 み	コース別演習2 「研修プログラムの作成」 ◎目的：コース別演習1で作成した「学校全体の アクションプラン」を基に、各地域等での研修プ ログラムを作成する際の知識・方法を得る。				
	【各教科等での学習指導計画作成コース】										17:00
	コース別演習1 「各教科等の学習指導計画作成」 一国語 文部科学省初等中等教育局 視学官 西辻 正副 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 一社会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 村瀬 正幸 一算数・数学 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 笠井 健一 一理科 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 村山 哲哉 一総合 愛知教育大学 准教授 久野 弘幸 ◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などについての知識・方法を得る。					休 休 み	コース別演習2 「研修プログラムの作成」 ◎目的：コース別演習1で作成した「各教科等 での学習指導計画」を基に、各地域等での研修プ ログラムを作成する際の知識・方法を得る。				

第3日目

	9:00	12:00	13:00	14:30
【西部】 7月27日 (金)	全体会 「コース別演習の発表」 ◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について 理解を深める。	休 休 み	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 大分市教育委員会 主幹 佐藤 さゆり 岡山市立西大寺小学校 教諭 石原 洋一 ◎目的：各自が本研修の成果等をもと に、研修講師となるための知見を深め る。	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成24年6月4日（月）～平成24年6月8日（金）				5 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	233	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)					

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 856 人、 参加率 97.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	205	88.0	27	11.6	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	233
		232		99.6										

2. 研修内容に関する主な意見

・本研修を通じて、現場に道徳教育の推進を図るにあたり、抽象的な耳障りの良い言葉ではなく、学校の実情に応じた具体的でシンプルな目標を設定し、それを学校の諸活動に落とし込む形の全体計画を作成し、教職員の理解の上に指導を実践することの重要性を強く感じた次第です。今後、本研修で学んだことを踏まえ、道徳教育の推進に努めてまいりたいと思います。5日間お世話いただきました先生方に心より感謝を申し上げます。
・地元ではなかなか聞くことのできないすばらしい講師の先生方の講義や指導助言を受けることができ、自分の勉強不足と自校の取組の遅れを痛感した。持ち帰ったことを多くの先生方へ伝達し、今後の研究を進めていきたい。また日本全国から参加された先生方と交流ができたことが、何より有意義だった。この絆をつないで、地元のために貢献していきたいと思う。5日間本当にありがとうございました。
・法令、学習指導要領等を根拠にしながら、道徳教育を推進する上での理解しておく内容を分かりやすく教えていただいた。あいまいに理解していた点も明確になり、大変勉強になった。校種、地域、立場が様々で、それぞれの実践や考え方などを情報交換できたことも、とても有意義だった。特に授業づくりでは、ねらいとする価値についての話し合いをする中でも手法の点でも、視野が広げられる充実した研修ができた。あつという間の五日間でした。持ち帰るものがたくさんできました。ありがとうございました。※プレゼンテーションの手配など、ていねいに対応していただき、感謝でいっぱいです。
・実際に自分で言い直してみないと、どこまで理解が深まったかは、自信がありませんが、少なくともグループで話し合いをした時、自分の理解が間違っていないと感じ、うれしかったです。また、多くの地域の先生方と交流できたこと、本当に地域によって実態が違うのだと実感できたことは財産だと思います。ありがとうございました。今後に生かしていきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「研修講師となるために」の内容の改善。
次年度に向けて ・2日目の最後のコマを「心のノートの活用方法」とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日程表

第1日目		12:00 12:30 13:00				14:40 15:00		17:00	
6月4日 (月)			受 付	開 講 式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達の段階に応じた指導内容の重点化－」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ		
第2日目									
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00	
6月5日 (火)	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 【授業づくりの要点1】 東京学芸大学教授 永田 繁雄 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	課題協議3 「体験活動や実践活動を通した道徳教育」 【授業づくりの要点2】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解を深める	昼 休 み	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：網走市立白鳥台小学校教諭 小中 理司 中学校：尾道市立久保中学校教諭 松本 好弘 特別活動：熊本市立本荘小学校教諭 竹下 夏美 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	休 憩	課題協議4 「人間としての在り方生き方を考える」 文教大学人間科学部 准教授 石橋 昭良 ◎目的：人間としての在り方生き方を見つめなおし、児童生徒とともによりよい生き方を求める姿勢を育む		
第3日目									
	9:00	11:30			12:30	14:00 14:15	17:00		
6月6日 (水)	小・中部会 演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（模擬、「心のノート」の生かし活動）」 【授業づくりの要点3】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る ＜小・中学校部会：演習2・3指導助言者＞ 渋谷区立加計塚小学校校長 高橋 紀彰子 岐阜市立園部小学校校長 河合 宣昌 鳥取県教育委員会指導主事 半田 雅人 青森県総合学校教育センター指導主事 毛内 嘉威 深谷市教育委員会指導主事 浅見 哲也 国立市立国立第二小学校副校長 齋藤 賢二 葛飾区立堀切中学校校長 永林 基伸 新座市立新座中学校校長 五十嵐 由和 杉並区立東田中学校校長 福田 鉄雄 北区立飛鳥中学校長 鈴木 明雄 兵庫県立教育研修所義務教育研修課長 馬場 勝 京都市総合教育センター指導主事 鈴木 克治	休 憩	事例発表・協議 「「道徳の時間」の充実を図るために」【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る	昼 休 み	小・中学校部会協議 「「道徳の時間」の充実を図るために」【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る	休 憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力ある教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	休 憩	
	9:00	10:15 10:30	11:30	12:30	14:00 14:15	15:45 16:00	17:00		
高校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 岐阜県立恵那南高等学校 教諭 安藤 和昭 ◎目的：具体的事例を通して、高等学校における道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	昼 休 み	演習5 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院教授 谷田 増幸 ◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習6 「人間としての在り方生き方に関する各教科等における具体的な教材研究・実践」 くらしき作陽大学教授 秋山 博正 文京学院大学教授 小泉 博明 ◎目的：各分科会ごとに模範授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める	全体会・演習のまとめ		
第4日目									
	9:00	12:15			13:15 13:45	17:00			
6月7日 (木)	小・中部会 演習4 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討ー」 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等学ぶ	休 憩	休 憩	模範授業・協議1 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅱー模範授業の発表・協議ー」 〈指導助言者〉 町田市立町田第四小学校校長 大原 龍一 （財）総合初等教育研究所 馬場 喜久雄 世田谷区立池之上小学校校長 北村 博 さいたま市立慈恵寺小学校教諭 藤澤 美智子 春日部市教育委員会学校教育専門員 山西 実 高知大学教育学部准教授 田邊 重任 相模原市立青少年相談センター嘱託 藤村 公三郎 台東区立駒形中学校校長 木村 俊二 ◎目的：各分科会ごとに模範授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める	休 憩				
	9:00	12:00	13:00	14:45 15:00	発表・講評				
高校部会	演習7 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院教授 谷田増幸 くらしき作陽大学教授 秋山博正 文京学院大学教授 小泉博明 ◎目的：全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る	休 憩	休 憩						
第5日目									
	9:00	12:00			13:00	14:40			
6月8日 (金)	模範授業・協議2（代表班発表） 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅱー模範授業の発表・協議ー」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 （小・中部会）◎目的：各分科会の代表班が模範授業を行い、「道徳の時間」の充実に向けた指導の展開方策について理解を深める （高校部会）◎目的：小・中学校における「道徳の時間」の授業の実践について理解を深める	休 憩	昼 休 み	課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式				

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）北海道・東北ブロック					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成24年8月1日(水)～8月3日(金)					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	103	人 参加率 ※
開 催 場 所	パーティギャラリーイヤタカ（秋田県秋田市）					

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 856 人、参加率 97.3%
(全体計画人数)
※ ブロック別 660 人、受講者数 623 人、参加率 94.4%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	80	77.7	20	19.4	0	0.0	0	0.0	103
		100	97.1							

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳教育に求められていること、その背景について学べるいい機会となった。 ・道徳教育をどう推進していくのか、指導要領の趣旨から、自校の重点化を図ることなど、大変詳しく教えていただきました。また班別協議などでは各校の推進状況、課題等について具体的に話し合うことができ、大変有意義だと感じました。学校、地域に戻りましたら、実践していきたいです。道徳の推進体制を作り、重点を整理し、少しでも前に進むよう、全職員で取り組んでいきたいと思います。3日間の研修、ありがとうございました。 ・生徒の実態を正しくとらえ、明確な意図のもと計画的な指導をしていきたい。また、道徳だけでなく教育活動全体において、一つの船を一つの方向へ全員で進めていくような学校づくりを目指したいと思った。 ・研修を通して、まず、自分自身が道徳教育についてもっと学びたい、もっと実践を深めていきたいという思いを強くしました。特に、特別活動の講義では、特別活動の取組から道徳教育に焦点をあてたお話でしたが、日本の教育がいかに優れたものであるかや教師の共通理解のもとで教育を進めることの大切さ、子どもを学校・学級づくりにリアリティをもって参画させることの意義など、印象強く残っています。我々教師が熱い思いをもち、自信とプライドをもって教育にあたらなければいけないと強く感じることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。 ・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。
次年度に向けて ・小中学校部会の演習2. 3の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）

日程表

	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月1日（水）								
		開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指すして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休 休 休	課題協議2 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	休 休 休	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	
		受 付	◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
8月2日（木）								
		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 奥州市立師体小学校 教諭 高橋 幸枝 仙北市立西明寺中学校 教諭 武村 亜樹子 教諭 鎌田 真寿美	休 休 休	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 秋田市立明徳小学校 教頭 大友 智加司 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 畑 朋幸 鹿角市立八幡平中学校 教頭 田中 洋 横手市立平鹿中学校 教頭 高橋 成浩	休 休 休	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 秋田市立明徳小学校 教頭 大友 智加司 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 畑 朋幸 鹿角市立八幡平中学校 教頭 田中 洋 横手市立平鹿中学校 教頭 高橋 成浩	休 休 休	発表・協議
	受 付	◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る						
		高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 兼松 儀郎	休 休 休	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 山形県立谷地高等学校 教諭 加藤 浩	休 休 休	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 兼松 儀郎	休 休 休	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る						

	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
8月3日（金）						
		課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 七條 正典	休 休 休	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉 講 式	
	受 付	◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる		

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）関東・甲信越ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年10月31日(水)～11月2日(金)					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	120	人	参加率
開 催 場 所	ベルクラシック甲府（山梨県甲府市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、受講者数 856 人、参加率 97.3%

※ ブロック別 受講定員 660 人、受講者数 623 人、参加率 94.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	97	80.8	21	17.5	0	0.0	0	0.0	2	1.7	0	0.0	120	
		118		98.3											

2. 研修内容に関する主な意見

・中央研修に準じる研修ができたと感じている。さらに自己研さんに励み、地域の道徳教育の推進のために力を尽くしていきたい。本研修に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。

・大きくとらえていた道徳について、具体的に課題を見つめ、解決法を見出していくことの大切さ実感しました。様々なご講話や協議・演習を通して、今すぐに実践してみたいと触発される機会を得ました。また、まだ残る疑問点や課題意識も、研修前よりも具体的に、そして明確になり、今後何をしていくべきかを発見することができました。本当にありがとうございました。

・道徳教育について、これだけじっくりと研修を深める機会にめぐり逢えてよかった。今回研修したことで、できたことは財産と思う。まず、早急にやらなければならないことは、実態の把握と重点化である。来年度にむけて計画の見直し、立案を進める必要がある。次に授業づくりを大切に、道徳の時間の充実に努めていかなければならないと思いました。これまでの自分の取組をふり返り、課題が見い出せました。大変有意義な研修でした。ありがとうございました。研修を深めれば深めるほど、自分の学校に帰って、自分のクラスの子に会いたい気持ちが強くなりました。今、クラスの子にものすごく会いたい。

・分かりやすく説明して下さり、演習では同じグループの先生方がとても優しく親切に質問にも答えて下さり、参加して良かったなと思いました。学校に持ち帰って、今回の研修で学んだことを紹介したり、資料を提供したりしていきたいです。また別業の見直しも、重点目標や実態を再確認して行っていきたいです。

・文科省の調査官から直接話が聞けて、理解できたものがたくさんありました。今まで何度も伝達は受けていましたが、ただ説明という感じでじっくりこなかったもので、よい機会となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。 ・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。
次年度に向けて
・小中学校部会の演習 2. 3 の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）

日程表

	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
10月31日（水）								
		受 付	開 講 式	課題協議 1 「今、求められる道徳教育の充実を 目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳 教育の現状と課題について理解するととも に、推進の在り方について理解を深める	休 休 み	課題協議 2 「体験活動や実践活動を通じた道 徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育 の意義や役割について理解する	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた 指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指 導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
11月1日（木）								
	小・中学校部会 受 付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて 行う道徳教育の実践と課 題」 東京都葛飾区立本田小学校 主任教諭 陈村 望 都留市立都留第二中学校 教諭 後藤 由紀	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした 協力・指導体制の充実と計画づく り（体験活動、「心のノート」の 生かし方も含めて）」 山梨県総合教育センター 主幹 内藤 雅人 山梨県教育委員会富士・東部事務所 指導主事 土屋 実 山梨大学 教授 菟原桂	休 休 み	演習 3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含め て）」とその評価」 山梨県総合教育センター 主幹 内藤 雅人 山梨県教育委員会富士・東部事務所 指導主事 土屋 実 山梨大学 教授 菟原桂	休 憩	発表・協議
	高等学校部会 受 付	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 文教学院大学 教授 小泉 博明	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り 方生き方に関する教 育の実践と課題」 埼玉県立浦和東高等学校 教諭 永山 将史	休 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う 人間としての在り方生き方に関する 教育の展開」 文教学院大学 教授 小泉 博明	休 憩	発表・協議 「高等学校における 人間としての在り方 生き方に関する教育 の充実に向けて」

	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
11月2日（金）						
	課題協議 3 「心を育てる道徳教育の具体的展 開」 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 七條 正典 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理 解を深める	休 憩	課題協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成す るために、道徳教育についての理解を深 め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式		

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）東海・北陸ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年8月20日(月)～8月22日(水)					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	111	人	参加率
開 催 場 所	静岡県教育会館（静岡県静岡市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、受講者数 856 人、参加率 97.3%

※ ブロック別 受講定員 660 人、受講者数 623 人、参加率 94.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	85	76.6	24	21.6	0	0.0	0	0.0	1	0.9	1	0.9		111
		109		98.2											

2. 研修内容に関する主な意見

・このような学習の機会を与えて頂き、大変感謝している。なるほどと納得できる事が数多くあり、校内の教員達には是非伝えていきたいという意欲を持った。また、道徳教育推進教師をどのように活かしながら校内の道徳教育を推進していくかという点についても多くのヒントを頂いた。講師の先生方のお話がどれも印象的だった。研修のお世話を頂いた方々に感謝致します。有難うございました。 ・調査官等の説明を聞き、道徳教育全般の理解を深める事が出来た。自分のこれまでの指導は、要となる道徳の授業に限られた指導だったと反省する機会となった。もっと広い視野で道徳を見ていく必要性を感じた。演習では、多くの学校の事例を紹介して頂き、改めて、道徳教育においても、幼・小・中・高の連携の必要性を痛感した。 ・本校は昨年度から、道徳の時間を中心に学校研究に取り組んでおります。その中で、特に授業づくり、評価の在り方、行事等との関連について、疑問に感じることも多々ありました。今日、この研修を通して、学習指導要領に基づいて、具体的な手立てと、推進教師の在り方についても含めて、詳しく教えて頂きました。学校に帰って、是非、校内研修で広めていきます。有難うございました。 ・多く盛りだくさんの内容を集中して教えて下さり、有難うございました。研修を繰り返す事で、私自身もリフレッシュされたように思い有意義でした。少したりとも学校現場、子どもに返していけるようにと思います。 ・学校の教育計画を作成したり、研究・研修計画を立案したり、また自分の実践を進めていくにあたり、理論的な裏付けが出来、また交流によって実践のアイデアの幅をも広げる事が出来ました。道徳教育の重要性が再確認出来たことが今回最も勇気づけられたことであり、自信をもって道徳教育の推進にあたることが出来ると感じられるようになり、大変有意義でした。有難うございました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。 ・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。 次年度に向けて ・小中学校部会の演習 2. 3 の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度道德教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）

日程表

		9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月20日（月）	受付	開講式		課題協議1 「今、求められる道德教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休み		課題協議2 「心を育てる道德教育の具体的展開」 東京学芸大学 教授 永田 繁雄 ◎目的：道德教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	演習1 「道德教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

		9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
8月21日（火）	受付	小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 富士宮市立上野小学校 教諭 深澤 仁美 あま市立七宝北中学校 教諭 岡田 幸博	休 憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 静岡県総合教育センター 指導主事 佐野 記透 富士宮市立山宮小学校 教頭 水村 裕子 静岡県総合教育センター 主任指導主事 秋山 和徳 藤枝市立岡部中学校 教頭 金原 正高	星 休 み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 静岡県総合教育センター 指導主事 佐野 記透 富士宮市立山宮小学校 教頭 水村 裕子 静岡県総合教育センター 主任指導主事 秋山 和徳 藤枝市立岡部中学校 教頭 金原 正高	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」
		高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 埼玉県立浦和東高等学校 教諭 永山 将史	星 休 み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議
		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る							

		9:00	10:30	10:45	12:15	12:30		
8月22日（水）	受付	課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道德教育の意義や役割について理解する	休 憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道德教育推進教師を育成するために、道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる	閉講式			

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）近畿ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年8月22日（水）～8月24日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	94	人	参加率
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 880 人、受講者数 856 人、参加率 97.3%
※ ブロック別受講定員 660 人、受講者数 623 人、参加率 94.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	72	76.6	22	23.4	0	0.0	0	0.0	94
		94	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の学習指導要領の解説の中に出てくる言葉を具体的に知ることができたので、今後の研修会で活用できると思った。また、このことによって自分の中で今までぼんやりとしていたことがはっきりしたので、すっきりした気分になった。今回の研修を通して道徳に対して少し自信を持てたように思い、よかった。
・大変内容の濃い3日間でした。初めて知ることが多く、今後少しずつ学校現場に持ち帰り、実践していきたいと思います。2日目の模擬授業は実際の進め方の参考になり、大変ありがたいです。また、道徳は私たち大人にとっても、人間として生きていく上での生き方の「要」になると改めて感じました。私たちは人間を育てているのだということに襟を正し、誇りに思っ、二学期を清々しくスタートしたい、と思わせて頂いた3日間でした。お世話になり、ありがとうございました。道徳の研修らしく最後にほっと心があたたかくなる研修ばかりでした。
・たっぷりと道徳について学べました。普段時間もなく、なかなか目も通していなかった資料や指導要領など分かりやすく図式化して教えていただけ、理解が深まりました。また、他の府県の先生方との交流も意義あるものでした。講師の先生方は誰もご自分の経験（時には失敗も交え）を、もとにお話くださり、とてもわかりやすかったです。
・研修前にはもっと授業作りの内容を多く時間をとっていただきたいと思いましたが、ふり返ってみると推進教師に必要な内容を色々な角度から考え、計画してくださっており、有意義な研修となりました。同時に8/29スタートする2学期へのパワーもいただいたような気がします。ありがとうございました
・道徳教育と道徳の時間の歴史的・教育的背景から進め方、全体計画や別葉の立て方等、今まで漠然としてあったことが、具体的に丁寧に説明していただき、大変参考になりました。また、他府県、他校種の道徳教育推進担当の先生方と話がたくさん出来た事も有意義でした。特に中学校での道徳教育、道徳の時間の進め方が学校を大きく変えていることを実感できたので地元に戻ってからぜひ報告したいです。演習3での指導主事先生による授業も大変よかったし、資料分析の方法や中心発問までの留意点の在り方が参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。
・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。
次年度に向けて
・小中学校部会の演習2、3の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（近畿ブロック） 日程表

	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月22日（水）		受付	開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を 目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳 教育の現状と課題について理解するととも に、推進の在り方について理解を深める	昼休み	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展 開」 関西外国語大学 教授 小寺 正一 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理 解を深める	休 憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた 指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実務事例に学ぶとともに、発達段階を踏まえた指 導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
8月23日（木）	小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて 行う道徳教育の実践と課 題」 大阪市立東中本小学校 校長 坂部 俊次 寝屋川市立第十中学校 教諭 山本 順子	休 憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした 協力・指導体制の充実と計画づく り（体験活動、「心のノート」の 生かし方も含めて）」 枚方市立教育委員会 主幹 嶋田 崇 大阪府教育センター 指導主事 藤田 卓也 堺市教育委員会 指導主事 杉中 康平 忠岡町教育委員会 参事 小山 昌二	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含め て）とその評価」 枚方市立教育委員会 主幹 嶋田 崇 大阪府教育センター 指導主事 藤田 卓也 堺市教育委員会 指導主事 杉中 康平 忠岡町教育委員会 参事 小山 昌二	休 憩	発表・協議 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る
	高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 広島県教育委員会 指導主事 指磨 寛宗	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り 方生き方に関する教 育の実践と課題」 兵庫県立猪名川高等学校 教諭 前田 晃男	昼休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う 人間としての在り方生き方に関する 教育の展開」 広島県教育委員会 指導主事 指磨 寛宗	休 憩	発表・協議 「高等学校における 人間としての在り方 生き方に関する教育 の充実に向けて」

	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
8月24日（金）	受付	課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた道 徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育 の意義や役割について理解する	休 憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成す るために、道徳教育についての理解を深 め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）中国・四国ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年8月6日(月)～8月8日(水)					3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	99	人	参加率 ※
開 催 場 所	ピュアリティまきび（岡山県岡山市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、 受講者数 856 人、 参加率 97.3%
※ ブロック別 受講定員 660 人、 受講者数 623 人、 参加率 94.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	63	63.6	35	35.4	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.0	99
		98		99.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・文科省の調査官をはじめ、たくさんの専門家の方々のお話を一度に聞くことができた貴重な経験であった。また同じ高校でも、県によって取り組みが異なる部分もあり大変参考になった。 ・私自身、道徳教育について研修が足りない我常常思っていました。この3日間の研修は私にとって、道徳教育を押し進めるための大変有意義なものになりました。研修に携わっていただきました皆様に感謝しております。 ・有意義な研修で参加して良かったです。あとはいかに自校で生かしていくかですね。頑張りたいと思います。ありがとうございました。 ・とても有意義な研修でした。高校での道徳教育は他校の先生も苦慮されていたり、情報が少なく不安な事が分かり、安心するとともにアンテナを高くして、各学校の現状にあった道徳教育を行っていくことが大切だと分かりました。講師の先生方もそれぞれ個性的な方で魅力ある講演だったと思います。 ・主として小中学校の道徳教育についての研修であったが、高等学校において道徳教育を推進していく上で、ヒントとなるものが多く有意義であった。この研修を学校に持ち帰り、還元していきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。 ・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。
次年度に向けて ・小中学校部会の演習2. 3の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（中国・四国ブロック）

日程表

		9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月6日（月）									
			開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」	
	受付	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行		◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	
8月7日（火）									
			事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」	発表・協議	
	受付	美作市立勝田小学校 指導教諭 内田 俊一 南国市立北陵中学校 教諭 釣井 智和 教諭 坂本 久美子		岡山教育事務所 指導主事（副参事） 守分 久人 備前市立伊部小学校 教頭 高松 克地 岡山教育事務所 指導主事（副参事） 村松 敦 岡山県総合教育センター 指導主事 中川 雅之		岡山教育事務所 指導主事（副参事） 守分 久人 備前市立伊部小学校 教頭 高松 克地 岡山教育事務所 指導主事（副参事） 村松 敦 岡山県総合教育センター 指導主事 中川 雅之		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る	

		9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
8月7日（火）									
			高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に關する教育の展開」	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に關する教育の実践と課題」	昼休み	演習3 「人間としての在り方生き方に關する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に關する教育の充実に向けて」
	受付	くらしき作陽大学 教授 秋山 博正		鳥取県立智頭農林高等学校 教諭 中野 聡		くらしき作陽大学 教授 秋山 博正		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	

		9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
8月8日（水）							
			課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」	休憩	課題協議4 「研修講師となるために」	閉講式	
	受付	兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）九州ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年10月24日（水）～10月26日（金）					3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	96	人	参加率
開 催 場 所	グランデはがくれ（佐賀県佐賀市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、受講者数 856 人、参加率 97.3%
※ ブロック別 受講定員 660 人、受講者数 623 人、参加率 94.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	80	83.3	14	14.6	0	0.0	0	0.0	2	2.1	0	0.0	96
		94		97.9										

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の先生方と意見を交流することで、同じ悩みやそれぞれ独自の取組を知ることができました。特に模擬授業では授業の進め方や工夫など学ぶことはもちろんですが、生徒の立場（授業を受ける側）を体験してみて、とても新鮮でした。子どもの視点になって、資料を考えていくと、また資料のよさや活用の仕方が見えてくると思いました。今回の研修を通して、まず、自分ができることからはじめ、学んだことを他の先生方に伝えていきたいと思います。
・学校全体で行う道徳教育の在り方がよく分かった。小中学校における道徳教育推進体制の温度差を協議を通して感じた。発達段階においても中学校の段階は、課題が多く、結果をとわれるが、そうはできない状況にある。この研修を生かして、中学校の心の教育を充実させたいと考える。
・1日目、2日目と日をおうごとに内容が深まり、大変勉強になった。講師の先生方の感動的なお話、演習を通しての先生方の実践、模擬授業と内容が充実していて、有意義な研修だった。また、グループ協議では他県の先生方と実践に基づいた協議ができて、刺激を受けた。グルーピング、時間設定等がよかった。
・文部科学省の方が、現場の教員の立場で講義をしてくださったので、とても聞きやすく、心に響く講義だった。演習の中で、他県や他校の取り組みがよく分かり、知ることができたのでよかった。自分が教職生活の中で、これから何をしたいのか、何をすればいいのか、方向性が決まった気がしました。道徳教育をこれから推進していくためにがんばっていきたい。
・クラスには「聴く」ことを、体と心で聞く、と指導してきていることを今回の研修を通して、大切なことだと再確認できて良かったです。講師として活動するには更に研修が必要だと思いました。講師の先生方のわかりやすい魅力的なお話に感銘を受けました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・具体的な指導方法についてより理解を深めるため、講師による模擬授業を実施した。
・「研修講師となるために」において、研修プランの作成を行った。
次年度に向けて
・小中学校部会の演習2、3の中に心のノートの活用方法を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州ブロック）

日程表

	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
10月24日（水）		開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を 目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休み	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
10月25日（木）	小・中学校部会 受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて 行う道徳教育の実践と課題」 朝倉市立甘木小学校 主幹教諭 酒見 博文 伊万里市立国民中学校 教諭 小宮 広明	休み	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした 協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の 生かし方も含めて）」 伊万里市立波多津東小学校 校長 吉村 清美 北九州市立浅川小学校 校長 島津 勝憲 唐津市立鬼塚中学校 校長 久保 和彦 愛知県武豊町立武豊小学校 講師 柴田 八重子 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る	休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含め て）」とその評価」 伊万里市立波多東小学校 校長 吉原 清美 北九州市立浅川小学校 校長 島津 勝憲 唐津市立鬼塚中学校 校長 久保 和彦 愛知県武豊町立武豊小学校 講師 柴田 八重子	休み	発表・協議
	高等学校部会 受付	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休み	事例発表・協議 「人間としての在り 方生き方に関する教 育の実践と課題」 長崎県立西彼杵高等学校 教頭 國山 晴 士	休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う 人間としての在り方生き方に関する 教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休み	発表・協議 「高等学校における 人間としての在り方 生き方に関する教育 の充実に向けて」

	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
10月26日（金）	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展 開」 京都市教育委員会 指導部長 柴原 弘志 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理 解を深める	休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成す るために、道徳教育についての理解を深 め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式		

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	平成24年度学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成24年11月13日（火）～平成24年11月16日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	64	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 131 人、 参加率 119.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	54	84.4	0	0.0	2	3.1	0	0.0	64
		62	96.9							

2. 研修内容に関する主な意見

・何故「情報教育」ではなく、「教育の情報化」なのかが良く分かりました。今後、管理職として学校経営をする、あるいは若手教員を育てる等の一つの指針ができたと感じています。今後、学んだことを地域に還元し、また学校長となった際には、情報化推進の研究を深めてみたいとも考えています。 ・他県の情報交換が、全国的ICTの動きがよくわかった。また、ICTを活用して底辺底上げになるツールであることがよくわかった。県で今後の研修計画の中に提案していきたい。 ・一流の講師陣による研修は日本で唯一だと思いました。第1日目に主旨説明があり、第4日目にまとめるという流れも、自所属で生かせると思いました。また第2、3日目の講義・実践発表演習も、内容もちろんですが研修方法も大変参考になりました。 ・演習が多く、今後、研修講座構築にたいへん役立つものであり、そのヒントがたくさんあった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・海外の先進事例についての講義内容を盛り込んだ。（教育課題研修指導者海外派遣プログラムの成果活用）
次年度に向けて ・受講生の理解を深める為に「情報活用能力の育成」、「情報モラル」、「教科指導におけるICT活用」の順番を「教科指導におけるICT活用」、「情報活用能力の育成」、「情報モラル」の順番に変更する。 ・アンケート結果を踏まえ「教科指導におけるICT活用」をより充実させるために、講義時間を拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）
日程表

第1日目		9:30	10:00	10:40	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
11月13日 (火)	事務連絡	受付	開講式	【座席表①：講堂】 「新しい時代における学校教育の情報化」 講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	昼休み	【座席表①：講堂】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也	休憩	【座席表②：食堂棟3階】 ＜教育委員会・学校別＞ 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター 主幹 辻 慎一郎	
				◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。		◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。			
				◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。					
第2日目		9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00		
11月14日 (水)	事務連絡	【座席表①：講堂】 ＜学校種別①＞ 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 東北学院大学教養学部 准教授 稲垣 忠	【座席表③：食堂棟3階】 ＜学校種別①＞ 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 豊田 充崇	昼休み	【座席表②：食堂棟3階】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗		事例発表 宇都宮市教育委員会教育センター 情報・研修グループ 情報担当 手塚 浩 副主幹・指導主事 和歌山県教育庁教育総務局 政策推進員 藤田 勝範		
		事例発表 関西大学初等部 教諭 山中 昭岳	事例発表 亀岡市立南つづけ丘小学校 教諭 広瀬 一弥		◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるためのような学習活動を行えばいいのかについて検討する。				
		◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。							
第3日目		9:00	13:00	14:00	15:30	15:45	17:00		
11月15日 (木)	事務連絡	【座席表②：講堂】 ＜教科指導＞ 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 富山大学人間発達科学部 准教授 高橋 純	【座席表④：食堂棟3階】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗	昼休み	【座席表①：講堂】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗		事例発表 宇都宮市教育委員会教育センター 情報・研修グループ 情報担当 手塚 浩 副主幹・指導主事 和歌山県教育庁教育総務局 政策推進員 藤田 勝範		
		事例発表 米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子 富山県立砺波工業高等学校 教諭 河合 真智子	事例発表 宇都宮市教育委員会教育センター 情報・研修グループ 情報担当 手塚 浩 副主幹・指導主事 和歌山県教育庁教育総務局 政策推進員 藤田 勝範		◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。				
		◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。							
第4日目		9:00	12:00	13:00	14:15	14:30	15:00	15:15	17:00
11月16日 (金)	事務連絡	【座席表①：講堂】 ＜学校種別①＞ 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 横浜国立大学教育学部人間科学部 教授 野中 陽一	【座席表②：食堂棟3階】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗	昼休み	【座席表①：講堂】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗		閉講式		
		事例発表 札幌市立幌西小学校 校長 新保 元康 藤岡市教育委員会 学校教育課長 齋藤 俊明	事例発表 宇都宮市教育委員会教育センター 情報・研修グループ 情報担当 手塚 浩 副主幹・指導主事 和歌山県教育庁教育総務局 政策推進員 藤田 勝範		◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。				
		◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するかの戦略を考える。協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用の戦略について発表する。							

I 研修概要

研 修 名	平成24年度学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者					
開 催 期 日	平成25年1月28日（月）～平成25年1月31日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	67	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 131 人、 参加率 119.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	56	83.6	10	14.9	0	0.0	0	0.0
		66	98.5			1	1.5		67

2. 研修内容に関する主な意見

・研修参加前は、最先端のICT技術等を学び、推進していくという意識で臨んでいましたが、現場の先生方が誰でもできる情報化を推進していくことが大切であるという内容を多くの先生方から聴き、気負わずに、裾野の先生方に情報化の有効性について知っていただき、活用してもらうことが重要であるということを知ることができました。 ・基本的な考え方や方向性、そして戦略づくりに至るまで、今後の実践に直接つながる有意義な内容だったと思います。グループ編成が工夫されており、多様な地域・校種の方々の考えや情報を聞くことができ、よい刺激となりました。 ・1つ1つの項目ごとに、詳しく丁寧に学ぶことができて、大変有意義だった。「講義・事例発表・演習」という1つのパターンをくり返してくださることで、ICT分野が苦手な私にとっても分かりやすい研修だった。 ・日頃自分が実践していることの裏づけができたことと、ICT活用の最近の動向や他国の現状を学ぶことができた。 ・事前課題と講義演習がきちんとつながっており、素晴らしいと思います。また、必ず目的（研修の）を確認していただき、何をしているのか、何を理解しなければならないのかがわかります。授業もそうでなければならぬと再認識しました。ありがとうございました。（研修の仕方・進め方・運営についてもたくさんヒントをいただきました。）

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・海外の先進事例についての講義内容を盛り込んだ。（教育課題研修指導者海外派遣プログラムの成果活用）
次年度に向けて ・受講生の理解を深める為に「情報活用能力の育成」、「情報モラル」、「教科指導におけるICT活用」の順番を「教科指導におけるICT活用」、「情報活用能力の育成」、「情報モラル」の順番に変更する。 ・アンケート結果を踏まえ「教科指導におけるICT活用」をより充実させるために、講義時間を拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）
表
程
日

第1日目									
1月28日 〈月〉	9:30	10:00	10:40	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	
	受 付	開 講 式	オリエンテーション	【座席表①：講堂】 「新しい時代における学校教育の情報化」 講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	【座席表②：講堂】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也	休 憩	【座席表②：食堂棟3階】 ＜教育委員会・学校別＞ 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター 主幹 辻 慎一郎		
				◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。	◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。	◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。			
第2日目									
1月29日 〈火〉	9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00			
	【座席表③：食堂棟3階】 ＜学校種別①＞ 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 東北学院大学教養学部 講師 稲垣 忠	休 休 み	【座席表③：食堂棟3階】 ＜学校種別②＞ 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 豊田 充崇	休 憩	【座席表③：食堂棟3階】				
	事例発表 関西大学初等部 教諭 山中 昭岳	事例発表 鳥岡市立南つじヶ丘小学校 教諭 広瀬 一弥	◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるための具体的な学習活動を行えばいいのかについて検討する。	◎目的：情報モラルに関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。					
第3日目									
1月30日 〈水〉	9:00	13:00	14:00	15:30	15:45	17:00			
	【座席表④：食堂棟3階】 ＜教科別＞ 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 富山大学人間発達科学部 准教授 高橋 純	休 休 み	【座席表④：食堂棟3階】 ＜学校種別②＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学大学院教育学研究科 教授 新地 辰朗	休 憩	【座席表⑤：食堂棟3階】				
	事例発表 米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子 富山県立砺波工業高等学校 教諭 河合 真智子	事例発表 宇都宮市教育委員会教育センター 情報・研修グループ 情報担当 副主幹・指導主事 手塚 浩 和歌山県教育庁教育総務局 総務課教育政策班 政策推進員 藤田 勝範	◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。	◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。					
第4日目									
1月31日 〈木〉	9:00	12:00	13:00	14:15	14:30	15:00	15:15	17:00	
	【座席表⑤：食堂棟3階】 ＜教育委員会・学校別＞ 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教育人間科学部 教授 野中 陽一	休 憩	【座席表⑤：食堂棟3階】 ＜課題協働＞ 「研修講師となるために」 講師 教員研修センター 主幹 辻 慎一郎	休 憩	【座席表⑤：食堂棟3階】 ＜課題協働＞ 「研修講師となるために」 講師 教員研修センター 主幹 辻 慎一郎	閉 講 式			
	事例発表 札幌市立幌西小学校 校長 新保 元康 倉敷市教育委員会倉敷情報学習センター 館長 藤本 義博	◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するか戦略を考える。協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	◎目的：学校教育の情報化に関する、研修講師となるための力量と意欲を高める。						

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（推進コース）（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	平成23年度より、小学校において外国語活動が導入され、その更なる充実が求められている。そこで、本研修では、外国語活動を担当する指導主事等に、小中連携、校内研修の運営方法、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価等について、必要な知識等を総合的に修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、円滑に受講者に行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成24年10月29日（月）～平成24年10月31日（水）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	85	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 330 人、受講者数 319 人、参加率 96.7%
※ 推進コース 受講定員 220 人、受講者数 180 人、参加率 81.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	73	85.9	10	11.8	0	0.0	0	0.0	2	2.4	0	0.0	85
		83		97.6										

2. 研修内容に関する主な意見

・外国語活動の現状や課題、授業の流し方など、講義、実践発表及び演習を通して理解を深めることができた。 ・他県の取組状況を知ることができました。本県の取組に活かすことができると思います。講師の先生方の話から、再確認したこと、また新たに知ったことなど、充実しました。 ・中学校教員が変らなければならない、というのをひしひしと感じました。 ・小中連携について考えるうえで、充実した内容であり、貴重な機会となった。授業実践についても、より具体的なイメージを広げる上で役に立った。 ・東部ブロック、各都道府県からの代表が一堂に介して貴重なお話をたくさんうかがえたうえ、意見交流をしながら深めたり、自らの市町の取り組みを省みることができた。2日目には初日の交流を活かし、新たなアイデアを具体的なものとして生み出すことができた。3日目は深化と広域共有の意味をもった素晴らしいポスターセッションであった。企画のつくりにも目を見張るものがあり、大変参考になった。 ・講師の先生方がこの分野のプロフェッショナルで、たいへん参考になる話が多く、これからの研修会で役に立つ内容でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含めた。 ・「授業実践コース」（2日間）を新設するとともに、これまでの3日間の研修を「推進コース」として実施した。
次年度に向けて ・25年度より委託研修として実施する ・受講者が小学校における外国語教育の在り方を再認識できるようカリキュラムを見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（推進コース）（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
10月29日 (月)		受付	開講式	課題協議1 「外国語活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	昼休み	演習1 「外国語活動に関する取組状況」 独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 山本 良	休憩	事例発表 「外国語活動の充実に関する取組」 小中連携：大仙市立横堀小学校教諭 田口 倫 大仙市立仙北中学校教諭 鈴木真由美 活動評価：八戸市立柏崎小学校教諭 日向端 聖	
第2日目		9:00	9:10	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00	
10月30日 (火)	連絡事項	課題協議2 「外国語活動の留意点」 浜松市教育センター 座間市立南中学校 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa		昼休み	演習2 「外国語活動を円滑に進めるための方策①」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 浜松市教育センター 座間市立南中学校 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa 八戸市立柏崎小学校	休憩		◎目的：外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・ 方法を探る。 ※演習1において出された課題を解決するとともに、効果的な①小中連携、②活動の設定・指導 法及び学習評価を進めるためには、具体的にはどのような取組が必要か考えてまとめる。	
		◎目的：外国語活動を行う際の留意点について理解を深める （“Hi, friends!” についての理解も含む）。 ※担任単独やT Tの授業の視点・ポイントについての講義及び 模範授業。							
第3日目		9:00	9:10	12:00	13:00	14:40	15:00		
10月31日 (水)	連絡事項	演習3 「外国語活動を円滑に進めるための方策②」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 浜松市教育センター 座間市立南中学校 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa		昼休み	課題協議3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	閉講式			
		◎目的：外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理 し、推進方策等についての知識・方法を知る。 ※演習2で作成した資料について、ポスターセッション形式で 発表をし、その後各班で振り返る。							

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（推進コース）（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	平成23年度より、小学校において外国語活動が導入され、その更なる充実が求められている。そこで、本研修では、外国語活動を担当する指導主事等に、小中連携、校内研修の運営方法、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価等について、必要な知識等を総合的に修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、円滑に受講者に行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。						
開 催 期 日	平成24年11月26日（月）～平成24年11月28日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	95	人	参加率
開 催 場 所	大阪アカデミア（大阪府大阪市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 330 人、 受講者数 319 人、 参加率 96.7%

※ 推進コース 受講定員 220 人、 受講者数 180 人、 参加率 81.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	83	9	1	0	2	0	95
割合 (%)	87.4	9.5	1.1	0.0	2.1	0.0	
	92	96.8					

2. 研修内容に関する主な意見

・今後、研修講師等をしなければいけない状況にあるので、今回の内容は理論的にも実践的にもすぐに活用することができるものばかりで、大変参考になった。研修内容を自分なりに項目別にモジュール化して、研修対象の先生方（初任者～外国語活動に熱心な先生方まで）に合わせて、プログラムを組み直して広めていきたい。 ・様々な立場の参加者が、グループになって意見交換や協議の作業をすることで、今後の活動の参考になるアイデアや手法をたくさん持ち帰ることができそうです。大変有意義な3日間となりました。本当にありがとうございました。 ・Hi, friendsを用いた授業作りのみならず、小中連携を目指す為に教材や指導方法の受け渡し等、中学校（高等学校）における提示改善も大きな観点であると再認識した。しかしながら本研修を受けてからがスタートであり、いかに県内に広げるか、続けるかのシステム作りの作成が自分自身の課題であると確認できた。 ・授業の内容だけでなく、小中連携の実際等も聞いたので、両方の立場や考え等にふれられて、視野が広がりました。 ・外国語活動の考え方、また研修主事としての在り方等、たくさん学ばせていただきました。特にグループでテーマに基づき、アイデアを出し合って資料を作成し、ポスターセッションを行ったことは、大変勉強になりました。そしてすばらしい出会いとなりました。 ・現在課題となっている小中連携及び子どもが意欲的に取り組む授業に焦点をあてた内容で、講義、実践報告、演習のバランスもよかった。 ・課題としてどのようなことがあるかわかった。モデルとしての授業者の意図を感じられない。あれでいいのか？と感じることが多々あった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含めた。 ・「授業実践コース」（2日間）を新設するとともに、これまでの3日間の研修を「推進コース」として実施した。 次年度に向けて ・25年度より委託研修として実施する ・受講者が小学校における外国語教育の在り方を再認識できるようカリキュラムを見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（推進コース）（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:00		10:00	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
11月26日 (月)		受付	開講式	課題協議1 「外国語活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子		屋休	演習1 「外国語活動に関する取組状況」 独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 山本 良	休憩	事例発表 「外国語活動の充実に関する取組」 小中連携：宇美町立原田小学校教諭 大田 亜紀 宇美町立宇美南中学校教諭 美野 陽子 活動評価：宮古島市立南小学校教諭 平良 優	17:00
				◎目的：外国語活動における現状と課題、評価の在り方等について理解する（“Hi, friends!” についての理解も含む）。			◎目的：外国語活動の取組について情報を得るとともに、課題を共有する。 ※班別協議。事前課題で作成した各地域での取組内容と実施に伴う課題を共有し、今後の研修において解決策を見出し、出ていく。		◎目的：具体的な取組事例を通して、小中連携等、外国語活動の課題に対する解決策を探る。 ※次のテーマに基づき事例発表 ①効果的な小中連携の在り方 ②児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価	
第2日目		9:00		9:10	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00	
11月27日 (火)	連絡事項	課題協議2 「外国語活動の留意点」 鳥取県教育委員会事務局中部教育局 北九州市教育委員会 北九州市教育委員会 Prefectural Advisor ChiTonVo (Tony)		屋休	演習2 「外国語活動を円滑に進めるための方策①」 文部科学省初等中等教育局 鳥取県教育委員会事務局中部教育局 北九州市教育委員会 北九州市教育委員会 宮古島市立南小学校	休憩	◎目的：外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を探る。 ※演習1 において出された課題を解決するとともに、効果的な①小中連携、②活動の設定・指導法及び学習評価を進めるためには、具体的なにはどのような取組が必要か考えてまとめる。			
	項目	◎目的：外国語活動を行う際の留意点について理解を深める（“Hi, friends!” についての理解も含む）。 ※担任単独やT T の授業の視点・ポイントについての講義及び模範授業。								
第3日目		9:00		9:10	12:15	13:15	14:40	15:00	17:00	
11月28日 (水)	連絡事項	課題協議3 「外国語活動を円滑に進めるための方策②」 文部科学省初等中等教育局 鳥取県教育委員会事務局中部教育局 北九州市教育委員会 北九州市教育委員会 宮古島市立南小学校		屋休	課題協議3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	閉講式				
	項目	◎目的：外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を知る。 ※演習2 で作成した資料について、ポスターセッション形式で発表をし、その後各班で振り返る。				◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる。				

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（授業実践コース）（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	平成23年度より、小学校において外国語活動が導入され、その更なる充実が求められている。そこで、本研修では、外国語活動を担当する教諭等に、指導者の役割、ティーム・ティーチングの進め方、視聴覚教材・ICTの活用などの指導の充実に必要な知識等を体験的に修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が円滑に行われることを目的とする。					
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校及び特別支援校の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成25年1月15日（火）～平成25年1月16日（水）				2日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	65	人 参加率 ※
開 催 場 所	北國新聞会館（石川県金沢市）					

※ 全体受講定員 330 人、受講者数 319 人、参加率 96.7%
(全体計画人数)
※ 授業実践コース 110 人、受講者数 139 人、参加率 126.4%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	53	81.5	11	16.9	0	0.0	0	0.0	65
		64	98.5							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 推進コースと実践コースを分けたことで、研修の目的が明確になり良かった。 ・ 事前提出課題の指導案や班別研修の発表などから、たくさんの事例を学ぶことができた。調査官や先進的な取り組みをされている先生方の話も、大切なポイントが分かりやすく説明されていました。ありがとうございます。 ・ 1 日目は外国語活動の在り方、ポイントをはじめ、3つの観点についての指導法を教えていただき大変勉強になりました。2 日目の指導案作りと発表は、同じ立場の人たちと同じ目線で指導案を考えることができ、良い経験になりました。発表では多くの工夫やポイントを知ることができ、2 日間とも大変有意義でした。ありがとうございました。 ・ 現有プランについて、改めて目標に照らし合わせた見直しが必要だと思いました。その際の視点としてとても参考になるものがありました。本研修を企画していただき、ありがとうございました。現場にいるものとしてはとてもありがたいです。 ・ 広い地域から集まって来た先生方と話すことで、貴重な情報交換ができた。とても素晴らしい機会だと思う。 ・ 授業実践コースということで、大変具体的ですぐに活用できる内容のものばかりでした。また、地域に戻ってから講師としてこの研修の内容をお伝えする責務があると強く感じ、微力ながら精一杯努めさせていただこうと思いました。本当にありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含めた。 ・ 「授業実践コース」（2日間）を新設するとともに、これまでの3日間の研修を「推進コース」として実施した。
次年度に向けて ・ 25年度より委託研修として実施する ・ 受講者が小学校における外国語教育の在り方を再認識できるようカリキュラムを見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（授業実践コース） 日程表

第1日目	9:00	10:00	10:30	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
【東部】 1月15日	受付	開講式	課題協議1 「外国語活動の在り方とその留意点～新教材の活用を中心に～」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 富山県南砺市立福野小学校 教務主任 山河 誠 一彰 藤森 滋仁 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的：「Hi, friends」を活用した中心に外国語活動における現状と課題、留意点等について理解する。	休憩	演習2 「外国語活動の授業実践2」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 富山県南砺市立福野小学校 教務主任 山河 誠 一彰 藤森 滋仁 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的：「Hi, friends」を活用した授業の視点・ポイントを実際に体験しながら学ぶ。	休憩	演習3 「外国語活動の授業実践3」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 富山県南砺市立福野小学校 教務主任 山河 誠 一彰 藤森 滋仁 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的：「Hi, friends」を活用した授業の視点・ポイントを実際に体験しながら学ぶ。	

第2日目	9:00	9:10	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:45
【東部】 1月16日	連絡事項 班別演習1 「外国語活動の授業づくり1」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的：外国語活動の指導案作成を通して、効果的な授業の在り方を探る。	昼休み	班別演習2 「外国語活動の授業づくり2」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的：班別演習1をもとにした活動をお互いに体験する。	休憩	課題協議2 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる。	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（授業実践コース）（西部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	平成23年度より、小学校において外国語活動が導入され、その更なる充実が求められている。そこで、本研修では、外国語活動を担当する教諭等に、指導者の役割、ティーム・ティーチングの進め方、視聴覚教材・ICTの活用などの指導の充実に必要な知識等を体験的に修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が円滑に行われることを目的とする。					
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校及び特別支援校の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成25年2月21日（木）～平成25年2月22日（金）				2日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	74	人 参加率 ※
開 催 場 所	TKP天神シティセンター（福岡県福岡市）					

※ 全体受講定員 330 人、受講者数 319 人、参加率 96.7%
(全体計画人数)
※ 授業実践コース 110 人、受講者数 139 人、参加率 126.4%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	66	89.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	74
		74	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・各校の外国語の授業の取り組み、実践また現場での生の声が聞けて、すごく勉強になった。特にすぐに授業に生かせるアイデアは、月曜からでも取り入れたいと思えた。学校の中では5・6年担任は日々、外国語活動のことを考える機会があるが、他学年の担任となると、その機会はぐんと減るので、こうして同じ課題を共有しながら取り組める研修はおもしろい。

・市町村レベルではなく、西部地区という大きな範囲の先生方と外国語の授業づくりについて学んだり協議したりすることができ、大変励みにもなり、多くの収穫を得ることができた。Hi, friendsをここまで深く考え、活用する機会がなかったため新たな視点で見直し、改善して（使い方を）いきたいと強く思った。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今後活用し広めていく役割を十分担っていきたいと思う。

・すぐに授業に役立つことばかりだった。またHi, friendsのパソコンの使い方の知らない活用法等教えて頂き有効だった。

・外国語活動に関わる多くの人と出会えて、指導する立場としての意識が高まった。意識改革となった。特に原点に返るといふ点、帰ってからでも考え、多くの人にも考えてもらえるようにしたい。

・外国語活動の研修機会は他教科と比べて少ないです。また5・6年生ということもあり校内で共に研修を深めていく同僚も限られがちです。そんな中、多くの教員で授業作りに取り組む演習は、これからの授業作りに沢山のことを生かしていけると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含めた。
・「授業実践コース」（2日間）を新設するとともに、これまでの3日間の研修を「推進コース」として実施した。
次年度に向けて
・25年度より委託研修として実施する
・受講者が小学校における外国語教育の在り方を再認識できるようカリキュラムを見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（授業実践コース） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:30	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
【西部】 2月21日	受付	開講式	課題協議1 「外国語活動の在り方とその留意点～新教材の活用を中心に～」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	昼休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 静岡市立清水袖師小学校 教諭 田口 伸美 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的: “Hi, friends!” の活用を中心に外国語活動における現状と課題、留意点等について理解する。	演習2 「外国語活動の授業実践2」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 静岡市立清水袖師小学校 教諭 田口 伸美 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的: “Hi, friends!” を活用した授業の視点・ポイントを実際に体験しながら学ぶ。	休憩	演習3 「外国語活動の授業実践3」 (①②③グループ別) ①ティーム・ティーチング 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan ②担任単独 静岡市立清水袖師小学校 教諭 田口 伸美 ③視聴覚教材・ICT活用 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由 ◎目的: “Hi, friends!” を活用した授業の視点・ポイントを実際に体験しながら学ぶ。	休憩		

第2日目		9:00	9:10	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:45
【西部】 2月22日	連絡事項	班別演習1 「外国語活動の授業づくり1」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由		昼休み		班別演習2 「外国語活動の授業づくり2」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 沖縄県宮古島市立南小学校 教諭 平良 優 沖縄県宮古島市教育委員会学校教育部 外国語指導助手 Gary Suan 愛知県春日井市立神屋小学校 教務主任 加藤 拓由		課題協議2 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	
								休憩	
		◎目的: 外国語活動の指導案作成を通して、効果的な授業の在り方を探る。		◎目的: 班別演習1をもとにした活動をお互いに体験する。		◎目的: “Hi, friends!” を活用した授業の視点・ポイントを実際に体験しながら学ぶ。		◎目的: 本研修を振り返り、研修成果をまとめる。	

I 研修概要

研 修 名	平成24年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（管理者用コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活躍や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準ずる者。 ②外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校との主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。							
開 催 期 日	平 2 4 年 6 月 1 8 日（月）～平成 2 4 年 6 月 1 9 日（火）					2 日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	49	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 119 人、 参加率 108.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	31	63.3	17	34.7	0	0.0	0	0.0	49
		48	98.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ (内容の)密度が濃い、充実した研修でした。自分の抱えていた課題を、改めてバランスよく考えるきっかけになりました。本校で受け入れている外国人子女の思いを大切にすると共に、効果的な日本語指導を工夫したいと思います。校内体制も見直したいと思います。 ・ 班別の話し合いでは時間がたくさん取れて、行政・管理職で分かれていたためとてもよかった。班の中で教材・ガイドブック等も紹介できた。これから考えていくべきことも指摘された。課題に対する解決ヒントもいただいた。こういう協議がいちばん大事でみんなが必要としていると思う。 ・ 外国人児童生徒の日本語について視野が広がった。言葉を教えることに力点を置いていたが、「個別化」「文脈化」等、こころを支える指導などが必要であることを改めて認識した。外国人児童生徒の将来に向けた自己実現を支援していきたい。また本研修内容を広げていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 課題協議 3 の内容を見直し、子どもの言語能力の発達段階に重点を置いた内容とし、タイトルを「子どもの言語能力の発達について」とする。 ・ 班別演習の班分けは、異なる校種の受講者との意見交換も有意義なので校種は混合とする。
次年度に向けて ・ 新たに「日本語能力測定方法の理念と構成」の講義時間を設け、理念や構成について日本語指導にどう活かすか学ぶ。 ・ 班別演習 1 を初日の午前に設けたり、管理者コースでの班を全日程同じにする等、班内の円滑なコミュニケーションを促す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
6月18日 (月)		受 付	開 講 式	高コース共通 施案説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局国際教育課 課長補佐 関 百合子	課題協議 1 「日本語指導を効果的に進めるために」 関西大学 教授 堀 雅洋	昼 食	高コース共通 課題協議 2 「外国人児童生徒等の現状と課題」 早稲田大学大学院 教授 川上 郁雄	休 憩	高コース共通 課題協議 3 「子どもの言語能力の発達について」 東京女子大学 教授 石井 恵理子	休 憩	高コース共通 班別演習 1 「情報交換による課題の共有」 ◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目からの研修に備える。

第2日目

	8:30	8:40	10:55	11:10	12:10	13:10	15:20	15:35	16:35	16:50
6月19日 (火)										
連絡事項	管理者用コース		休憩		昼食		休憩		閉講式	
	事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 鹿児島県鹿児島市立名山小学校 教諭 佐々木 久志 三重県四日市市立笠川西小学校 校長 柳原 秀雄 三重県松阪市教育委員会 指導主幹 小筆 邦昭 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。		班別演習 2 「外国人児童生徒等受入体制 1」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		班別演習 3 「外国人児童生徒等受入体制 2」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		課題協議 4 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 岐阜県可児市教育委員会 指導主事 今井 竜生 ◎目的：管理者として外国人児童生徒等を受入れる際の留意事項等について学ぶ。			
	日本語指導者高コース共通									
	課題協議 5 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。		課題協議 6 「JSLカリキュラムの基本的な考え方」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 徳 ◎目的：JSLカリキュラムの考え方、使い方について理解を深める。		事例協議 「日本語指導の実践事例」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 神奈川県横浜市立いちょう小学校 教諭 菊池 聡 (初期・小) 栃木県宇都宮市立清原中央小学校 教諭 田崎 啓三 (JSL・小) 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 (初期・中) 東京都北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子 (JSL・中) ◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の授業の効果的な在り方について知識を得る。		全体協議 「自主教材についての情報交換」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：授業で使用している自主教材を紹介し合うことで、教材の在り方や工夫について考える。			

第3日目

5 日	8:30 8:40	10:20 10:35	12:00 13:00	17:00
6月20日 (水)				
連絡事項				
項目				
日本語初期指導コース				
課題協議7 「日本語初期指導の留意点」				
波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久				
◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に日本語指導を行う際に、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。				
班別演習4 「日本語初期指導の実践1」				
波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子				
◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。				
班別演習5 「日本語初期指導の実践2」				
波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子				
◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を深める。				
教科指導実践コース 9:40 9:55				
課題協議8 「JSLカリキュラムの授業づくり(各教科)」				
東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ				
◎目的：JSLカリキュラムの授業計画の立て方と授業の進め方について理解を深める。				
班別演習6 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成)1」				
山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛(国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子(国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔(国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦(算数・数学) 神奈川県横浜市立いちょう小学校 教諭 菊池 聡(社会)				
◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。				
班別演習7 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成)2」				
東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛(国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子(国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔(国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦(算数・数学) 神奈川県横浜市立いちょう小学校 教諭 菊池 聡(社会)				
◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。				

第4日目

	8:30	8:40	12:00	13:00	14:40	15:00
6月21日 (木)	日本語指導者高コース共通 班別演習 8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 徳 (国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子 (国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 (算数・数学) 神奈川県横浜市立いちょう小学校 教諭 菊池 聡 (社会) ◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことにより、初期指導の授業及びJSLカリキュラムに則った指導法についての理解を深める。	休 憩	班別演習 9 「研修講師となるために」 相山女学園大学 教授 宇土 泰寛 ◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。	閉 講 式		

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	平成24年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活躍や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。						
開 催 期 日	平成24年6月18日（月）～平成24年6月21日（木）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	70	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 119 人、 参加率 108.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	59	84.3	10	14.3	0	0.0	0	0.0	70
		69	98.6							

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の先生方の素晴らしさに感心いたしました。また、運営スタッフの方々のスムーズな進行に感謝します。とても意義深い研修に参加できましたこと、うれしく思っています。ありがとうございました。 ・自分の足りないものを自覚し、勉強でき、成長できるという機会をいただき、とても有意義でありがたいと感謝の思いでいっぱいです。普段はお会いできない講師陣にもお会いでき、この研修の企画・運営の先生方には心よりお礼申し上げます。 ・JSLカリキュラムの考え方や指導の実際について、始めて詳しく学んだが、発想の転換などで、該当児童に楽しく学ばせることができるとわかった。ポイントと児童の特性をとらえ、指導に活かせるようにしたいです。勤務校でも自主教材の作成に挑戦したい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・課題協議3の内容を見直し、子どもの言語能力の発達段階に重点を置いた内容とし、タイトルを「子どもの言語能力の発達について」とする。 ・全体協議「自主教材についての情報交換」の時間を30分短縮し、事例協議の時間を増やす。 ・日本語初期指導コースの大蔵先生に班別演習5の指導案作成までかかわっていただく。 ・班別演習の班分けは、異なる校種の受講者との意見交換も有意義なので校種は混合とする。
次年度に向けて ・新たに「日本語能力測定方法の理念と構成」の講義及び演習時間を設ける。 ・班別演習1を初日の午前に設けたり、1，2日目の班を同じにする等、班内の円滑なコミュニケーションを促す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
6月18日 (月)		受 付	開 講 式	高コース共通 施策説明 「外国人児童 生徒等に対する 文部科学省の 施策について」 文部科学省 初等中等教育 局国際教育課 課長補佐 関 百合子	課題協議1 「日本語指導 を効果的に進 めるために」 関西大学 教授 堀 雅洋 ◎目的：外国人 児童生徒等 の学習を支 援する情報 検索サイト 「かすた ねっと」の 活用方法を 知る。	昼 食	高コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒等の現状と課題」 早稲田大学大学院 教授 川上 郁雄 ◎目的：外国人児童生徒等の受入 れ体制や、心理的側面からの支 援の在り方等の現状と課題につ いて理解を深める。	休 憩	高コース共通 課題協議3 「子どもの言語能力の発達について」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 ◎目的：日本語能力のとらえ方と日 本語能力のレベルに応じた指導法 を考える。	休 憩	高コース共通 班別演習1 「情報交換による課題の共 有」 ◎目的：班別に情報交換を 行うことで、2日目からの 研修に備える。

第2日目

	8:30	8:40	10:55	11:10	12:10	13:10	15:20	15:35	16:35	16:50
6月19日 (火)	管理者用コース 事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～ 指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本一子 鹿児島県鹿児島市立名山小学校 教諭 佐々木 久志 三重県四日市市立笠川西小学校 校長 棚原 秀雄 三重県松阪市教育委員会 指導主幹 小筆 邦昭 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れにつ いて、先進的な地域の取組について理 解を深める。	班別演習2 「外国人児童生徒等受入体制1」 愛知淑徳大学・愛知教育 大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等 の受入れ体制について情 報を共有し、課題解決へ の糸口を探る。	休 憩	昼 食	班別演習3 「外国人児童生徒等受入体制2」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について 情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	課題協議4 「外国人児童生徒教育におけ る管理者としての役割」 岐阜県可児市教育委員会 指導主事 今井 竜生 ◎目的：管理者として外国人 児童生徒等を受入れる際の 留意事項等について学ぶ。	閉 講 式		
	日本語指導者高コース共通	10:25	10:40	12:10	13:10	16:15	16:30	17:00		
	課題協議5 「学校における日本語教育プログラ ム～日本語初期指導から教科指導ま で～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：日本語指導における課題に ついて解決への糸口を探る。	休 憩	課題協議6 「JSLカリキュラムの基本的 な考え方」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 偉 ◎目的：JSLカリキュラムの 考え方、使い方について理解 を深める。	昼 食	事例協議 「日本語指導の実践事例」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 神奈川県横浜市立いちよう小学校 教諭 菊池 聡 (初期・小) 栃木県宇都宮市立清原中央小学校 教諭 田崎 啓三 (JSL・小) 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 (初期・中) 東京都北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子 (JSL・中) ◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な 実践事例から、日本語指導の授業の効果的な在り方について知識を得 る。	休 憩	全体協議 「自主教材について の情報交換」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：授業で使用し ている自主教材を紹介 し合うことで、教 材の在り方や工夫に ついて考える。			

第3日目

	8:30	8:40	10:20	10:35	12:00	13:00	17:00
6月20日 (水)	日本語初期指導コース 課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久 ◎目的：来日直後の外国人児童生徒 等日本語指導を行う際に、工夫 すべき点等、より実践的な手法に ついて理解を深める。	休 憩	班別演習4 「日本語初期指導の実践1」 波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子 ◎目的：日本語初期指導について の情報交換及び課題を共有し、 授業計画作成時に必要となる具 体的な手だてや支援を考える。	昼 食	班別演習5 「日本語初期指導の実践2」 波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子 ◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導につ いて理解を深める。		
	教科指導実践コース	9:40	9:55	12:00	13:00		
	課題協議8 「JSLカリキュラム の授業づくり(各教 科)」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：JSLカリキ ュラムの授業計画の 立て方と授業の進め 方について理解を深 める。	休 憩	班別演習6 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指 導案作成)1」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 偉 (国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子 (国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 (算数・数学) 神奈川県横浜市長いちょう小学校 教諭 菊池 聡 (社会) ◎目的：教科指導についての情報交換及び課題 を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作 成時に必要となる具体的な手だてや支援を考 える。	昼 食	班別演習7 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成)2」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 偉 (国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子 (国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 (算数・数学) 神奈川県横浜市長いちょう小学校 教諭 菊池 聡 (社会) ◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導 法を体得する。		

第4日目

	8:30	8:40	12:00	13:00	14:40	15:00
6月21日 (木)	日本語指導者高コース共通 班別演習8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花鳥 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市総合教育センター 研究員 大宮佐紀子 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 偉 (国語・小) 東京都北区立西ヶ原小学校 主任教諭 矢部 澄子 (国語・小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語・中) 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 (算数・数学) 神奈川県横浜市長いちょう小学校 教諭 菊池 聡 (社会) ◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことによ り、初期指導の授業及びJSLカリキュラムに則った指導法についての理 解を深める。	休 憩	昼 食	課題協議9 「研修講師となるために」 相山女学園大学 教授 宇土 泰寛 ◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用す るための方策について理解を深める。	閉 講 式	

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導を担当する指導主事及び教諭に対すし、全国的かつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、未然防止に向けた取組や対応の方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年 6月21日（木）～平成24年 7月 6日（金）					16日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	124	参加率 112.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 0.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	113	91.1	11	8.9	0	0.0	0	0.0	124
		124	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・様々な分野の素晴らしい講師の先生方にご講義いただき、有意義な研修となりました。 ・生徒指導に関わる最先端の理論や考え方に基づいた講義や演習を受講する機会を頂いたことに、心から感謝している。 今回の研修で学んだ内容を、様々な場面で活用していきたい。 ・未然防止・開発的アプローチといった視点がどの講座にもあり、キーワードとして強く認識できたので、地域に戻って、先生方にお伝えしたい。 ・バランスのとれた研修内容だったと思います。小学校から高校までの問題がよくわかり、有意義な研修会だったと思います。 ・最近、身近でよく感じているのは「特別支援教育」について、更に研修しなければならない、ということです。その分野を充実させて頂けるとよいかと思えます。 ・これからの生徒指導において、未然防止の観点が必要で、自己肯定感を高めることが必要ということは十分にわかっているのですが、具現化するための方策についての内容が少なかったように思います。 ・どの講義も得るものが多々ありましたが、残念だったのは、早口、内容過多のため、消化不良で終わる講義がいくつかあったことです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校現場においては、生徒指導が一部の担当者による問題発生時の事後対応と見られている側面がある。そこで、学校の教育活動全体を通じて組織的に生徒指導を行うとともに、問題の未然防止の視点を強めるために、「教育課程と生徒指導」をプログラムに新たに組み入れた。 ・上記のねらい踏まえ、前半に学校教育全体で取り組む生徒指導、後半に生徒指導上の諸課題の予防と対応に関する講義を配置した。 ・本研修の中心的な演習で2日間にわたって行う「生徒指導事例研究」において、問題を多面的な見方で考えられるよう、担当する講師を初日・2日目で交替し2人の講師から指導を受けるよう改善するとともに、問題の未然防止の観点で事前レポート（事例発表資料）の内容に再発防止に向けた項目を追加した。
次年度に向けて ・学校や地域のリーダーとして活躍する指導者養成の性格を強めるために、「生徒指導の機能とそのはたらき」を「学校の生徒指導力を高めるために」に、「総括講義」を「生徒指導のリーダーとなるために」に改め、内容の充実を図る。 ・班やグループでの協議（「課題討議」「事例協議」）から学ぶことが多いという声を踏まえ、朝と夕方に行う「課題討議」のテーマを工夫するとともに、「課題討議」と演習「研修成果の発表」の関連づけを強め、研修全体を通して生徒指導について考えを深められるよう改善を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

＜日程と講座内容＞

	期 日	曜	8:30 9:15	9:30	12:00	13:15	15:45	16:00 17:00
1	6月21日	木	受 付 (9:30～9:50)	開講式 (10:00～10:20) 教員研修センター	これからの生徒指導における 重要課題(10:30～12:00) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 白間竜一郎	特別講義(13:00～14:30) 神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマ ネージャー兼総監督 平尾誠二	オリエンテーション① (14:45～16:15) 教員研修センター	班別協議 (打合せ①) (16:30～17:00)
2	6月22日	金	オリエンテー ション②	生徒指導の機能とその進め方 文教大学教授 松田素行				班別協議 (打合せ②)
3	6月23日	土						
4	6月24日	日						
5	6月25日	月	オリエンテー ション③	教育課程と生徒指導 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 城戸 茂		望ましい学級集団づくり 愛媛大学教育学部教授 平松義樹		班別協議 (打合せ③)
7	6月26日	火	事例協議① (グループ)	いじめ・不登校の予防と対応(1) 鹿児島大学教授 大坪治彦		いじめ・不登校の予防と対応(2) 福岡教育大学教授 小泉令三		事例協議② (グループ)
6	6月27日	水	事例協議③ (グループ)	生徒指導と心の教育 大阪教育大学名誉教授 藤永芳純		特別支援教育の理解と生徒指導 兵庫教育大学准教授 井澤信三		班別協議 (打合せ④)
8	6月28日	木	事例協議④ (グループ)	生徒指導事例研究(1)		生徒指導事例研究(2)		総 括
				1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立天沼中学校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇				
9	6月29日	金	事例協議⑤ (グループ)	生徒指導事例研究(3)		生徒指導事例研究(4)		総 括
				1班(小) 琉球大学教授 平田幹夫 2班(中) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 3班(中) 杉並区立天沼中学校長 藤川 章 4班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 5班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇 6班(高) 文教大学教授 柳生和男				
10	6月30日	土						
11	7月1日	日						
12	7月2日	月	オリエンテー ション④	選 択	不登校児童生徒の指導と課題 開善塾教育相談研究所長 金澤純三		児童虐待防止に向けた取組 立命館大学教授 野田正人	課題研究①
					情報モラル教育の充実 NPO青少年メディア研究協会理事長 下田博次			
13	7月3日	火	課題研究②	性・薬物に関わる非行の予防と対応 京都大学准教授 木原雅子		自殺予防に向けた取組 周南市立岐陽中学校長 中馬好行		課題研究③
14	7月4日	水	課題研究④	生徒指導と関係法規 弁護士 清水幹裕		生徒指導と危機管理 高崎経済大学講師 飯野真幸		課題研究⑤
15	7月5日	木	発表準備	研修成果の発表・指導講評 文教大学教授 松田素行				振り返り
16	7月6日	金	班別協議 (8:30～9:00)	総括講義 (9:15～11:45) 文教大学教授 松田素行		閉講式 (12:00～12:20)		

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者（人権教育担当者を含む） 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者）							
開 催 期 日	平成24年7月9日（月）～平成24年7月11日（水）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	110	人	受講者数	140	人	参加率	127.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	101	72.1	36	25.7	0	0.0	0	0.0	140
		137	97.9							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 自分が人権教育を進めている中で不安に感じていること（1つは教職員の人権教育に対する意識を深めていくこと、もう1つは教科への人権教育の位置づけをどのように行ったらよいかということ）についてグループで話し合えたことはとても有意義であった。 ・ 全国から人権教育に関係する教員、教育行政職員が一同に会する研修は外にありません。また、指導者の先生方もすばらしい方ばかりで、とても勉強になりました。研修会として、互いの情報交換はとても貴重であり、多くの示唆をいただきました。 ・ 人権教育に関する課題が明らかになり、その上で、具体的な指導法について、展望をもつことができた。教育相談の研修にも充分生かせる内容であった。今後の研修に生かしていきたい。 ・ 人権を取りたてて扱う部署がない中で、文科指定の事業をどのように推進していくべきか悩む日々である。しかし、今回の研修で普段の生活活動の中で、また授業の中で実践する。全ての教育活動を人権の視点から見て考えていくことから始めていくことが重要であることを理解した。 ・ 研修講師として心がける5つのポイントを示して頂いて、とても勉強になった。 ・ 他県で行われている取り組みについて、実際に話を聞いたり、意見交換したりする場が多くあり、たいへん学ぶことが多かった。今後の指導・支援に大いに役立つ研修内容であった。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 文部科学省の行政説明の時間を拡大した。 ・ 演習の説明を初日にすることにより、演習の流れを受講者が把握し、スムーズに流れるようにした。
次年度に向けて ・ 初日の流れを講義・課題協議・演習から行政説明につなぐように変更を行う。 ・ 最終日に研修全体を振り返り、研修で何を学んだのか受講者同士で共有する時間を設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度人権教育指導者養成研修 日程表

第1日目		9:00		9:30	9:50	10:30		12:00	13:00	14:30	14:45	16:00	16:10	17:15
7月9日 (月)	行政説明	開会式	受付	講義・課題協議・演習		「国内外の動きと学校における人権教育」		事例発表・協議		「人権教育推進上の課題と改善策等について」		休憩		【第二研修棟2F】
				山梨県立大学特任教授・（公財）人権教育啓発推進センター 参与 福田 弘		和歌山県教育庁 主任指導主事 加山 千裕 奈良県河合町立河合第一中学校 教諭 奥林 公俊 佐賀県小城市立晴田小学校 教諭 宮崎 義浩		◎目的：人権教育の先進的な取組を知るとともに各地域の取組を共有することで、演習に向けて課題を明確化する。		【第二研修棟2F】				
第2日目		8:30		12:00		13:00		17:00						
7月10日 (火)	演習	「学校における人権教育の改善・充実について」												
		「人権教育の指導方法等の在り方について」												
		（課題） A 効果的な教職員向け研修プログラム等の作成について B 学校としての組織的な取組と関係機関等との連携について C 児童生徒の人権に関する知的理解を深め、人権感覚を育成するための指導内容・方法の工夫について												
		◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めることにより、人権教育を推進するための資料（研修成果を活かすための資料）を作成し、改善・充実策等に関する知識・方法を修得する。												
		【指導助言者】 A：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 B：帝京科学大学子ども学部児童教育学科 教授 有村 久春 C：（小）埼玉県加須市立三俣小学校 校長 増田 利之 （中・高）東京学芸大学 准教授 林 尚示												
		【グループA：研修棟1F101】 【グループB：研修棟2F201】 【グループC（小）：特別研修棟1F研修室A②】 【グループC（中高）：特別研修棟1F研修室A①】												
第3日目		9:00		11:20		11:30		12:15		12:30				
7月11日 (水)	演習	「学校における人権教育の改善・充実について」												
		「全体発表・協議」												
		上越教育大学 教授 梅野 正信 帝京科学大学 教授 有村 久春 東京学芸大学 准教授 林 尚示												
		◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める。												
		【講堂】												

I 研修概要

研 修 名	平成24年度キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者							
開 催 期 日	平成24年6月11日（月）～平成24年6月15日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	136	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 258 人、 参加率 117.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	116	85.3	20	14.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	136	
		136		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・研修の内容、方法ともに大変勉強になりました。当初は5日間も必要だろうかと思いましたが、指導者として学ぶ点は多く、5日間が妥当であると感じました。 ・他府県の事例を聞き、改めて縦のつながりが必要であることを理解できた。また、グループ協議を行うことで、キャリア教育に対する悩みを共有することができた。 ・「社会と協働して進めるキャリア教育」では、民間企業の積極的なアプローチが伝わってきた。学校や地域と企業とのwinwinの関係の構築のノウハウがわかりやすかった。 ・プログラム作成を通して、学校で具体的に取組む際は、生徒や地域等の実情を丁寧に洗い出し、目標を設定することや縦の連携を十分配慮することの必要性を実感をもって学ぶことができました。 ・講師の先生方からエネルギーをいただいた。復興教育にキャリア教育はかせないと感じた。 ・答申をもとに、幅広い考えのもとにして基礎的汎用的能力があることがよく分かった。キャリア教育を地域で推進していく上でぜひ伝えたい、広めたいと感じた。 ・キャリア教育推進のため、教職員の意識を交え、目標をもてるような研修を企画運営することに、使命と楽しみを感じる。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・平成23年12月9日「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議」（文部科学省）報告書を踏まえ、企業関係者からの講義を新設した。
次年度に向けて ・受講生が5日間の研修全体の流れをきちんと理解した上で研修に臨み、理解に深まりが持てるよう、初日開始を30分はやめ研修全体の流れ（各コマの目的等）を受講生に改めて説明する時間を確保する。 ・経済産業省や厚生労働省でのキャリア教育の進め方についても知見を深められるよう講話内容に盛り込む。 ・「個別な支援・指導の在り方」では通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への対応についての内容を盛り込む。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度 キャリア教育指導者養成研修
日程表

第1日目

6月11日 (月)	10:00	10:30	12:30	13:30	17:00
		開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と課題」 講師 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 文部科学省初等中等教育局山形市立大正小学校 教諭 八坂 嘉展 事例発表 京都府福知山市立黒磯北中学校 教諭 山口 勝利 栃木県那須塩原市立黒磯北中学校 教諭 山口 勝利 大分県立安心院高等学校 教諭 深町 真由	

第2日目

9:00	12:15	13:15	14:00	14:10	17:00
6月12日 (火)					
事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2～校種間連携の方策～」 【小中連携】 講師 新潟県立教育センター 副参事(指導主事) 田中 範克 事例発表 新潟県南蒲原郡田上町立竹の友幼稚園 園長 有本 久美子 【中高連携】 講師 国立大学法人上越教育大学 准教授 白木 みどり 事例発表 山梨県立甲府昭和高等学校 教諭 丸山 淳	昼 休 み	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二	休 憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～地域社会と学校の連携推進のために～」 ○小学校部会 講師 久留米市教育センター 指導主事 四ヶ所 清隆 事例発表 愛知県岡崎市立城南小学校 校長 金指 由香里 ○中学校部会 講師 国立大学法人新潟大学 教授 松井 賢二 事例発表 佐賀県唐津市立切木中学校 教頭 袈裟丸 晋 ○高等学校 講師 富山県教育委員会県立学校課 指導主事 君波 敦子 事例発表 神奈川県立小田原高等学校 総括教諭 川久保 学	

6月13日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
	課題協議	休	演習	昼休み		
	「キャリアアカウンティングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」	憩	「キャリア教育推進のためのプログラム開発」			
	講師 立教大学 特任教授 渡辺 三枝子		講師 埼玉県ふじみ野市立大井中学校 教頭 堀川 博基			

6月14日 (木)	経営コース					
	9:00	11:50	12:50	14:45	15:00	17:00
	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 東京都荒川区立諏訪台中学校 校長 清水 隆彦		昼 休 み	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹 事例発表 スクール・アド・ハイス・ネットワーク (S.A.Net) 理事長 生重 幸恵		課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之
	推進コース					
	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	17:00
課題協議 「キャリア教育により身につける力」 講師 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之		休 憩		演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 青森県教育庁西北教育事務所 指導主事 工藤 圭介 大分県教育庁高校教育課 指導主事 小池 楠男		

	経営コース		両コース共通	
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30
6月15日 (金)	演習		課題協議	
	「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」	屋 休 み	「研修講師となるために」	閉 講 式
	講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹		講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 国立大学法人福岡教育大学 准教授 西山 久子 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	
	推進コース			
	9:00			
	事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」			
	講師 国立大学法人福岡教育大学 准教授 西山 久子			

I 研修概要

研 修 名	平成24年度キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成24年7月30日（月）～平成24年8月3日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	122	人	参加率 ※
開 催 場 所	エル・おおさか（大阪府大阪市）						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 258 人、 参加率 117.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	100	82.0	21	21.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	122
		121		99.2										

2. 研修内容に関する主な意見

・講義と演習がバランスよく組み合わせられていて、キャリア教育の概念等の抽象的なことから、実際の実施にあたっての留意点までよく構成されたメニューだったと思います。
・インターネットにおいて事前に学習しておいたので話がよく理解できました。
・班になっての話し合いは大変勉強になりました。地域によってそれぞれ課題が異なり各学校によって課題をかかえられているのが分かりました。課題を明確にし、様々なアドバイスや取組を教えてもらったのは参考になり、視野が広がりました。
・地域のためのキャリア教育に力を入れている企業があることが理解できた。それは、企業にとってもメリットのあることだと分かった。社会全体にそうした取組をひろげていきたいと思った。
・テーマを設定してプログラムを開発してなかで、学校教育目標とキャリア教育目標の関連や、各学年の目標設定等のかねあいなど深く考えることができた。
・震災を経験してのキャリア教育の意義、必要性を話されたことは、ぐっと心にせまるものがあった。5日間の中でも心に残るコマとなった。
・「研修講師となるために」では、疑問に感じていたところを、国、大学の立場で立場で細かに答えてもらったことで知見が広がった。また、県の単位で最終的に話し合うことで、再度課題を認識することができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・平成23年12月9日「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議」（文部科学省）報告書を踏まえ、企業関係者からの講義を新設した。
次年度に向けて
・受講生が5日間の研修全体の流れをきちんと理解した上で研修に臨み、理解に深まりが持てるよう、初日開始を30分はやめ研修全体の流れ（各コマの目的等）を受講生に改めて説明する時間を確保する。
・経済産業省や厚生労働省でのキャリア教育の進め方についても知見を深められるよう講話内容に盛り込む。
・「個別な支援・指導の在り方」では通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への対応についての内容を盛り込む。
・研修内容や受講生規模に応じた会場環境の確保に努める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度 キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）

日程表

第1日目

10:00		10:30	12:30	13:30	17:00
7月30日 (月)		開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と課題」 講師 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之	昼休み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 日本キャリア教育学会 会長 菊池 武剋 事例発表 岡山県倉敷市立茶屋町小学校 教頭 片岡 宏雄 岡山県笠岡市立大井小学校 教諭 清水 健吾 岡山県岡山市立御津中学校 教諭 村木 義夫 大分県立安心院高等学校 教諭 深町 真由

第2日目

9:00		12:15	13:15	14:00	14:10	17:00
7月31日 (火)	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2～校種間連携の方策～」	屋 休 み	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二	休 憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～地域社会と学校の連携推進のために～」	
	【小中連携】 講師 徳島県美馬市立穴吹中学校 教頭 小笠原 仁美 事例発表 徳島県阿南市立福井小学校 教諭 吉績 清				○小学校部会 講師 久留米市教育センター 指導主事 四ヶ所 清隆 事例発表 香川県さぬき市立富田小学校 教頭 濱松 慶二 教諭 上村 英則	
	【中高連携】 講師 国立大学法人お茶の水女子大学学生支援センター 准教授 望月 由起 事例発表 鳥取県鳥取市立湖東中学校 教諭 河中 俊文 教諭 山根 元実				○中学校部会 講師 国立大学法人新潟大学 教授 松井 賢二 事例発表 佐賀県唐津市立切木中学校 教諭 山崎 泰	
					○高等学校 講師 沖縄県立普天間高等学校 教頭 金城 正樹 事例発表 京都府立加悦谷高等学校 進路指導部長 坂根 賢	

第3日目

9:00		10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
8月1日 (水)	課題協議 「キャリアアカウンセンシングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」	休憩	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」	昼休み		
	講師 追手門学院大学心理学部 教授 三川 俊樹		講師 東京都足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学			

第4日目

経営コース		11:50	12:50	14:45	15:00	17:00
8月2日 (木)	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 東京都荒川区立諏訪台中学校 校長 清水 隆彦	昼休み		事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹 事例発表 スクール・アドバイザー・ネットワーク (S.A. Net) 理事長 生重 幸恵	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣	
推進コース						
9:00		10:30	10:45	11:45	12:45	17:00
	課題協議 「キャリア教育により身につける力」 講師 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之	休憩	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」	昼休み		
			講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 姫路市教育委員会 学校指導課長 西田 健次郎 大分県教育庁高校教育課 指導主事 小池 楠男			

8月3日 (金)	経営コース		両コース共通	
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30
演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹 推進コース 9:00 事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 国立大学法人福岡教育大学 准教授 西山 久子	昼 休 み		課題協議 「研修講師となるために」 講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 准教授 西山 久子 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において教育相談を担当する指導主事及び教諭に対し相談体制の充実等の教育相談における今日的諸課題について高度な見識を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等での教育相談研修を受講修了した者、又それに相当する資質を備えた指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年10月 2日（火）～平成24年10月 5日（金）					4日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	71	参加率 118.3%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 0.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	64	90.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	71
		71	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・教育相談の理論から実践まで、講義・協議・演習を通して理解の深まった4日間であった。 ・教育相談の役割の大きさからも今後の継続を熱望したい研修である。 ・素晴らしい講師や実践発表の話を聞くことができ、非常に満足だった。 ・全国から集まった教育相談担当者と意見交換や事例の紹介ができたことが有意義だった。 ・事前課題を持ちよって協議した事例演習2は、各都道府県の実態を把握し、互いの実践を共有する上で大変有意義な時間であった。 ・教育相談を効果的に推進するために(1)(2)では、その理論と実践が豊富に語られ、具体的事例も紹介いただいたので、非常に役立つ有意義な内容であった。 ・教育相談体制の見直しの重要性も再認識できた。本研修で得た知見を研修後に発信していけるような取組を、信念を持って実践していきたい。 ・時間が確保できれば、お互いの困っている事例の検討の時間も設けて欲しいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・校内相談体制づくりに関する考え方と理解を深める観点から、「生徒指導における教育相談の役割」において、文部科学省講師による講義及び協議を実施した。 ・事前課題を用いた協議の充実を図り、危機管理に対する一層の理解を深める観点から、「教育相談と危機管理」の講義時間の拡充を図った。
次年度に向けて ・「いじめ対策総合推進事業」(文部科学省)におけるスクールカウンセラーの大幅増員も受け、教育相談を効果的に推進するためににおいて、スクールカウンセラーの効果的な活用とピアサポートの実践についての講義・演習を実施する。 ・海外における効果的な取組を国内の課題解決に役立てる観点から、「事例演習1 教育相談体制の見直し」において、海外における取組(教育課題指導者海外派遣プログラムの参加者による)発表を実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成24年度教育相談指導者養成研修日程表

平成24年10月2日(火)～平成24年10月5日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日 10月2日			受付	開講式	講義 「生徒指導における教育相談の役割」 ～効果的な校内相談体制を通して～ 文部科学省初等中等教育局 視学官 三好 仁司	屋食・休憩	事例演習1 「教育相談体制の見直し」 ～実践発表と協議～ 高松市立花園小学校 教諭 近藤 茂 新潟市立上山中学校 教諭 吉澤 孝子 神奈川県立立田奈高等学校 教諭 原田 淳子 島根県立盲学校 教諭 視学官 三好 仁司 文部科学省初等中等教育局									オリエンテーション	諸連絡
第2日 10月3日	オリエンテーション	事例演習2 「教育相談と危機管理(1)」 ～事前課題に関する協議等～ 文教大学 教授 柳生 和男	屋食・休憩							事例演習2 「教育相談と危機管理(2)」 ～演習成果の発表～ 文教大学 教授 柳生 和男			講義 「教育相談体制をよりよくするために」 文教大学 教授 柳生 和男				諸連絡
第3日 10月4日	オリエンテーション	講義 「教育相談を効果的に推進するために(1)」 ～効果的な教育相談の進め方～ 広島大学大学院 教授 栗原 慎二	屋食・休憩							講義、演習 「教育相談を効果的に推進するために(2)」 ～保護者との関わりを通して～ 広島大学大学院 教授 栗原 慎二							諸連絡
第4日 10月5日	オリエンテーション	講義 「教育相談のリーダーとなるために」 神田外語大学 教授 嶋崎 政男	閉講式														

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	子どもの体力が低い水準で推移していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子どもの運動意欲を高める取組が求められている。 本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子どもの体力向上を図るための手法を修得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年5月22日（火）～平成24年5月25日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	223	人
開 催 場 所	東京都教職員研修センター（東京都文京区）他					

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 469 人、 参加率 123.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	197	88.3	0	0.0	0	0.0	4	1.8	223
		219	98.2							

2. 研修内容に関する主な意見

- ・短時間で充実した話し合いをすることができてよかったです。事前課題で学年も指定されてあることで話し合いの視点が定まってくるからだと思います。また、各地域の取り組みの情報交換もでき、大変有意義な時間となりました。
- ・具体的な授業をより充実させ、子どもたちの体力向上に努めていきたいと改めて思った。また、今回学んだことを、確実に県の先生方に伝達したい。
- ・全国で抱えている問題点やそれをどう解決していくのかということ、具体的に数値で見ることができ、分かりやすく説明してもらえた。
- ・学習指導要領について、体力向上に向けた考え方などわかりやすかったです。先のことを考えながら子どもたちの体力向上を目指さないといけないと感じた。
- ・「研修講師となるために」のコマでは研修の意義、指導と評価の一体化など、研修講師となるため、気持ちが引き締められた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、研修後の効果的な活用が図れるよう、より平易なものに改善を図った。
・全体会の各部会別発表が発表時間厳守の進行となるようパワーポイント資料内容構成について講師間で横の連携をとった。
次年度に向けて
・文部科学省が「幼児期運動指針」を策定したことを踏まえ、幼児期の運動に係る部会を新設する。
・部会別演習の発表をポスターセッション方式とすることにより、受講者は関心のある部会の内容についてより深く学ぶことができるようにする。
・講師の研修内容に対する理解や講師相互間の連携をより深めるため、事前協議会の時間をこれまでより長く設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック） 日程

	12:00	12:30	12:50	13:00	14:00	17:00
5月22日(火)	受付	開講式	休憩	全体会	部会・コース別演習	
				「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・運動の習慣化に向けた体力向上の取組の分析及び事前課題に関する班別協議	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月23日(水)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	部会・コース別演習	部会・コース別演習	
	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月24日(木)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	部会・コース別演習	部会・コース別演習	
	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:50	15:00
5月25日(金)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	全体会	全体会	閉講式	
	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方③」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方④」 (演習・協議)		「体力の向上に向けた取組の工夫について」 ・部会別演習の発表	「研修講師となるために」		

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	子どもの体力が低い水準で推移していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子どもの運動意欲を高める取組が求められている。本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子どもの体力向上を図るための手法を修得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年5月15日（火）～平成24年5月18日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	246	人
開 催 場 所	奈良県文化会館（奈良県奈良市）他					

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 469 人、 参加率 123.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	210	85.4	33	13.4	0	0.0	0	0.0	3	1.2	0	0.0	246
		243		98.8										

2. 研修内容に関する主な意見

・学習指導要領改訂のねらいや具体、小中高の系統性と評価について、より深く理解することができました。またたくさんの実践例からヒントを得、グループでの話し合いにより修正したり発展させることが、大変参考になりました。
・体力向上と領域の内容（資質、能力）との関係、そのための手立て等について構造的に理解することができました。
・子ども体力が低下していることに対しての、具体的改善方法になるヒントを得たことが1番の収穫であった。今回学んだことを自分なりに発展させ、全国の子どもの体力が向上できることを実践していきたい。
・子供の体力向上をめざして、体育教員である我々がなう責任は大きいと実感した。特に運動機会の少ない女子の体力を伸ばしたい。
・「研修講師となるために」では、内容はもちろんですが、研修講師は「こうやってやるんだな」という説明で勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、研修後の効果的な活用が図れるよう、より平易なものに改善を図った。
・全体会の各部会別発表が発表時間厳守の進行となるようパワーポイント資料内容構成について講師間で横の連携をとった。
次年度に向けて
・文部科学省が「幼児期運動指針」を策定したことを踏まえ、幼児期の運動に係る部会を新設する。
・部会別演習の発表をポスターセッション方式とすることにより、受講者は関心のある部会の内容についてより深く学ぶことができるようにする。
・講師の研修内容に対する理解や講師相互間の連携をより深めるため、事前協議会の時間をこれまでより長く設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック） 日程

	12:00	12:30	12:50	13:00	14:00	17:00
5月15日(火)	受付	開講式	休憩	全体会	部会・コース別演習	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・運動の習慣化に向けた体力向上の取組の分析及び事前課題に関する班別協議

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月16日(水)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	部会・コース別演習	部会・コース別演習	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月17日(木)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	部会・コース別演習	部会・コース別演習	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:50	15:00
5月18日(金)	部会・コース別演習	部会・コース別演習	昼・休憩	全体会	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康コース（東部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成24年11月12日（月）～平成24年11月15日（木）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	179	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 733 人、参加率 101.8%
※ 健康コース 受講定員 330 人、受講者数 319 人、参加率 96.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	153	85.5	25	14.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	179
		178		99.4										

2. 研修内容に関する主な意見

・子どもたちの現状をふまえて講義や演習は、今後の教育活動を進めるうえで、参考になるものばかりでした。伝達も含め、広く活用していきたいと思います。 ・健康教育について多方面からの講義内容が盛り込まれていて、とても有意義な研修となりました。職種や校種もそれぞれの立場での参加で情報交流の場となり、又最新情報を得る機会となる研修でした。 ・健康教育の大切さを実感した、大変有意義な研修でした。次に県内の先生方に伝達を行い、健康教育についての理解を多くの先生方に深めていただけるように努力していきたいと思います。演習がたいへん理解を深めるのに効果的でした。 ・4日間、中身の濃い研修でした。最新の情報について詳しく説明していただき、新しい情報と知識を得る事ができました。また演習は実際の場面に大変役立つものでした。組織で取り組むこと、早期対応の必要性等、地域に戻り伝えていこうと思います。 ・自分が研修講師となり、研修会を開催するシュミレーションは、実践的で有効でした。本研修での内容をしっかり自分の中に定着させ、講師になる自覚を持ち、多方面で還元したい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・推進コース（3日間）と専門コース（5日間）を4日間の日程に一本化し、研修内容の整理を行った。 ・健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において実施した。 ・「研修講師となるために」には、受講者が指導者となった場合の研修の進め方について指導計画を作成し発表を行った。
次年度に向けて ・引き続き、養護教諭と保健主事との密接な連携による健康教育の充実を図る観点から、研修内容・方法の検討を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 健康教育指導者養成研修 健康コース 日程

日程 東部ブロック(つくば) : 平成24年11月12日(月)～15日(木)

9:30		10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	14:50	15:00	15:55	16:05	17:00
第1日目	受付	オリエンテーション	講義1(55分)	講義2(55分)	昼食・休憩	講義・演習1(110分)	講義3(55分)	講義4(55分)	休憩	休憩	
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 調査官 森良一	子どもの心のケアのために ◎目的: 災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める 文部科学省 調査官 岩崎信子		児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学 教授 十一元三	保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 聖心女子大学 教授 植田誠治	学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利			

9:00		12:00	13:00	17:00
第2日目	受付	講義・演習2-1(180分)		講義・演習2-2(240分)
		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 京都市教育委員会 主席指導主事 奥村耕三 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 ・薬物乱用 佐賀県教育委員会 学校体育係長 福井宏和		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 京都市教育委員会 主席指導主事 奥村耕三 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 ・薬物乱用 佐賀県教育委員会 学校体育係長 福井宏和
第2日目	部会別演習	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利
		◎目的: 心身の健康に関する個別の課題に対応した指導のあり方について理解を深める 名古屋学芸大学 教授 采女智津江		◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ Ⅰ 前十文字学園女子大学 准教授 松野智子 Ⅱ 那覇市立壺屋小学校 校長 下地京子 Ⅲ 長野県教育委員会 主任指導主事 小出まゆみ Ⅳ 浜松市立花川小学校 教頭 稲川秀子

9:00		12:00 13:00		14:40 14:55		17:00	
第3日目	受付	講義・演習2－3(180分)		講義・演習2－4(100分)		講義・演習3(125分)	
		①保健教育の在り方		①保健教育の在り方		児童虐待への対応	
		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 京都市教育委員会 主席指導主事 奥村耕三 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 ・薬物乱用 佐賀県教育委員会 学校体育係長 福井宏和		◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 心の健康 聖心女子大学 植田誠治 京都市教委 奥村耕三 喫煙・飲酒 茨城大学 上地勝 ・薬物乱用 佐賀県教委 福井宏和		◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について学ぶ 社会福祉法人横浜博萌会 子どもの虹情報研修センター 専門相談室長 小出太美夫	
		②学校保健マネジメント		②学校保健マネジメント		移動・休憩	
◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利		◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学 柳沢和雄 群馬県教育委員会 山田知利					
事例研究		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討)		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際)			
◎目的: 事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】名古屋市教育委員会 指導主事 山口純枝 【中学校】真岡市立真岡西小学校 校長 小高邦夫 【高校】FS教育研究所 所長 花輪俊男		◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 島根県教育センター 指導主事 下岡光子					

9:00		12:00	13:00	15:00	15:15
第4日目	受付	講義・演習4(180分)		講義・演習5(120分)	閉講式
		◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える 京都大学 准教授 木原雅子		研修講師となるために ◎目的: 本研修を振り返り、本研修の成果等をまとめる 文部科学省 調査官 岩崎信子	
第4日目	コース別演習	◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える 国立感染症研究所感染症情報センター 主任研究員 安井良則			

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康コース（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成24年12月11日（火）～平成24年12月14日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	140	人	参加率 ※
開 催 場 所	アクロス福岡（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 720 人、受講者数 733 人、参加率 101.8%
※ 健康コース 受講定員 330 人、受講者数 319 人、参加率 96.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	109	77.9	0	0.0	2	1.4	0	0.0	140
		138	98.6							

2. 研修内容に関する主な意見

・様々な地域より、いろいろな所属の教育関係者と交流できたことは大変有意義であった。また各講演により、あらためて基本的な考え方が大切であること、そこから始まることを確認できた。 ・法的根拠の大切さを、今一度学ぶことができた。健康教育について深く考えることができた。今後、学校の現場でしっかり活かしていきたい。 ・講義と演習がほどよく取り入れられていて、大変良かったです。そして伝達講習の講師になることを常に頭において研修に取り組むことができ、自信もつきました。 ・現代の健康課題等をふまえ、学ぶべきこと、身につけておかなければならない資質、能力に関して各講義や演習を計画していただき、大変有意義な研修となった。今後、各種研修の機会等で、本研修での学びを広めていきたい。 ・「教員研修の手引き」の冊子は、今後の参考にできるいい資料だと思いました。利用していきたいと思いました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・推進コース（3日間）と専門コース（5日間）を4日間の日程に一本化し、研修内容の整理を行った。 ・健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において実施した。 ・「研修講師となるために」には、受講者が指導者となった場合の研修の進め方について指導計画を作成し発表を行った。
次年度に向けて ・引き続き、養護教諭と保健主事との密接な連携による健康教育の充実を図る観点から、研修内容・方法の検討を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 健康教育指導者養成研修 健康コース 日程

日程 西部ブロック(福岡) : 平成24年12月11日(火)～14日(金)

9:30		10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	14:50	15:00	15:55	16:05	17:00
第1日目	受付	オリエンテーション	講義1(55分)	講義2(55分)	昼食・休憩	講義・演習1(110分)	休憩	講義3(55分)	休憩	講義4(55分)	
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 調査官 森良一	子どもの心のケアのために ◎目的: 災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める 文部科学省 調査官 岩崎信子		児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学教授 十一元三		保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝		学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 日本女子体育大学 教授 畑攻 福島県教育委員会 指導主事 高橋伸明	

9:00		12:00	13:00	17:00
第2日目	受付	講義・演習2-1(180分)		講義・演習2-2(240分)
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗
第2日目	部会別演習	②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 福島県教育委員会 指導主事 高橋伸明		②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 福島県教育委員会 指導主事 高橋伸明
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導) ◎目的: 心身の健康に関する個別の課題に対応した指導のあり方について理解を深める 名古屋学芸大学 教授 采女智津江		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方) ◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ I 安来市立母里小学校 校長 荊尾玲子 II 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 III 北海道教育委員会 主査 渡邊祐美子 IV 鳥取県立鳥取東高校 養護教諭 西尾美由紀

9:00		12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
第3日目	受付	講義・演習2-3(180分)		講義・演習2-4(100分)	移動・休憩	講義・演習3(125分)
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗		①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 生活習慣病 横浜国立大学 物部博文 鳴海高校 丸山洋生 宇都宮大学 和唐正勝 栃木県教委 岩村康朗		児童虐待への対応 ◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について学ぶ 社会福祉法人横浜博萌会 子どもの虹情報研修センター 専門相談室長 小出太美夫
第3日目	部会別演習	②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 福島県教育委員会 指導主事 高橋伸明		②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学 畑攻 福島県教育委員会 高橋伸明		
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討) ◎目的: 事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】跡見学園女子大 教授 松善くみ子 【中学校】高知県心の教育センター チーフ 大城由美 【高校】滋賀県心の教育相談センター チーフカウンセラー 生天目聖子		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 島根県教育センター 指導主事 下岡光子		

9:00		12:00	13:00	15:00	15:15
第4日目	受付	講義・演習4(180分)		講義・演習5(120分)	閉講式
		A 学校における性に関する指導の在り方 ◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える 京都大学 准教授 木原雅子 B 学校における感染症対策の在り方 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える 国立感染症研究所感染症情報センター 主任研究員 安井良則		研修講師となるために ◎目的: 本研修を振り返り、本研修の成果等をまとめる 文部科学省 調査官 岩崎信子	

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 食育（推進）コース					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 イ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（栄養教諭を除く） ウ その他、上記ア、イに準ずる者					
開 催 期 日	平成24年7月17日（火）～平成24年7月20日（金）					4日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	81	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 733 人、参加率 101.8%
※ 食育コース 受講定員 170 人、受講者数 189 人、参加率 111.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	73	90.1	5	6.2	0	0.0	81
		78	96.3			3	3.7	

2. 研修内容に関する主な意見

・ 沢山の実践を学ぶことができました。食育に関する基本的な事項を再確認もでき、自分自身が講師になった時のことをイメージしつつ研修に参加しました。資料が多かった分、今後生かす場があり役立てることができそうです。 ・ 食育の指導者という立場の研修でしたので、これまでの研修や食に関する指導の手引などから、今まで持っていた知識より深く、学校教育の中での食育の意義や役割、栄養教諭の職務等について学ぶことができました。特別活動についても指導案の作成を通して学び合い、また理科や道徳といった教科についても、今回初めて詳しく学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。 ・ 教科指導等や食育についてより一層、意識啓発をはかっていきたいと思った。今回の研修で、食育の指導案作成における4つの観点を示していただいたことで、今後、学校訪問時や研修等で活用していきたい。ありがとうございました。 ・ 指導者として、必要な知識、心構えを、今回の研修で学ばせていただきました。他県との情報交換をすることができ、指導主事として悩んでいる点について相談し、いろいろな立場の方からアドバイスをいただくことができて良かった。同じ目的、使命をもつ仲間ができました。いろいろありがとうございました。 ・ 1つの指導案をいろいろな多くの目で練っていくということ。その際に必要な視点、考え方など、とても多く学ぶことができました。これからの指導計画、指導に役立てたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 教育課程の編成（カリキュラム・マネジメント）の講義の内容の充実を図るため、時間増とした。 ・ 事例発表は、成功例だけでなく失敗例や何を改善し現在に至ったかという過程についても取り上げるなど、受講者が食育の効果的な推進にあたっての体制整備を学べるようにした。 ・ 「各教科等における食に関する指導案の検討」及び「指導案の発表」は、模擬授業に代えて指導案の改善点（食育の視点、他教科の関連、栄養・教諭等の生かし方な）を発表することとし、これに伴い事前課題の様式も変更した。
次年度に向けて ・ 「学校給食管理および給食の時間における食に関する指導の在り方」の講義を「学校における食育の推進」に統合する。 ・ 「食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて」、「各教科等における食に関する指導のポイント」の時間を増加し、内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

90

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 食育（専門）コース					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成24年10月16日（火）～平成24年10月19日（金）					4日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	108	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 733 人、参加率 101.8%
(全体計画人数)
※ 食育コース 170 人、受講者数 189 人、参加率 111.2%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	84	77.8	18	16.7	0	0.0	0	0.0	6	5.6	0	0.0	108
		102		94.4										

2. 研修内容に関する主な意見

・指導案を検討する時、どのような観点が大切であるかや、事前、事後の活動の流れ、本時の展開の書き方など、とても勉強になった。 ・指導案について、話し合いをした時間が大変有意義でした。指導案の内容については、今回初めて知ったことが多く、見直していかなければならないことが、たくさんできました。講師の先生方センター職員の皆様ありがとうございました。できれば、リーダーとして何かできるよう努力したいと思います。 ・学校教育全体で食育を組織的に推進するために、栄養教諭としての役割や推進方策等明確化することができました。ご指導いただきありがとうございました。 ・日頃では直接お話を伺うことのできない講師の先生方に教えていただくことができて大変勉強になりました。課題で頂いた指導案の作成では、通常は学級担任が作成する中に入れて頂く形が一般的な中、自分で一から書くことで見えてきてものが多くありました。また見直すポイントをわかりやすく例示して頂いたので今後の仕事に役立てていきたいです。他都市の方との交流もとても参考になりました。 ・今回の研修では、教科の中で食の指導ということとても勉強になりました。今までは特活での授業が多かったのですが、単元の標目や教科の特性に沿う点が非常に重要であることに気づくことができました。単発でなく単元全体で考えていくようにしなければならぬと思いました。今後の実践に有効となる内容で、十分活用し、教科での食育が定着できるようにしたいと思っています。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・教育課程の編成（カリキュラム・マネジメント）の講義を取り入れることとした。 ・「各教科等における食に関する指導案の検討」及び「指導案の発表」は、模擬授業に代えて指導案の改善点（食育の視点、他教科の関連、栄養 教諭等の生かし方な）を発表することとし、これに伴い事前課題の様式も変更した。
次年度に向けて ・「学校給食管理の在り方」、「給食の時間における食に関する指導の在り方」の講義を「栄養教諭に求められる役割」に統合する。 ・「食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて」、「個別的相談指導の在り方」、「各教科等における食に関する指導のポイント」の時間を増加し、内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

	9:30	10:00	11:20	12:30	13:30	15:40	15:50	17:00
10月16日（火）	受付	オリエンテーション 開講式	講義1 栄養教諭に求められる役割	講義2 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて	昼食	講義・演習1 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成	休憩	協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題
10月17日（水）	受付	オリエンテーション 開講式	講義1 栄養教諭に求められる役割	講義2 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて	昼食	講義・演習2 学校給食管理の在り方	休憩	協議 学校給食全体を通して食に関する指導を効果的に進めるための課題と推進方策を明確にする。
会場 教員研修センター（つくば）								

	8:30	9:30	9:40	10:40	10:50	12:10	13:10	15:40	15:50	17:00
10月17日（水）	受付	講義・演習2 学校給食管理の在り方 全国学校栄養士協議会会長 長島 美保子	休 憩	講義・演習3 給食の時間における食に関する指導の在り方 全国学校栄養士協議会会長 長島 美保子	休 憩	講義・演習4 個別的相談指導の在り方 東京女子医科大学名誉教授 村田 光範	昼 食	講義3 各教科等における食に関する指導のポイント 生活、総合的な学習の時間 特別活動 社会 文部科学省 初等中等教育局 陽介 調査官 薄井 北九州市教育委員会 指導部第一課長 大庭 正美 愛知教育大学准教授 久野 弘幸	休 憩	講義・演習5-1 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習 ※ 担当講師は欄外に記載 班別演習を通して、各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに各地域の取組を知る
会場 教員研修センター（つくば）										
10月18日（木）	受付	講義・演習5-2 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習	休 憩	講義・演習5-3 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習	昼 食	講義・演習5-4 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習	休 憩	講義・演習5-5 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習	休 憩	講義・演習5-6 各教科等における食に関する指導案の検討 各教科等別に講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）										

	8:30	12:00	13:00	17:00
10 月 18 日（木）	受付	講義・演習5-2 各教科等における食に関する指導案の検討	講義・演習5-3 各教科等における食に関する指導案の検討	
		各教科等別に講義・演習	各教科等別に講義・演習	
		※ 担当講師は欄外に記載	※ 担当講師は欄外に記載	
会場	教員研修センター（つくば）			

	8:30	12:00	13:00	14:30
10月19日（金）	受付	講義・演習6 食に関する指導案の発表	講義・演習7 研修講師となるために	閉講式
		社会	昼休	
		特別活動	食	
	※ 担当講師は欄外に記載			
各教科等ににおける食に関する指導の在り方について、代表班の発表を通して理解を深める				
会場 教員研修センター（つくば）				

※講義・演習5及び6の担当講師

○社会 久保田 福美
(学習院大学特任教授)

○特別活動 脇田 哲郎
(福岡県宗像市立玄海東小学校校長)

○生活、総合的な学習の時間 柴田 耕治
(横浜市教育局委員会指導主事)

I 研修概要

研 修 名	平成24年度 健康教育指導者養成研修 学校安全コース（東部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第一グループ						
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成24年10月9日（火）～平成24年10月12日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 720 人、 受講者数 733 人、 参加率 101.8%
※ 学校安全コー ス 220人、 受講者数 225人、 参加率 102.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	102	88.7	1	0.9	0	0.0	115
		114	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

・中央研修だけあって、日本を代表する講師の貴重な話を聴くことができ、大変有意義な研修だった。更に、各地の防災に対する取組、そして、防災教育に対する熱い思いに触れることができ、自分自身意識が高まった。 ・国全体の安全教育の課題が明確になった。またこの研修を各地域で広めていく根拠が理解できた。 ・一般的な防災に関する知識も含めて、教育活動にどのように取り入れていくべきかが、特に演習活動を通して学ぶことができた。 ・実際に震災を体験した教育委員会、学校の話は、身につまされるものがあった。しかし、その体験から学ぶことは大変大きく、自校の防災教育に持ち帰りたい。特に防災マニュアルの見直し、地域との連携を考えていきたい。 ・国や警察サイドの取組を直接聴くことができよかった。学校でできること、地域に働きかける事等様々な面から考えていく必要性を感じました。 ・学校安全に関する研修の企画づくりは、研修のコンセプトづくりに役立つ演習でした。 ・来年度研修会等で使用する資料等を作成する時間もほしい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」（最終報告）等を踏まえ、引き続き、防災教育・防災管理に重点をおいた内容で実施。 ・「通学路の交通安全の確保に関する有識者懇談会」の意見とりまとめを踏まえ、通学路の安全対策に関する講義を新設した。
次年度に向けて ・学校と地域との連携における日頃の協力体制など「地域の核」としての学校の役割の重要性について研修内容に加えると共に、防災教育を復興教育へとつなげて行くために被災体験から学んだ知見を活かせる研修内容とするなど、さらなる充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

～防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する指導者養成～
平成24年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース 日程表【東部ブロック】

第1日目

	9:00	9:30	9:55	10:25	10:35	12:30	13:30	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
10月9日 (火)	受付	開講式	課題協議1 「学校安全の現状と研修の進め方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:学校安全の現状について把握するとともに今後の取組(学校安全推進計画)について理解する。	休憩	事例発表1 「大震災を乗り越えるための教育」 気仙沼市教育委員会 副参事兼指導主事 及川 幸彦 「3.11を振り返って～その時学校で起こったこと～」 多賀城市教育委員会 学校教育課長 麻生川 敦 (前・南三陸町立戸倉小学校長) ◎目的:「東日本大震災」その時、学校現場で起こっていたこと、その後の復興教育について理解する。	昼休み	課題協議2 「学校安全の基本的な考え方」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	休憩	課題協議3 「災害安全の効果的な推進のために」 上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也 ◎目的:災害安全の特性と理論について理解する。	休憩	演習1 「学校安全計画の作成と実施について」 ◎目的:発達の段階や地域の特徴を踏まえた学校安全計画の作成と実施にあたって、参加者相互の情報交換及び課題の絞り込みを行う。	

第2日目

10月10日 (水)	9:00	10:00 10:10	11:20 11:30	12:30	13:30	14:40 14:50	15:50 16:00	17:00
	事例発表2 「学校における防災教育の実際～緊急地震速報の活用と非構造部材への対応～」 東京都板橋区立志村第一小学校 校長 矢崎 良明 ◎目的:緊急地震速報を活用した地震発生時の対応指導と非構造部材の点検や対応について理解する。	課題協議4 「交通安全の効果的な推進のために」 東北工業大学 教授 小川 和久 ◎目的:交通安全の特性と理論について理解する。	事例発表3 「保護者・地域と連携した通学路の安全対策」 国土交通省 道路局環境安全課 道路交通安全対策室 課長補佐 望月 拓郎 警察庁 交通局交通規制課 課長補佐 福山 邦之 ◎目的:保護者、地域と連携した安全体制整備の方策と学校の役割について理解する。	休 休				

第3日目

10 月 11 日 (木)	9:00	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00
	演習2-2 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ④特別支援学校部会 ◎目的:児童生徒の発達の段階に応じた防災教育の体系化の整理と、各教科等の指導内容との関連を図り効果的な指導計画を作成する。			昼休み	休憩	演習2-3 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ④特別支援学校部会 ◎目的:各グループが作成した指導計画について校種間で情報共有を図る。

第4日目

10 月 12 日 (金)	9:00	10:00 10:10	12:00	13:00	13:45	14:30
	演習2-4 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ◎目的:作成した指導計画について異校種間で情報共有を図る。	演習3-1 「学校安全に関する研修企画づくり」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:各地域で開催する研修のモデルプランを作成する。	昼休み	演習3-2 「学校安全に関する研修企画づくり」 ◎目的:作成した研修のモデルプランの情報共有を図る。	課題協議7 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:研修全体を振り返り、研修講師としてのまとめを行う。	閉講式

各部会講師一覧

①小学校部会

大阪教育大学 教授 藤田 大輔

東京都板橋区立志村第一小学校
校長 矢崎 良明
高知県教育委員会事務局学校安全対策課
課長補佐 岡田 直子

②中学校部会

東京学芸大学 教授 渡邊 正樹

兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀
宮城県教育庁スポーツ健康課
指導主事 福田 功

③高等学校部会・特別支援学校部会

上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也

東北工業大学 教授 小川 和久
静岡県教育委員会教育総務課
主幹 貝瀬 佳章
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
専門職 高塚 秀和

I 研修概要

研 修 名	平成24年度 健康教育指導者養成研修 学校安全コース（西部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第一グループ					
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年11月19日（月）～平成24年11月22日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	110	人 参加率 ※
開 催 場 所	TKP大阪梅田ビジネスセンター（大阪市）					

※ 全体受講定員 720 人、 受講者数 733 人、 参加率 101.8%
※ 学校安全コース 220人、 受講者数 225人、 参加率 102.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	88	80.0	0	0.0	0	0.0	2	1.8	0	0.0	110
		108	98.2									

2. 研修内容に関する主な意見

・実践的な防災(安全)教育を推進する上でのポイントが具体的な事例等を通して理解できた。新しいことをやらないといけないという現場の感覚を既然の取組を工夫改善していく事で、より効果的な防災教育等が展開できるという意識へと変えていく事が大切だと感じた。
・学校安全の構造（安全教育・安全管理・組織活動）について理解できた。安全教育について、危険予測、危険回避の能力を身に付けさせたい。
・特にリアルな体験をもとに発表された東北や池田小、板橋の先生方の発表は迫力と説得力があり、強く印象に残りました。また、演習については各地の先生方と共に苦闘しましたが、大いに勉強と刺激になりました。
・理論、実践発表、演習など中身の濃い演習だった。自分の県の参加者と一緒に、県内の取組についても具体的な話し合いもできて良かった。自分たちの今後の役割について理解が深まった。
・指導者養成を目的とした本研修において、わずか4日間で習得できたとは全く言えないが、今後、自分自身が勉強し、地元で発信者となる為の材料や経験は十分にいただいたと感じている。防災教育の充実に貢献できるよう努めていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」（最終報告）等を踏まえ、引き続き、防災教育・防災管理に重点をおいた内容で実施。
・「通学路の交通安全の確保に関する有識者懇談会」の意見とりまとめを踏まえ、通学路の安全対策に関する講義を新設した。
次年度に向けて
・学校と地域との連携における日頃の協力体制など「地域の核」としての学校の役割の重要性について研修内容に加えると共に、防災教育を復興教育へとつなげて行くために被災体験から学んだ知見を活かせる研修内容とするなど、さらなる充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

～防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する指導者養成～
平成24年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース 日程表【西部ブロック】

第1日目

11月19日 (月)	9:00	9:30	9:55	10:25 10:35	12:30	13:30	14:30 14:40	15:50 16:00	17:00
	受付	開講式	課題協議1 「学校安全の現状と研修の進め方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:学校安全の現状について把握するとともに今後の取組(学校安全推進計画)について理解する。	事例発表1 「大震災を乗り越えるための教育」 気仙沼市教育委員会 副参事兼指導主事 及川 幸彦 「3.11を振り返って～その時学校で起こったこと～」 多賀城市教育委員会 学校教育課長 麻生川 敦 (前・南三陸町立戸倉小学校長) ◎目的:「東日本大震災」その時、学校現場で起こっていたこと、その後の復興教育について理解する。	昼休み	課題協議2 「学校安全の基本的な考え方」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	課題協議3 「災害安全の効果的な推進のために」 上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也 ◎目的:災害安全の特性と理論について理解する。	演習1 「学校安全計画の作成と実施について」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的:発達の段階や地域の特徴を踏まえた学校安全計画の作成と実施にあたって、参加者相互の情報交換及び課題の絞り込みを行う。	

第2日目

11月20日 (火)	9:00	10:10 10:20	11:20 11:30	12:40	13:40	14:40 14:50	15:50 16:00	17:00
	課題協議4 「交通安全の効果的な推進のために」 東北工業大学 教授 小川 和久 ◎目的:交通安全の特性と理論について理解する。	事例発表2 「保護者・地域と連携した通学路の安全対策」 国土交通省 道路局環境安全課 道路交通安全対策室 課長補佐 望月 拓郎 警察庁 交通局交通規制課 課長補佐 福山 邦之 ◎目的:保護者、地域と連携した安全体制整備の方策と学校の役割について理解する。	課題協議5 「生活安全の効果的な推進のために」 兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀 ◎目的:生活安全の特性と理論について理解する。	昼休み	課題協議6 「学校における安全管理・組織活動の効果的な在り方」 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 ◎目的:効果的な安全管理・組織活動の在り方について理解する。	事例発表3 「学校における防災教育の実際～緊急地震速報の活用と非構造部材への対応～」 東京都板橋区立志村第一小学校 校長 矢崎 良明 ◎目的:緊急地震速報を活用した地震発生時の対応指導と非構造部材の点検や対応について理解する。	演習2-1 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的:児童生徒の発達の段階に応じた防災教育の体系化の整理と、各教科等の指導内容との関連を図り効果的な指導計画を作成する。	

第3日目

11月21日 (水)	9:00	12:00	13:00	15:30 15:40	17:00
	演習2-2 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的:児童生徒の発達の段階に応じた防災教育の体系化の整理と、各教科等の指導内容との関連を図り効果的な指導計画を作成する。	昼休み		演習2-3 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的:各グループが作成した指導計画について校種間で情報共有を図る。	

第4日目

11月22日 (木)	9:00	10:00 10:10	12:00	13:00	13:45	14:30
	演習2-4 「防災教育を中心とした安全教育の体系化と指導計画の作成」 ◎目的:作成した指導計画について異校種間で情報共有を図る。	演習3-1 「学校安全に関する研修企画づくり」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:各地域で開催する研修のモデルプランを作成する。	昼休み	演習3-2 「学校安全に関する研修企画づくり」 ◎目的:作成した研修のモデルプランの情報共有を図る。	課題協議7 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:研修全体を振り返り、研修講師としてのまとめを行う。	閉講式

各部会講師一覧

①小学校部会

大阪教育大学 教授 藤田 大輔

東京都板橋区立志村第一小学校
校長 矢崎 良明

高知県教育委員会事務局学校安全対策課
課長補佐 岡田 直子

②中学校部会

東京学芸大学 教授 渡邊 正樹

兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀

宮城県教育庁スポーツ健康課
指導主事 福田 功

③高等学校部会

上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也

東北工業大学 教授 小川 和久

静岡県教育委員会教育総務課
主幹 貝瀬 佳章

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（ALT）に対する来日直後オリエンテーション（財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（ALT）						
開 催 期 日	(4月期) 平成24年4月12日（木）					1日間	
	(A日程) 平成24年7月30日（月）～平成24年7月31日（火）					2日間	
	(B日程) 平成24年8月6日（月）～平成24年8月7日（火）					2日間	
	(第2次) 平成24年8月23日（木）					1日間	
受 講 人 数	定 員 (計画人数)	4月期	1,500 人	受講者数	25 人	参加率	—
		A日程			733 人		—
		B日程			607 人		—
		第2次			34 人		—
	計	計	1,500 人	計	1,399 人	計	93.3%
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計		
		大変有意義		おおむね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	34	2.4	27	1.9	8	0.6	1	0.1	189	13.5	1140	81.5	1399
		61		4.4										

2. 研修内容に関する主な意見

- ・「MEXT基調講演」「日本における外国語教育プレゼンテーション」は、背景と明確な教育課程について理解できた。先生達は熱意があり、多くの情報を与えてくれて、この仕事に対してのやる気を高めてくれた。
- ・「小学校訪問」は大変役立つ理想的な模擬授業だった。参加者を巻き込んだやりとりがよかった。
- ・「チーム・ティーチングハンドブックの効果的な活用について」はハンドブックの簡潔な概論を述べてあった。効果的なTTのための実践的なコツを示してくれた。
- ・「小学校分科会」は小学校の授業の素晴らしい例を示してくれた。
- ・「中学校分科会」は実際のTTに対するより明確な考えを得られた。とても役立つ。
- ・「高等学校分科会」は個々の生徒に合わせた授業プランをどう組み立てるかなど、大変ためになった。
- ・「高等学校における、ディベート、プレゼンテーションの効果的な指導のしかた」は、高校でのプレゼン授業がどういうものが理解していなかったのも、冒頭の明確な説明がとても助けになったが、一般的過ぎる。具体的な情報が欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・アンケートについては、これまでの研修終了後にインターネットを通じた回収に加え、研修最終日にペーパーによる回収を行った。（未回収率：H23 97.8%→H24 81.5%）
- ・「高等学校における、ディベート、プレゼンテーションの効果的な指導のしかた」を新たに設定した。

次年度に向けて

- ・アンケートの回収率を高めるため、受講者へのアナウンスをさらに徹底するとともに、研修最終日にアンケート用紙に記入する時間を設ける。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度来日直後オリエンテーション(4月期)プログラム

会場: ホテルルポール麹町

4月11日(水)	新規招致者来日 会場チェックイン→資料配布・オリエンテーション概要説明					
4月12日(木)	9:30-9:50	開会式				
	中国・韓国・ブラジル			オセアニア		
	10:00-10:30	JETプログラム説明等			10:00-10:30	JETプログラム説明等
	10:30-12:00	パネルディスカッション			10:30-11:00	サポートシステム等について (JETの経験を最大限に)
	11:00-12:00				パネルディスカッション	
	12:00-13:00	昼食			12:00-13:00	昼食
	CIR		ALT(非英語圏)		ALT(英語圏)	
	13:00-14:00	CIRロールプレイ (CIRになってみよう！)	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 向後 秀明		
	14:10-15:40		13:55-14:45	日本における中国語教育の現状: 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 教諭 藤井 達也		
			14:55-15:45	先輩ALTからの体験談及び指導助言: 鳥取県立青谷高等学校 ALT 崔 鳳来		
	15:50-16:20	取りまとめ団体別ミーティング (中・韓・ブラジル)			15:55-16:55	TOAプレゼンテーション(オセアニア)
	16:30-17:30	国別ミーティング(中・韓・ブラジル)			17:00-17:30	取りまとめ団体別ミーティング (オセアニア)
	18:30-20:00	歓迎夕食会				
4月13日(金)	各取りまとめ団体に向け出発					

平成24年度来日直後オリエンテーション A日程、B日程

A日程	B日程	時間	内 容
7月30日(月)	8月6日(月)	9:00 - 10:00	県別ミーティング ※出席確認・配置先確認、取りまとめ団体別ミーティングの案内
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明
		11:00 - 12:00	講 演
		12:00 - 13:15	昼 食
		ALT分科会	
		13:15 - 13:45	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明(A日程) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕(B日程)
		13:45 - 14:45	文部科学省プレゼンテーション 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子 (A・B日程) さいたま市立七里中学校 教諭 米田 俊克 (A・B日程) 岐阜県立東濃実業高等学校 教諭 亀谷 みゆき (A・B日程)
		15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	文部科学省分科会(小学校訪問) 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子 (A・B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa (A・B日程)
		17:00 - 17:45	CLAIR分科会 AJET分科会
		12:00 - 13:15 15:15 - 18:00	AJETインフォメーション
		18:30 - 20:00	夕食会
7月31日(火)	8月7日(火)	09:00 - 10:30	パネルディスカッション
		10:45 - 11:35	文部科学省分科会 ○ティームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画① 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子 (A・B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa (A・B日程) 四条畷市立四条畷南中学校 教諭 川上 友弘 四条畷市立四条畷南中学校 ALT Krstopher Anderson 習志野市立第二中学校 教諭 櫻井 智之 (A・B日程) 新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ALT Joseph Moore (A・B日程) 野々市市立布水中学校 教諭 竹内 美由紀 (A・B日程) 兵庫県立和田山高等学校 ALT John Cappa (A・B日程) 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts 静岡県立浜松湖南高等学校 教諭 村井 督昌 静岡県立浜松湖南高等学校 ALT Hazel Whitley
		11:35 - 12:50	昼 食
		12:50 - 13:40	文部科学省分科会 ○ティームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画② 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子 (A・B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa (A・B日程) 豊能町立吉川中学校 教諭 宗像 亮 豊能町立吉川中学校 ALT Ahmed Abushalasa 習志野市立第二中学校 教諭 櫻井 智之 (A・B日程) 新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ALT Joseph Moore (A・B日程) 野々市市立布水中学校 教諭 竹内 美由紀 (A・B日程) 兵庫県立和田山高等学校 ALT John Cappa (A・B日程) 兵庫県立尼崎小田高等学校 教諭 浜本 圭子 兵庫県立尼崎小田高等学校 ALT Stephanie Hoelker 広島県立安古市高等学校 教諭 鈴木 寿哉 広島県立安古市高等学校 ALT Holir Revere
		13:55 - 14:45	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		15:00 - 15:50	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		16:05 - 16:55	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		17:15 - 20:00	取団への出発準備

平成24年度来日直後オリエンテーション 第2次(C)日程

日付	時間	内 容
8月23日(木)	9:30 - 9:45	開会式
	9:45 - 10:20	CLAIR情報提供・AJET紹介
	10:30 - 11:30	基 調 講 演
	11:30 - 12:30	昼 食
	12:30 - 14:00	全 体 会
	ALT分科会	
	14:10 - 14:55	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕
	14:55 - 15:05	休憩
	15:05 - 15:55	文部科学省分科会 ○ティームティーチングと効果的な授業計画① 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts
	15:55 - 16:05	休憩
	16:05 - 16:55	文部科学省分科会 ○ティームティーチングと効果的な授業計画② 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts
	17:10 - 17:40	都道府県別ミーティング
	18:30 - 20:00	夕食会

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A－1：学校経営の改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月3日（水）～平成24年10月13日（土）					11日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	18	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	17	94.4	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの指導・助言が、タイムリーにいただけたので、研修を深めることができました。

・丁寧な事前研修、研修地でのアドバイザーによる講話のおかげで有意義な視察ができました。

・訪問先の各機関共によくしていただいた。日本語でのプレゼンを準備してくれていた学校もあり、感謝している。

・やや訪問が日程的につめ込んでいた感じがあった。各自や各班で内容を調整するには、もう半日ほど、班内の情報整理の時間があってもよいように思った。夜にホテルで班ごとに遅くまで打ち合わせをしていたのが実情である。

・訪問先からの説明、見学、質疑応答等の時間をもう少し長く設定できないだろうか。約2時間の設定だったと思われるが、訪問先によっては、2.5時間から3時間くらい設定していただいてもよいと思われるところが半分以上あった。

・事前研修等で質問事項を決定したが、訪問先の説明を聞き、変更せざるをえないことがあった。我々が柔軟性をもち、質問事項に固執しないことが重要だと考える。

・事後研修会における研修成果の活用レポートの協議は十分に行うことができた。各自が発表等の資料を準備しており、有効に成果の活用ができそうである。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。
・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。
・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。
・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。
・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A－2：学校経営の改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月1日（月）～平成24年10月12日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	18	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	14	77.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーから、わかりやすい講義、派遣中の適切なアドバイス等、意欲がわく支援をしていただき感謝申し上げます。 ・研修は大変充実していたと感じたが、やや日程的に厳しさを感じるがあった。受入校も大変だと思いますが、1校について午前中に説明を聞き、施設見学等、午後から詳しく質問や協議ができると充実した研修になると思う。 ・事前研修で質問事項までしっかりと踏み込めたことが、現地へ行っても慌てずに取り組めた大きな要因でした。一校一校での質問の回答が積み重なり、全体としてイギリスの教育全体がイメージできました。 ・素晴らしい経験をすることができ、感謝いたします。県の教育の発展のためにできる限り役立てていく所存です。 ・通訳の方は、教育に関する専門性が高く、かつ手際よい対応をしていただいたため、研修効果も大きいと感じました。通訳の人は本研修において、とても重要であると思いました。 ・事後研修会は、報告書作成も中心の1つであったが、海外研修で得た知見をもとにして協議できたことが大きな収穫であった。 ・事後研修会のシニアアドバイザーの講義や指導・助言は、私たちの気づかない視点で振り返りのポイントを示唆していただき、その後の協議を深めることができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B－１：言語力・コミュニケーション力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年11月18日（日）～平成24年11月29日（木）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	15	75.0	5	25.0	0	0.0	0	0.0	20
		20	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーからの意見は大変参考になりました。 ・実際に訪問し、生の様子を肌で感じると、事前に思っていたこととは、ずい分印象が異なっていました。子どもたちの表情、先生方の表情からも学ばせていただきました。 ・学校だけでなく教育を支える機関や行政などの視察もさせていただき、広い視点で学ばせていただくことができました。 ・日本の教育しか知らない私にとっては、今回の研修は教育面だけでなく、文化や歴史等学ぶ事が多く、大変すばらしいものであった。教師としての自分を見つめ直し、新たな意欲も喚起できたように思う。こうした研修に参加させてもらったことに感謝すると同時に、子ども達や同僚にも海外のすばらしさや、海外と積極的に関わっていく大切さを呼びかけていきたいと思う。 ・様々な校種、県の先生方とネットワークができ、大変充実した研修になった。 ・訪問校をもう少し選定し、一ヶ所に時間をかけて訪問したいと思った。 ・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」を通して、自分たちが見落としていたことに気付くことができ、報告書に生かすことができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（Ｂ－２：言語力・コミュニケーション力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月20日（土）～平成24年10月31日（水）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	16	84.2	3	15.8	0	0.0	0	0.0
		19	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーから、幅広い見識に基づいた助言を頂き、派遣国のみでなく、日本の教育現場でもすぐに活用できるような御指導もいただき、大変に有効だと思います。 ・訪問先は、小中、中高一貫、大学、公共施設、教育委員会など様々で良かったです。訪問する順番はもう少し工夫しても良かったと思う。 ・様々な県から教員が集まり、交流できたことは自分自身大変勉強になり、大きな財産となった。 ・海外の教育の実情を知ること、日本の教育の良さや改善点を体験することができ、大変有意義な研修であった。今後も継続していただきたい。 ・事後研修会では、最初にシニアアドバイザーによる振り返りの講義があったので、そのご指導の方向に沿って、それ以降の協議がすすめられよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C－1：PISA型学力の育成）						
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開催期日	平成24年10月29日（月）～平成24年11月9日（金）					12日間	
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率
開催場所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	20	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20
		20	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会では、海外で学んできたことを現場で広げていく研修指導者としての意識を強く持つことができました。

・事前研修会の主任指導主事の講義「研修講師となるために」は、簡潔でわかりやすいプレゼンでした。主体的に課題意識を持ち、日本で生かせることは何かをつかむための研修をすすめることができました。

・参加者の校種等にも配慮され、ほぼ理想的な訪問先であった。すばらしいコーディネートで十分な視察ができました。

・事前に質問等について十分に協議を重ねてきたが、実際その質問をそれぞれで行えるケースは少なかった。しかし、その場その場の疑問を解決する視点も必要であったので、概ね良かったと思う。

・シニアアドバイザーからは、海外派遣中も様々なアドバイスや示唆に富んだ話が伺え、本当に勉強になりました。今回の調査を踏まえ、さらに、指導・助言内容を自分のものとしていきたいと考えました。

・視察をして研修としている意味では大いに意味がありました。現地の学校をさらに深く知るためにも、教員レベルでの意見交換や、生徒と話をする場面が積極的に計画されてもよいかと感じました。

・事後研修会のシニアアドバイザーの講義や指導・助言をいただき、訪問国の教育現状を再認識でき、自分たちの報告書の内容にブレがないか見直すことができた。

・事後研修会の「研修成果の活用レポートの協議とまとめ」では、他の調査・研究テーマ班の発表を聞き、互いの取組について協議できたので内容が深まりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。
・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。
・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。
・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。
・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C－2：P I S A型学力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月15日（月）～平成24年10月26日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	20	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
（全体計画人数）

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	18	90.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20
		20		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーは、フィンランドの教育に精通されており、参加教員が主体的に視察、積極的に質問する体制を構築されていたので、大変内容の濃い研修であった。 ・今回のような海外派遣研修の機会を与えてくださり、感謝しています。校内をはじめ、地域・全国等、いろいろな場面で今回の研修成果を生かしていきたいと思います。 ・とてもよい研修を体験させていただきました。研修そのものだけでなく、他県の先生方と情報交換できたことは大変勉強になりました。 ・実際に顔を合わせて協議することで、報告書の内容は深まった。今後も事後研修会は大切だと感じました。 ・他の団との合同の事後研修会を実施することにより、一層、事後研修会の意義が深化すると思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「P I S A型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D－１：学校安全・防災教育の推進）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月15日（月）～平成24年10月26日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
（全体計画人数）

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	12	80.0	3	20.0	0	0.0	0	0.0	15
		15	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーから適切な指導を頂き、大変良かった。 ・貴重な体験ができた。小・中・高、バランスよく視察でき、ランチタイムなど子どもたちと触れ合う機会もありよかった。 ・個人では体験できない有意義な研修を受けさせていただきました。研修の内容だけでなく、他県の先生方とも交流できたことが、とても印象的でした。 ・事前研修会で、研修成果の生かし方について、もう少し具体的な内容が欲しかった。 ・研修成果の活用レポートのイメージが共有化できなかった。「研修資料」に過去の活用レポートの例が参考として示してあったが、活用レポートのモデルをもう少し具体的に示していただきたいと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E－1：生徒指導・教育相談の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月8日（月）～平成24年10月19日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	18	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
（全体計画人数）

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	17	94.4	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18	
		18		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには、専門的な用語解説、共通理解を行う場を設定していただき、分かりやすかったです。 ・事前研修会の主任指導主事からの講義「研修講師となるために」は、研修を受け止める上での心の持ち方を自分に問いかけ、確認することができ良かったです。 ・広い見地から生徒指導を考察でき、現場での指導に大いに活用できるものがありました。特に、いじめについての対応と方策は早急に実践していくことができると思いました。 ・シニアアドバイザーとともに、通訳の方の教育に対する理解度が調査を進める上で大変な意義を持つことがわかった。今回の研修では、通訳が深く勉強されており、また、私たちの研修目的を十分に理解していただいたことに大いに助けられたと思う。 ・様々な県から校種や職種・年齢が違う参加者が集まりましたが、抱えている悩みや課題に共通点を見いだすことができ、充実した研修を送ることができた。先生たちとの出会いが、自分を奮い立たせるものとなり、現場でさらにがんばろうという思いを持つことができた。 ・事後研修会の内容の充実、研修成果の活用の方向性については、地域において自分のポジションで生かしていきたいとします。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E－2：生徒指導・教育相談の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月8日（月）～平成24年10月19日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	14	82.4	3	17.6	0	0.0	0	0.0	17
		17	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会では、派遣テーマがわかっていても、訪問先でどんな研修ができるのか具体的にわからないので、調査事項・質問事項を考えるよりも、研修先の教育システムや事情、その地域の環境等について事前学習をしたほうがよいと思いました。
・訪問先機関の受け入れ体制が予想以上に手厚い対応で驚きました。
・しばらく現場を離れ、先進事例を学びながら日頃の教育実践について振り返り、これからの実践への展望を抱くのととても貴重な体験となりました。
・調査・研究テーマに設定したアンガーマネジメントについて、学校教育の中でどのように実践されているのか知りたかったが、訪問先に的確に伝わっていなかったのではないかと感じた。
・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言は、日米の比較において、整理する視点を与えていただいた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。
・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。
・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。
・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。
・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F－1：キャリア教育の充実）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者					
開 催 期 日	平成24年10月8日（月）～平成24年10月19日（金）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人
開 催 場 所	別紙のとおり					
		※	全体受講定員 (全体計画人数)	300 人、	受講者数	296 人、
				参加率	98.7%	

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	14	82.4	3	17.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17
		17		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・団員の問題意識も異なるので、事前研修会の場で、調査・研究テーマや質問事項まで決めるのは、かなり無理があるように思いました。せめて質問事項については、後日の方が的を得た内容になると思いました。 ・シニアアドバイザーの出発前からの細やかな配慮により研修内容が充実するとともに、安心して研修に臨むことができた。 ・海外の学校や教育機関を訪問し、先進的な取組状況やその成果と課題について研修できる機会は他にあまりありません。新たな発想や視点で教育活動の活性化と充実を図っていく上で、大変有意義な研修だと思えます。 ・様々な立場・角度から研修できる訪問内容でした。もう少し余裕があると良かった。 ・いずれの訪問先も十分な対応をいただき感謝しています。もう少し話を伺いたいところもあったので、時間の制約もあり残念でした。 ・訪問先の選定に間違いがなく、大変参考になる学校や教育機関でした。移動中、バスの中でのまとめ作業など、時間を有効に活用できたと思えます。 ・事後研修会のシニアアドバイザーの講義や指導・助言は、協議を進める上で、とても参考になりました。 ・帰国後、学校現場に戻り研修したことを実践等してきたが、事後研修会で改めて学び直すことことで新たな気づきや研修内容の確認ができ、とても有意義な研修であった。														
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。 次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。														
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F－2：キャリア教育の充実）									
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ									
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。									
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者									
開 催 期 日	平成24年11月12日（月）平成24年11月23日（金）							12日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	17	人	参加率	※		
開 催 場 所	別紙のとおり									

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義	概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	13	76.5	4	23.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17	
		17		100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・ 全校種をバランス良く視察でき、貴重な資料も入手できました。日本との教育制度の違いからくるものも多々ありますが、様々な視点で、今後のビジョン・キャリア教育の視点を踏まえた学校の在り方・教科指導などに活用できることがあり、大変充実した日々でした。
・ 訪問先では、丁寧な説明や施設見学、質問に対しても誠実に答えていただくなど、歓迎をしていただいた。訪問時間等の関係もあり、十分な質問等ができず調査不足の面もあったが、充実した訪問であり、所期の目的は達成できたと思う。
・ 訪問先と研修テーマがどのように関連するか、事前研修会まで想定できていなかったため、シニアアドバイザーの講義だけでは、理解が不足していたと思います。
・ 派遣後、研修成果の活用をどのように位置づけるのか、推薦元の位置づけが不明確でとても残念に思いました。参加者の意欲にもつながる課題だと思います。
・ 事前研修・海外研修・事後研修と一連の流れの中で、改めて日本の教育の課題に対し導入していくこと、再構築していくビジョンとして意識することができました。また、別の視点で現在行っている日本の教育の良さを感じることができました。今後の教育活動に生かしていきたいと思います。
・ 日本とは教育のシステムが違い、すぐに取り入れることができないことも多くあったが、先進国の取組を知ることで意識が変わった。新年度になったら、学校組織の中にキャリア教育に関係したものを取り入れ、少しずつ実践をすすめていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。
・ 研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。
・ 事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。
・ 参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・ 事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。
・ 各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G－1：スポーツ・健康教育の推進）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者					
開 催 期 日	平成24年10月29日（月）～平成24年11月9日（金）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	12	75.0	4	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	16
		16		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの綿密な調査計画と助言のもと、調査のねらいと流れについて事前研修会において詳細に学ぶことができ、現地での調査活動をスムーズに行うことができた。 ・調査のねらいも概ね達成でき、大変充実した研修であった。海外のスポーツ教育における先進的な取組を直接学ぶことができたことはもちろん、参加者の県市の状況を知る貴重な機会となった点も満足している。 ・現地での調査においては、行政機関・教育委員会・学校・民間団体とバランス良く訪問することができ、より広い視野・考え方で研修をすすめることができた。 ・現地研修で得た多くの有用な情報を体系化してまとめあげる作業を実施した事後研修会は、研修の総括として非常に充実したものとなった。 ・事後研修会では、シニアアドバイザーの細部にわたる丁寧な助言のもと、日本におけるスポーツ・健康教育の推進のために役立たせるための報告書を作成する作業を進めることができた。 ・事後研修会では、参加者の実践発表を聞くことができ、より効果的な研修成果の活用について考察することができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。 次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H－1：学校教育の情報化・I C Tの活用）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年9月24日（月）～平成24年10月5日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	18	94.7	1	5.3	0	0.0	19
		19	100.0	0	0.0	0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの指導・助言は、タイミング・内容ともに非常に適切だった。おかげで、団員の意思統一が図られ、調査・研究に生かされた。 ・素晴らしい研修の機会を与えていただけて感謝しています。この研修が今後も継続され、教員のスキルアップにつながればと考えます。 ・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言をいただき、日本において、どのように活用するかという視点をより生かすことができた。 ・事後研修会におけるシニアアドバイザーの講義、指導・助言が大変分かりやすく、報告書の記述の方向性について共通理解が図れたと思います。 ・教員研修センターと推薦元の連携によって、参加者の報告の場を設けることで、研修の成果を教育現場に還元できるようになるとよい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「P I S A型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I－1：特別支援教育の充実）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者					
開 催 期 日	平成24年11月19日（月）～平成24年11月30日（金）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人
開 催 場 所	別紙のとおり					
		※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7% (全体計画人数)				

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	14	100.0	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 事前研修会における教員研修センター主任指導主事の講義「研修講師となるために」は、とても参考になる内容であるとともに、研修意識が高まる内容でした。 ・ シニアアドバイザーがいつも団員を気にかけて、やさしく楽しく話しかけてくださいました。些細なことでも気楽に相談できる環境を作ってくださいました。講義や派遣中の指導も適切であり、大変有意義でした。 ・ 訪問目的に添った訪問先であり、各障害種の機関から学校の視察、説明を通して理解が深まり、大変有意義な研修となりました。 ・ 訪問都市が1ヶ所だったので、ホテル内で情報交換や研修内容の確認・意見交換ができ、互いに理解を深めやすい。 ・ 通訳者とシニアアドバイザー等が、専門用語について打合せや協議の機会があると、より速く、深く、団員の理解が図られると思いました。 ・ 事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言があり、協議が深まった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・ 研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・ 事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・ 参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・ 事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・ 各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I－2：特別支援教育の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者						
開 催 期 日	平成24年10月29日（月）～平成24年11月7日（水）					10日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	13	86.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15
		15	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・訪問先では、現場の教員と情報交換の場が設定できるとよいと思う。理念を実際に知ること、成果を活用する際に役立つと思う。
・訪問先の事情もあると思うが、統合教育（インクルーシブ教育）がどのように行われているかを授業の場面を実際に見る機会を増やすことで、日本の教育との違いをより具体的に把握できると思う。
・通訳者は、派遣テーマの特別支援教育について十分事前に情報を得ており、質疑応答におけるストレスを感じることがなかった。
・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言は、事前研修、海外研修の内容を踏まえ、さらに最新の情報を知ることができ、報告書の内容にも反映することができた。
・事後研修会の「研修成果の活用レポートの協議とまとめ」、「研修成果報告書の協議とまとめ」では、概ね共通認識ができましたが、時間が不足していると思う。
・事後研修会は、海外研修を振り返り、改めて成果や課題を確認するために、有意義な研修でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。
・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。
・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。
・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて
・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。
・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J－1：学校と地域等の連携）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者					
開 催 期 日	平成24年10月29日（月）～平成24年11月9日（金）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人 参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	16	100.0	0	0.0	0	0.0	16
		16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの講義や助言は、課題設定や調査内容を決定する上で大変良い内容であった。 ・シニアアドバイザーには、参加者の自主性を重んじながら適切な指導・助言を頂くことができた。 ・訪問先は、派遣テーマに即した、共通性・統一感のある選定だった。 ・団員の意識の上で、報告書作成のウエイトが大きく、研修の目的になってしまっている部分がある。 ・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言は、海外研修のポイントを振り返り、報告書に生かすことができた。 ・事後研修会は、各々のレポート・報告書が既に仕上がっており、団長等のチェックも済んでおり、スムーズにすすめることができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「P I S A型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。
次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J－2：学校と地域等の連携）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者					
開 催 期 日	平成24年10月9日（火）～平成24年10月20日（土）					12日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人 参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 296 人、 参加率 98.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	17	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17
		17	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには、事前研修会の講義・指導助言だけでなく、海外派遣中も調査の方向を明確に示していただいたり、日常会話の中で様々な情報提供をしてくださったりしたので、とても有りがたかった。 ・事前研修会は、訪問国の教育事情・訪問先の概要など予備知識を持って協議に臨んだ方が、協議の内容を深められたと思う。 ・事前研修会の教員研修センター主任指導主事の講義「研修講師と成るために」は、海外研修を意義のあるものとするために必要なことについて確認できた。 ・様々な校種の学校を訪問することで、訪問国の教育制度を理解することができた。 ・充実した素晴らしい研修になりました。日本の教育の課題だけでなく、日本で今までやってきたことの成果や、日本の教育の良さも改めて実感することができました。本研修で学んだことを、今後の教育指導の中や、地域の教育において還元していきたいと思います。 ・事後研修会の「シニアアドバイザーによる海外研修の振り返り」や指導・助言は、海外研修後4ヶ月が経過し、研修させていただいた内容を思い出すことに留まらず、今後の報告書作成において意義深いものとなりました。 ・事後研修会の「研修成果の活用レポートの協議とまとめ」は、作成担当の先生方が様々な工夫をされた発表で、今後の参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去5年間の実施状況を踏まえ、派遣テーマの見直しを行った。「小学校英語」「理数系教育」の2テーマを廃止し、「PISA型学力の育成」「学校安全・防災教育の推進」の2テーマを新規テーマとして実施した。 ・研修目的と内容の明確化を図る観点から、推薦募集時に、派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定地域・派遣予定期間を実施要項に明示した。 ・事前研修会の協議内容を深める観点から、年間スケジュールを前倒しし、事前研修会までに派遣国における訪問学校等を決定した。 ・参加者に、研修全体の具体的なイメージを持って研修に臨んでもらうため、事前研修会において、前年度の報告書を参加者全員に配付した。 次年度に向けて ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供に努める。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成24年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム

派遣テーマ	団数	派遣 団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修会	事後研修会
学校経営の改善	2	A－1	18	アメリカ	10/3 ～ 10/13	11	8/20～21 福岡	1/24～25 福岡
		A－2	18	イギリス	10/1 ～ 10/12	12	8/29～30 東京	2/14～15 つくば
言語力・コミュニケーション力の育成	2	B－1	20	オーストリア	11/18 ～ 11/29	12	8/27～28 福岡	1/21～22 福岡
		B－2	19	フィンランド	10/20 ～ 10/31	12	8/27～28 東京	2/4～5 つくば
P I S A型学力の育成	2	C－1	20	フィンランド	10/29 ～ 11/9	12	8/23～24 東京	1/31～2/1 つくば
		C－2	20	フィンランド	10/15 ～ 10/26	12	8/23～24 東京	2/6～7 つくば
学校安全・防災教育の推進	1	D－1	15	アメリカ	10/15 ～ 10/26	12	8/29～30 東京	1/29～30 つくば
生徒指導・教育相談の充実	2	E－1	18	ドイツ	10/8 ～ 10/19	12	8/29～30 東京	2/4～5 つくば
		E－2	17	アメリカ	10/8 ～ 10/19	12	8/23～24 大阪	1/31～2/1 大阪
キャリア教育の充実	2	F－1	17	イギリス	10/8 ～ 10/19	12	8/27～28 東京	1/21～22 つくば
		F－2	17	オーストラリア	11/12 ～ 11/23	12	8/29～30 大阪	1/31～2/1 大阪
スポーツ・健康教育の推進	1	G－1	16	カナダ	10/29 ～ 11/9	12	8/27～28 東京	2/4～5 つくば
学校教育の情報化・I C Tの活用	1	H－1	19	フィンランド イギリス	9/24 ～ 10/5	12	8/20～21 東京	1/21～22 つくば
特別支援教育の充実	2	I－1	14	フランス	11/19 ～ 11/30	12	8/27～28 東京	1/29～30 つくば
		I－2	15	韓国	10/29 ～ 11/7	10	8/23～24 大阪	2/5～6 大阪
学校と地域等の連携	2	J－1	16	オーストラリア	10/29 ～ 11/9	12	8/29～30 大阪	1/31～2/1 大阪
		J－2	17	イギリス	10/9 ～ 10/20	12	8/16～17 大阪	2/6～7 大阪

17 団

296 名

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。							
開 催 期 日	年間を通して（３ヶ月、６ヶ月、１２ヶ月）						日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	100	人	受講者数	41	人	参加率	41.0%
開 催 場 所	国立大学法人千葉大学ほか							

※ 全体受講定員 100 人、受講者数 41 人、参加率 41.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	34	7	0	0	0	0	41
割合 (%)	82.9	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	41	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・新学習指導要領の導入による教授内容の変更に関して、教材研究に役に立った。 ・教授の指導のもと、じっくりと研修することができ、現場に戻ってその成果をすぐに生かすことができた。また、専門的な指導を受けたり、多くの文献に触れたりすることで、知識を深め視野を広げることができた。 ・知識の幅が広がり、授業だけでなく、特別活動にも十分活用できると思う。 ・課題研究の授業で学んだことをもとに、色々なものを製作できる。 ・最先端の研究が高等学校の授業で扱う原理の応用で可能であるという具体的事例を、写真・設計図なども使いながら生徒に示すことができる。また、学校とは関わりのない業者と接する機会もあり、生徒の進路指導に役立てることができ ・基礎から応用まで、じっくり指導を受けることができた。書物等には書いていない現場のノウハウについても知ることができ、今後のものづくりに大いに役立つと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣 人数	派遣元	派遣先		
			所 属	派遣先	派遣時期	期間
1	青森県	1	青森県立五所川原農林高等学校	国立大学法人 千葉大学	H24.5.7 ~ H24.8.3	3ヶ月
2	岩手県	1	青森県立五所川原農林高等学校	国立大学法人 千葉大学	H24.5.7 ~ H24.8.3	4ヶ月
3	福島県	2	福島県教育センター	国立大学法人 福島大学	H24.7.1 ~ H24.9.30	3ヶ月
4			福島県立浪江高等学校津島校	国立大学法人 福島大学	H24.7.1 ~ H24.9.30	3ヶ月
5	栃木県	11	宇都宮市立国本中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
6			那須塩原市立東原小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
7			足利市立第一中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
8			佐野市立田沼小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
9			栃木市立大平西小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
10			小山市立小山中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
11			那須町立東陽中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
12			佐野市立葛生中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
13			さくら市立熟田小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
14			栃木県立真岡北陵高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
15			栃木県立佐野松陽・松桜高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
16	群馬県	1	群馬県立渋川青翠高等学校	高崎経済大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
17	長野県	1	長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H24.5.1 ~ H25.3.31	11ヶ月
18	愛知県	4	愛知県立小牧南高等学校	国立大学法人 名古屋大学大学院	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
19			愛知県立佐屋高等学校	学校法人 中西学園 NSCカレッジ 名古屋ファッション専門学校	H24.9.1 ~ H25.2.28	6ヶ月
20			愛知県立岡崎商業高等学校	電子開発学園 名古屋情報メディア専門学校	H24.7.1 ~ H24.9.30	3ヶ月
21			愛知県立古知野高等学校	愛知淑徳大学	H24.4.16 ~ H24.7.13	3ヶ月
22	京都府	2	京都府立亀岡高等学校	国立大学法人 京都大学大学院	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
23			木津川市立泉川中学校	国立大学法人 大阪大学大学院	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
24	大阪府	1	大阪府立園芸高等学校	三宅智'花事務所	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
25	和歌山県	1	和歌山県立和歌山工業高等学校	近畿職業能力開発大学校	H24.4.6 ~ H25.3.31	12ヶ月
26	島根県	1	島根県立出雲商業高等学校	国立大学法人 島根大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
27	岡山県	1	岡山県立弓削高等学校	国立大学法人 岡山大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
28	山口県	2	岡山県立弓削高等学校	国立大学法人 岡山大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
29			高知県立高知工業高等学校	公立大学法人 高知工科大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
30	高知県	1	高知県立高知工業高等学校	公立大学法人 高知工科大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
31	福岡県	1	福岡県立須恵高等学校	国立大学法人 福岡教育大学	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
32	佐賀県	5	佐賀県立唐津南高等学校	佐賀県上場営農センター	H24.7.1 ~ H24.12.31	6ヶ月
33			佐賀県立佐賀工業高等学校	国立大学法人 佐賀大学	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
34			佐賀県立鹿島実業高等学校	KCS福岡情報専門学校	H24.4.1 ~ H24.9.30	6ヶ月
35			佐賀県立唐津特別支援学校	中村調理製菓専門学校	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
36			佐賀県立牛津高等学校	学校法人 永原学園 西九州大学短期大学部	H24.10.1 ~ H25.3.31	6ヶ月
37	熊本県	1	熊本県立八代工業高等学校	熊本県産業技術センター	H24.4.1 ~ H25.3.31	12ヶ月
38	宮崎県	3	宮崎県立延岡工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H24.9.3 ~ H24.11.30	3ヶ月
39			宮崎県立日南振徳高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H24.10.1 ~ H24.12.28	3ヶ月
40			宮崎県立都城工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H24.10.1 ~ H24.12.28	3ヶ月
41	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H24.9.1 ~ H24.11.30	3ヶ月
		41				

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A－1）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成24年8月6日（月）～平成24年8月10日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	20	人	受講者数	18	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	静岡県立静岡農業高等学校（静岡県静岡市）							

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	12	66.7	4	22.2	0	0.0	0	0.0	1	5.6	1	5.6	18
		16		88.9										

2. 研修内容に関する主な意見

・講義のあとに演習があったことで知識だけでなく実際に授業に生かす手段を身につけることができました。 ・ヒューマンサービスの分野から、生きる力のみならず農業高校の存続・発展へのテーマとなるものであった。早急に利用及び、周囲に広げて実施していきたい。 ・農業を取り巻く最新の情勢や、生物活用、グリーンライフのしっかりとした指導方法を学ぶことができ、大変有意義な研修でした。 ・大変奥の深い内容を含んだ研修会でした。教育課程の上での位置づけ、重要性を理解できた、実りある研修でした。 ・多くの取り組みや、知識にふれる事で、生物活用・グリーンライフへの理解を深める事ができた。また、参加された先生の話聞く事で、他県の取り組みや実情について知る事ができた。本県との違いも多々あるが、それらを対比しつつ、とり入れられる部分を見つけ、今後の教育活動に活用していきたい。今後の指導要領によって、生物活用等の教材が増える事になるので、この研修をきっかけに学んでいきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

貴団体名 全国農業高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月6日 (月)	受付：集合	開講式 オリエンテーション	自己紹介 交流プログラム紹介	昼休み	講義 農業高校と地域社会との連携	阿部・講2	講義 「生物活用・グリーンライフ」新しい授業展開の可能性	豊田・講2	諸連絡
7日 (火)	講義 園芸の特質と活用 豊田・講1.5	生徒の評価・観点別評価 豊田・演1.5		昼休み	講義と演習 ファシリテーション法とは 小川・講2		講義 グラウンドワークとは何か 渡辺・講2		諸連絡
8日 (水)	講義 グリーンツーリズム の実際 豊田ゆ・講1.5	講義 交流活動の進め方 久保田・講1.5		昼休み	講義 市民農園の実際 粕谷・講2		講義 ソーシャルファームの 新しい可能性 鈴木・講2		諸連絡
9日 (木)	講義 障害者・幼児・高齢者 に対する園芸 久保田・講1.5	講義 インタラクティブ セッション法 久保田・講1	講義 テーマの 決定 久保田・ 演0.5	昼休み	生物活用・グ リーンライフ評 価の具体例 久保田・講 1	演習 プログラミング演習活動と評価 久保田・演3		諸連絡	
10日 (金)	演習 新しい授業展開 の可能性 久保田・演1.5	講義 「生物活用・ グリーンライフ」 の意義と 動向 田畑・講1	閉講式						

実施会場：静岡県立静岡農業高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B－１）「環境工学に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成24年8月20日（月）～平成24年8月24日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	27	人	参加率	135.0%
開 催 場 所	足利工業大学（栃木県足利市）							

※ 全体受講定員 239 人、受講者数 229 人、参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	22	81.5	4	14.8	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0		27
		26		96.3											

2. 研修内容に関する主な意見

・自然エネルギーの将来的な可能性が非常に大きなものである事、また意外と入手容易な材料で製作できる事がわかりました。これからの分散型電源の実現の日は近いと思いました。本当に為になりました。ありがとうございます。 ・実習的な内容も多く大変有意義でした。 ・今回のような研修会に、今後も参加し、私自身の教師としてのスキルアップを目指したいと思いました。また、そこで学んだことを、生徒にフィードバックしていければと思っています。 ・さっそく授業や課研に利用させていただきます。再生可能エネルギーについての考え方が大きく変わりました。 ・座学における基礎知識や実習を通しての体験また、多様な発電の知識から環境に関する法規まで広く学習出来たと感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業、B-1)

団体名: 足利工業大学

日時	曜日	9:30～11:00		休憩10分	11:10～12:40	休憩50分	13:30～15:00	休憩10分	15:10～16:40	安藤 小林 西沢 高橋 全員
8月20日	月	開講式	研修概要説明	全員	太陽エネルギー (座学)	安藤	太陽電池の製作と 性能評価1	安藤	太陽電池の製作と 性能評価2	
8月21日	火	太陽熱利用技術 (座学)		中條	ソーラークーラーの 製作と性能評価1	中條	環境分析 (座学)	小林	環境分析 (実習)	
8月22日	水	風力エネルギー (座学)		牛山	風力発電機の 設計方法 (座学)	西沢	風力発電機の製作1	西沢	風力発電機の製作2	
8月23日	木	風力発電機の性能評価 1		西沢	風力発電機の性能 評価2	西沢	都市環境 住環境と健康	室	環境法規・法令 環境アセスメント 環境影響評価	
8月24日	金	小水力発電 (座学)		根本	バイオマスエネル ギー (座学)	根本	環境とライフスタイル (座学)	根本	閉講式	全員

実施会場: 総合研究センター

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C－１）「マーケティングと経済に関する指導内容・指導方法についての講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成24年7月30日（月）～平成24年8月3日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	40	人	受講者数	43	人	参加率	107.5%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	37	86.0	6	14.0	0	0.0	43
		43	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・次年度より新学習指導要領がスタートし、経済分野等について考えていたところ、今回この研修に参加することができ、大変有意義であった。本研修内容を自校へ戻り、生徒や教員へ還元できるようにしたいと思います。ありがとうございました。
・普段の生活の中では、聞くことのできない内容の話や、他県から講師でいらっしゃった方の取り組み例を見て、自校でも実施してみたい内容がいくつかあった。
・外部の民間企業で実際に活躍されている講師の方のお話など大変興味深く受講することができました。
・新学習指導要領で言われている言語学習についての実践的な取り組みを紹介してもらい、今後の授業の参考となった。
・日ごろの自分の教育活動を見つめ直す良い機会となった。方向性として今回の内容を合致するものが多かったので、今後自信を持って教育活動ができる。
・高校、学校、企業の様々な取組を知ることができて、とても勉強になりました。特に「ケースメソッド」や「言語活動」を取り入れた授業の実践例を見ることができて、今後の教育活動に取り入れていこうと強く思いました。5日間ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて
・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(商業, C-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7月30日 (月)					開 講 式	(講義) 「新学習指導要領と授業 の改善」	(講義) 「消費者行動とマーケティング」				
7月31日 (火)	(講義) 「商業高校における起業家教育とケースメソッドについて」				昼休み	(講義) 「高等学校におけるケースメソッド教育の取組」	(講義) 「経済に関する指導方法の実践例」				
8月1日 (水)			移 動	(見学と講義) 「東京スカイツリーへの誘客と観光施設としての役割」 東京スカイツリータワーでの見学				現地解散 周辺商業施設見学 (各自)			
8月2日 (木)	(講義) 「発想法とグループワークに関する指導方法について」			昼休み		(講義と実習) 2班に分割して交代での講義と実習 A班 「商品のソフト化と消費技術」 B班 「商品開発の視点からの実習について」					
8月3日 (金)	(講義) 「商品開発と知的財産権」			昼休み	(講義) 「マーケティング活動を通じたCSR：企業と社会を考える」	閉 講 式					

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産D－1）「6次産業化に向けた水産技術に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成24年8月6日（月）～平成24年8月10日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	14	人 参加率 93.3%
開 催 場 所	東京海洋大学（東京都港区）					

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	12	85.7	2	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	
		14		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・ 6次産業化や新学習指導要領等に関する内容や実習・実験など、様々な内容で良かった。また最新情報も多くあり、生徒たちのみならず同僚にも知らせたいと思います。ありがとうございました。
・ 毎日の教材研究だけでは得られない知識を得ることができ、有意義な研修であった。
・ 東京海洋大学で研究されている内容や、水産業界の動向などについて知ることができ、とても有意義な時間であった。また大学の学生も助手として参加して下さり、交流できたこともよかった。今後、継続して開催してほしい。
・ 6次産業化や新しい科目「水産海洋科学」「資源増殖」等に対応した、様々な最新の話題についてのお話を聞くことができ大変有意義な機会となりました。学校に帰って今回の内容を授業に取り入れていくとともに、他の先生方にもしっかりと伝えていこうと思います。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。
・ 水産、水産業、海洋を取り巻く最新の情報を多く頂き、大変有意義な研修であった。また個人的にも集中して学ぶ機会としては久しぶりの事でしたので、大きな刺激をいただきました。これを機に視野を広く持ち、大学等の先生方のお力をお借りしながら本業に努力したいと思います。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別記様式1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研究日程表

(水産:D-1)

団体名: 東京海洋大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月 6日 (月)					開 講 式	(講義) はじめに	(講義) 水産と海洋科学(物 理)		
8月 7日 (火)	(講義) 海洋科学(生物)		(講義) 資源管理		昼休み	(講義) 養殖	(実習) 養殖に関する実験		
8月 8日 (水)	(講義) 漁業		(講義) 経済・経営・流 通		昼休み	(講義) 食の安全・安心	(実習) 食の安全・安心に関す る実験		
8月 9日 (木)	(講義) 漁船一般		(講義) 海洋科学(化 学)		昼休み	(実習) 海洋観測実習－1	(実習) 海洋観測実習－ 2		
8月10日 (金)	(講義) 食資源利用化学		(講義) 食品工学		昼休み	(講義) 水産法規	閉講 式		

実施会場: 2号館100A

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービスなどの生活産業に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成24年8月6日（月）～平成24年8月9日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	31	人 参加率 103.3%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区 他）					

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	26	83.9	5	16.1	0	0.0	31
		31	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・家庭科の4分野について、一度に研修できる機会はそうない事ですので、とても有意義でした。しかも各分野とも新しい情報を取り入れた内容であり、すぐに授業実践できそうな内容でした。家庭科は常に新しい流れをキャッチし、新しいことと普遍的な事の両方を伝えていくことの大切さを再認識することができました。大変ありがとうございました。
・素晴らしい講師の方たちから講義をいただいたり実習をすることができ、なかなかできない貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。また全国の先生方と交流できたことも、この研修で得たものの1つです。
・各分野における第一線で活躍されていらっしゃる先生方の貴重なお話を聞かせていただき、本当に有意義な研修でした。自分の県に戻りましたら伝達講習会を通して、学ばせて頂いた貴重な内容を報告させていただきます。
・家庭科だけではなく、震災の事、日本全体の事など幅広い視野で学ぶことができ、大変有意義でした。講師の先生をはじめ多くの方々にお世話になり、他県の先生方と交流を図ることができ本当にありがたかったです。ありがとうございました。
・これからの家庭科教育の方向性と課題を示していただき、授業内容の見直しや評価方法に関し、さらなる改善と工夫が必要であることを強く感じた。また、各分野における専門的知識を得たことで、生徒の興味・関心が高まる教材作りと指導力の向上に努めていきたい。更に他県の先生方との交流から多くの情報を得ることができ、大変有意義な研修となった。
・研修内容について幅広い分野について研修することができて、とても良かったです。また、これからの社会で必要となってくる人材について、様々な分野の情報を得られとても有意義な研修でした。これからの授業（学ぶこと）で活用できそうなことも、たくさんヒントをいただきました。準備等、大変お世話になりました。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成24年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程 E-1

全国高等学校長協会家庭部会									
家庭 Aコース									
月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		備考
	9:30	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	14:10	15:00	16:00
1 8月6日 (月)		【講義】 「新しい学習指導要領の実施とこれからの家庭教育」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【講義】 「東日本大震災あとき、そして、これから一学校における危機管理」 宮城県石巻好文館高等学校長 小野寺 千穂子		【講義】 「住居をデザインする、住居を災害から守る」 日本女子大学家政学部 住居学科 教授 平田 京子	【演習】 「実習型授業を展開する一住居の平面構成の指導などを通して」 日本女子大学家政学部 住居学科 教授 平田 京子			全国高等学校長協会家庭部会事務局 (千代田区)
2 8月7日 (火)	【講義】 「フードビジネスのトレンドについて」 東京誠心調理師専門学校 学園長 廣瀬 喜久子	【講義・演習】 「おいしさのカラーコーディネート」 東京誠心調理師専門学校 カラーコーディネート担当 吉田 美代子			【講義】 「おいしさのカラーコーディネートと料理の盛付けテクニック」 東京誠心調理師専門学校 フードコーディネートター佐藤 則子	【実習】 「おいしさのカラーコーディネートと料理の実践、テーブルコーディネート」 東京誠心調理師専門学校 日本料理担当 教授 齋藤 利昭 助手 石川 晶子			東京誠心調理師専門学校 (大田区)
3 8月8日 (水)	【講義】 「ファッション業界の仕事と人材育成」 文化服装学院 キャリアコーディネート 吉田 良英	【講義】 「グローバルな視点から、日本の最新素材とデザインの関係一トレンド性と実用性」 文化服装学院 非常勤講師 神山 勝雄			【講義・実践報告・体験実習】 「生徒のモチベーションを上げる一遠隔学習の教育効果を探る」 「大垣桜高等学校における実践報告」 岐阜県立大垣桜高等学校 柴田 幸美 文化服装学院 井手口 和子 文化服装学院 村田 達也 文化服装学院 広島校 鈴木 尚樹	【講義・演習】 「インスピレーションの源を探る一面白い！ファッションに付加価値をつける近世(ルネッサンス、ロココ、バロック)の様式を知る」 文化服装学院生涯学習指導主事 丸山 晴美			文化服装学院 (渋谷区)
4 8月9日 (木)	【講義】 「子どもと児童文化財一子どもの発達と絵本をめぐって」 日本女子大学家政学部 児童学科 准教授 石井 光恵	【講義・演習】 「家庭教育における保育と遊び・玩具の関係論一理論と実習を通じた玩具の「使い手・作り手・広め手」としての高校生の育成」 芸術教育研究所 所長 多田 千尋			【講義】 「時代の変化に応じた幼児教育の在り方一幼保一体施設の実践を通して」 前品川区立二葉すこやか幼稚園長 大竹 節子	【閉講式】			全国高等学校長協会家庭部会事務局 (千代田区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F－1）「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成24年7月31日（火）～平成24年8月3日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	人	参加率 95.0%
開 催 場 所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）						

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	17	89.5	1	5.3	0	0.0	0	19
		18	94.7			1	5.3	0	

2. 研修内容に関する主な意見

・日々研修や学習をしているつもりでも、足りない視点や自分の仕事に対する取り組み方や、生徒理解の傾向を自覚し反省する機会となりました。実習・見学等施設・設備も研修中に入れていただくことや、触れさせて頂く機会があり理解が深まりました。
・じっくり集中して専門的な講義を受け、改めて日頃の自分の教育活動を振り返ることができた。全国に、こんなにも同じ思いを持って生徒と関わっている先生方がいらっしゃる事が分かり、本当に勇気づけられた。今回の学びを学校へ持ち帰り、職場の仲間とも共有したい。
・幅広く学ぶことができました。受講環境も快適でした。ありがとうございました。
・臨地実習を支える取り組みや院内感染の最近の動向とその予防策、教材化等最新の情報や困っていたことへ前向きになれる内容でした。今やっている自分の教育や仕事について考える良い機会となった。現状に満足せず常に向上心を持ちたいと思った。
・4日間の研修に参加させていただき、大変勉強になりました。特にグループワークは、再度自分を振り返る機会になりました。
・4日間様々な内容で講義実習を受ける事で、新たな情報や指導方法、具体的な学生への関わり方など多くの学びがありました。多くの学校が同じような生徒・学生の現状課題を抱え取り組んでいることを知り、学校に戻って伝達しながら学びを活用し、一人でも多くの看護師育成に力を注いでいきたいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

看護(F-1)

1. 期 間 平成24年7月31日(火)～平成24年8月3日(金)
2. 会 場 学校法人 川崎学園 川崎医療福祉大学
〒701-0193 岡山県倉敷市松島288番地
電 話：086-462-1111 (担当：津島 内線：54903)、FAX：086-464-1109

3. 講義内容

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	10:45	11:30	12:00～ 13:00	14:30	14:45	16:30
7月31日 (火)		受付	開講式		(講義) 「看護ケアの本質」 川崎医療福祉大学 医療福祉 学部 医療福祉学科 教授 岡田 喜篤	(見学) 大学内 設備	昼食	(講義) 「看護基礎教育の動向」 文部科学省 教科調査官 福村 知加子	休憩	(講義) 「看護教育の課題」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 学科長 津島 ひろ江
8月1日 (水)	(講義) 「看護理論から看護実践 へ」 川崎医療福祉大学 医療福 祉学部 保健看護学科 教授 伊東 美佐江	休憩	(講義) 「臨床実習を支える取り組 み」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 中新 美保子	昼食	(実習) 「川崎医科大学附属病院卒業 臨床研修センター実習」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 准教授 松本 啓子	休憩	(講義・実習) 「医療情報の包括的管理およ び実習指導における電子カル テの活用の実際」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 秋山 祐治 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 准教授 若崎 淳子			
8月2日 (木)	(講義) 「院内感染の最近の動向 とその予防対策」 川崎医科大学附属川崎病院 感染管理認定看護師 松田 真哉	休憩	(講義・演習) 「臨床実習指導 一 臨地場面の教材化から指導のアプローチと評価」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 杉浦 絹子 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 定金 敬子 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 小野 美穂 ★昼食は適宜>11:45	12:45	14:15	14:30	15:00	15:30		
8月3日 (金)	(講義・見学) 「災害時における DMAT(災害派遣医療チ ーム)の活動」 川崎医科大学附属病院 看 護師長(前救命救急セク ター) 丸橋 民子	休憩	(講義) 「看護管理と卒後教 育のあり方」 川崎医科大学附属病院 看護部長 千田 美智子	昼食&移動	(講義) 「看護実践の意味」 甲南女子大学 看護リベリ 学部 看護学科 教授 池川 清子	休憩	まとめ	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G－１）「ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成24年7月30日（月）～平成24年8月3日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	24	人	受講者数	20	人	参加率	83.3%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	14	70.0	6	30.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20	
		20		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・本講習全体を通じて、再確認できたことや新発見など、多くの事を知識として持ち帰ることができます。明日から、これらを生かせるように取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。
・実習中心の内容であり、それが教育現場でどのように生かせるかといった点を忘れることなく提示していただき、大変ありがたかった。今後勤務校ではもちろん、全県下に対して、今回得たことを広げるべく、積極的にアプローチしていきたい。また運営が高校の先生である点も興味深かった。
・進歩の早いICTにおいて研修内容を精選することは難しい事だと思います。その中で今回の内容はネットワークの一部の内容に絞り有意義な内容でした。今後も本研修を継続していただきたいと思います。
・情報科の教員免許を受けてから、これまで勤務校で情報教育のみならずネットワーク機器の管理やメンテナンス、校内の各種システムの保守や開発を任されてきました。その中でたくさんの経験を、今回の研修で再整理することができました。また、普段であれば聞くことのないような方々のお話も拝聴でき、非常に大きな刺激を受けました。ありがとうございました。
・5日間大変充実した研修内容で大変勉強になりました。日頃の授業では教えていない内容や過去には教えていたけれども、現在はやっていない内容など基礎・基本の修得と、知識の確認および新バージョンでの活用事例、さらに情報教育に対する様々な視点からの講義などここでしか学べない内容ばかりでした。5日間ありがとうございました。大変感謝しています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 24 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-1)

団体名: 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日 (月)	開講式	(講義実習) ネットワークの基礎① (LAN作成)	(講義実習) ネットワーク の基礎② (LAN 接続)	昼休み	(講義実習) ネットワーク の基礎③	(講義実習) ネットワークの応用① (IPネットワーク)	(講義実習) ネットワークの応用② (ファイル共有)		
7月31日 (火)	(講義実習) Webサーバの構築とHTML①	(講義実習) Webサーバの構築とHTML②	昼休み	(講義実習) Webサーバの構築とHTML③	(講義) 文部科学省視学官講話 情報教育の課題と動向 (仮題)				
8月1日 (水)	(講義実習) Accessによるシステム設計		昼休み	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計					
8月2日 (木)	(講義実習) ダイナミックHTML①		昼休み	(講義実習) ダイナミックHTML②	(講義実習) Webアプリケーション①	(講義実習) IT事業の展望 (Web関連)			
8月3日 (金)	(講義実習) 「情報科」の指導	(講義実習) Webアプリケーション②	昼休み	(講義実習) Webアプリケーション③	閉講式				

実施会場: 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領における指導の充実を目指して」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成24年9月3日（月）～平成24年9月7日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	12	人	参加率 60.0%
開 催 場 所	宮城教育大学（宮城県仙台市）						

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	10	83.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12
		12	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・各領域の専門知識・技術の習得だけでなく、技術科の在り方、今後の方向性、技術科担当としての学校教育、および社会における責任と役割について改めて考えさせてもらえる機会となった。今まで自分は各校一人の教科担当として、その専門性に甘えていたように思う。今回の五日間は自己啓発・自己研鑽となる、教職生活において最も貴重な時間であった。ここで学んだ経験を、次世代を担う生徒に還元していきたい。
・ありがとうございました。学校に戻って活かしたいと思います。また機会をとらえて、他の先生にも広げたい。
・お忙しい中、いろいろご準備等ありがとうございました。久しぶりに刺激をいただきました。また今後ともよろしくお願ひします。
・多くの教材を作成し持ち帰ることができ、かつその仕組みを（裏付け）学習できる場であり大変有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。 ・中期計画に定める「各研修コースの廃止等の基準」に基づき、平成25年度から隔年実施。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名：国立大学法人宮城教育大学

(技術・家庭：I－1)

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
9月3日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30-	(講義) 新学習指導要領における指導と評価 10:00-11:30	(実習) 材料加工1 (鉋の刃研ぎ治具・木材加工小作品の製作) 11:40-12:40	昼休み	(実習) 材料加工2 (鉋の刃研ぎ治具・木材加工小作品の製作) 13:30-15:00	(実習) 材料加工3 (木材加工小作品の製作) 15:10-17:10			
9月4日 (火)	(講義) 生物育成の教育 内容と教材の選択 9:00-10:30	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培の体験1 (ペットボトル・袋栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 10:40-12:10	昼休み	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培の体験2 (ペットボトル・袋栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 13:00-15:00	(講義) 生物育成における新しい技術とその活用 (農薬・肥料・植物工場・バイオテクノロジー) 15:10-17:10					
9月5日 (水)	(講義 (実習を含む)) システム的な授業作りの方法 9:00-10:30	(講義 (実習を含む)) 動機付けモデルによる授業の仕掛けづくり 10:40-12:10	昼休み	(講義 (実習を含む)) ロボットを活用したコンピュータ制御学習1 13:00-15:00	(講義 (実習を含む)) ロボットを活用したコンピュータ制御学習2 15:10-17:10					
9月6日 (木)	(講義) 風車の形式とエネルギー変換機構 9:00-10:30	(実習) 風車の設計と製作 10:40-12:10	昼休み	(実習) 製作した風車の評価 13:00-14:30	(講義) 電気の基礎知識とLED 14:40-15:40	(実習) LED と色々な素材を使ったインテリア照明の製作1 15:50-17:20				
9月7日 (金)	(講義 (実習を含む)) LED と色々な素材を使ったインテリア照明の製作2 9:00-10:30	(講義) エネルギー変換およびエネルギー回生教材としてのモータ 10:40-12:10	昼休み	(実習) 乾電池自動車の設計と製作1 13:00-14:00	(実習) 乾電池自動車の設計と製作2 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20				

実施会場：国立大学法人宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-2）「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領における指導の充実を目指して」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成24年8月6日（月）～平成24年8月10日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学（徳島県鳴門市）							

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	14	77.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・5日間技術について取り組む機会がめったにないので良かった。全国の先生方と交流を持つことができ、非常に良い刺激になった。地元に戻ったら、この経験を多くの先生方に伝え県を盛り上げていきたい。 ・人とのつながりを広げられたことが一番大きい成果ですが、内容も深く充実感がありました。 ・5日間の中で、機会があったらこれを研修してみたいと思っていたものをたくさん経験することができた。 ・熱心な講師の方から、大変多くの事を学ぶことができて良かったです。ぜひ実践に役立てたいと思います。 ・講師の方の講義は「今まで気にはなっていたが、なかなか手が出せなかったこと」だったので、非常に有意義でした。県外の研修生との交流も非常に良い経験になりました。 ・各県の先生方の実践例や情報交換だけではなく、大学の先生方から貴重なお話をいただき、充実した研修となりました。	
---	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭：I-2)

団体名 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成24年 8月6日(月)	開 講 式	(講義) これから技術・家庭(技術分野)と評価	昼休み	(講義) 計算機器の変遷	(実習) 技術教材の利用				
8月7日(火)	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク	昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク					
8月8日(水)	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工	昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工					
8月9日(木)	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御	昼休み	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御					
8月10日(金)	(研究協議) 第1・2・3班： 技術教育ディスカッション (各班での協議)	昼休み	(研究協議) 技術教育ディスカッション (全体発表)	閉 講 式					

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「食育の推進に対応した家庭分野の指導に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成24年8月20日（月）～平成24年8月23日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	27	参加率 108.0%
開 催 場 所	横浜国立大学（神奈川県横浜市）					

※ 全体受講定員 239 人、 受講者数 229 人、 参加率 95.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	23	85.2	3	11.1	0	0.0	0	0.0	27
		26	96.3							

2. 研修内容に関する主な意見

・自分自身の研修だけでなく、研修後「伝える」「広げる」という役割もあるということを意識して過ごした4日間でした。たくさんの資料、実習、ありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。 ・それぞれの専門家の方達の講義を受けることができ、とても勉強になりました。実習・実践等も普段なかなかできないので、大変役に立ちました。これからの授業の中で、学校生活の中で、生かしていきたいと思います。また、市の部会等で伝達したいと思います。日本の各地の家庭科担当の先生方とも話をすることができ、大変参考になりました。どうもありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。 ・食育の大切さや生徒へ伝えることなどとても重要なことを学ばせていただき、有意義な4日間でした。これからの授業を行って行くための基盤をしっかりと作らせていただきました。また、他県の方とも交流ができ、多くの刺激をもらったり、意見交流ができたりと充実していました。ありがとうございました。 ・新指導要領全面実施を受けての実践や、評価、子ども達の実態調査など、具体的で明日からの指導に役立つお話が聞けてよかった。また調理に関しても、エコクッキングと栄養のこと両方の視点で実習できて、いろんなことが学べたと思う。また、食品の安全性についての熱いお話、食事バランスガイドや、消費についてのお話など、専門的な内容が学べたことも大変参考になった。またこれらを生かして指導を行っていききたい。 ・実践例の発表が大変印象的で、これからの授業作りに大いに役立つと思いました。研修というと講義が中心になることが多いのですが、実習が入り研修者自身が体験できたという点がとても良かったです。私にとって価値ある体験となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭：J-1)

団体名 横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
8月20日 (月)			開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 オリエンテーション 10:15-10:25	受付	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と評価」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:30-12:00	昼食	(講義)「新学習指導要領における食に関する指導の充実」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)田口真澄(群馬県総合教育センター指導主事総括) 青柳幸恵(東京都文京区立若台中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00		
8月21日 (火)				(講義・ワークショップ)「技術・家庭科における食の授業デザイン」 (担当)堀内かおる(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00	昼食	(実習)「環境を考えた調理実習の実践について」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 東京ガス株式会社 横浜ショールーム 13:30-16:30			
8月22日 (水)				(実習)「食品選択能力を高める調理実習指導」調理実習 ☆内容検討 中 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食	(講義・演習) 「献立作成の指導ー食品群と食事バランスガイドについてー」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
8月23日 (木)				(講義)食の現代的問題1 「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 研究員) 教育文化ホール 中集会室 9:00-10:25	休憩 十分	昼食	(ディスカッション) 「技術・家庭科での食に関する指導の充実」 学習指導案発表 (担当)堀内かおる(横浜国立大学教授) 13:00-14:30	閉講式 14:40 開会 14:42 挨拶 14:50 修了証授与 15:00 閉会 アンケート回収 諸連絡	

実施会場:横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	平成24年度産業教育実習助手研修（工業）「工業実習に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成24年8月27日（月）～平成24年8月31日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	広島国際学院大学（広島県広島市）							

※ 全体受講定員 20 人、 受講者数 20 人、 参加率 100.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	5	0	0	0	0	20
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・現場ですぐに使える内容が多く良かった。 ・工業の免許取得という目的だけでなく、大学での研究内容や、その為のノウハウを少しでも知ることが出来て、とても参考になった。また、全国の工業関係の高校から集まってこられている先生と一週間の間に交流ができ、また視野が広がったことを嬉しく思う。 ・専門分野だけでなく、幅広く知識を学ぶ事ができ、本当に良かったと思いました。全国の先生方との情報交換から、更に工業教育を盛り上げていきたいと意欲が高まりました。新しい知識や技術を取り入れる事ができ、とても充実した研修になりました。ありがとうございました。 ・高度な内容を学習でき有意義でした。準備をして下さった先生方は大変だと思いますが、ありがとうございました。 ・実習助手の資質向上のためにも、今後も続けていただきたいと思います。この様な機会が増える事を期待したいと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成 24 年度産業教育実習助手研修日程

(工業)

大学名 広島国際学院大学

日時	会場	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月27日 (月)	袋 町	8:00～ 受付	8:45 開 講 式	9:00～10:30 (講義) 工業科教育① (工業科学習指導要領)	休憩	10:40～12:10 (講義) 工業科教育② (人の発達と教育)	休憩	12:50～14:20 (講義) 工業科教育③ (技術と工業)	休憩	14:30～16:00 (講義) 工業科教育④ (工業科の目標と内容)	休憩	16:10～17:40 (講義) 工業科教育⑤ (工業科の内容と指導)
8月28日 (火)	中 野			9:00～10:30 (演習) 工業科の教材研究① (制御教材 1)	休憩	10:40～12:10 (演習) 工業科の教材研究② (制御教材 2)	休憩	12:50～14:20 (演習) 工業科の基礎① (工業と情報活用)	休憩	14:30～16:00 (講義・演習) 工業科の基礎② (工業と数値解析 2)	休憩	16:10～17:40 (講義・演習) 工業科の基礎③ (工業と数値解析 2)
8月29日 (水)	中 野			9:00～10:30 (講義) 工業科教育⑥ (指導法の工夫— プレゼンテーション 1)	休憩	10:40～12:10 (講義) 工業科教育⑦ (指導法の工夫— プレゼンテーション 2)	休憩	12:50～14:20 (講義) 工業科の基礎④ (ものづくり概論)	休憩	14:30～16:00 (講義・演習) 工業科の教材研究③ (設計製図 1)	休憩	16:10～17:40 (講義・演習) 工業科の教材研究④ (設計製図 2)
8月30日 (木)	中 野			9:00～10:30 (講義・演習) 工業科の教材研究⑤ (金属系新素材 1)	休憩	10:40～12:10 (演習・演習) 工業科の教材研究⑥ (金属系新素材 2)	休憩	12:50～14:20 (講義) 工業科の基礎⑤ (環境とエネルギー 1)	休憩	14:30～16:00 (演習) 工業科の基礎⑥ (環境とエネルギー 2)	休憩	16:10～17:40 (講義) 工業科の基礎⑦ (振動解析と活用)
8月31日 (金)	中 野			9:00～10:30 (講義・演習) 工業科の基礎⑧ (工学における正弦波)	休憩	10:40～12:10 (講義・演習) 工業科の教材研究⑦ (表面処理 1)	休憩	12:50～14:20 (講義・演習) 工業科の教材研究⑧ (表面処理 2)	休憩	14:30～16:00 (講義) 工業科教育⑧ (危機管理・安全指導)	休憩	16:10 ～ 16:30 閉講式

実施会場：広島国際学院大学 中野キャンパス及び袋町キャンパス

I 研修概要

研 修 名	平成24年度 学校評価指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第一グループ					
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成24年7月10日（火）～平成24年7月13日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	142	参加率 129.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	115	26	0	0	1	0	142
割合 (%)	81.0	18.3	0.0	0.0	0.7	0.0	
	141						
	99.3						

2. 研修内容に関する主な意見

・課題協議と演習を組み合わせた研修スタイルで、多くのことを学ぶことができた。演習で同じ学校種で、他校の先生方と学べたことが特に良かった。協議演習の時に、目的とゴールを明確にしてから始めるスタイルも勉強になった。 ・4日間の本研修を概観して、学校評価指導者養成研修は目的ではなく、「生きる力」「学力をつける」目標のためのツールであると理解した。学校評価を正しく理解する責任を感じた。 ・学校評価についての基本的なところから丁寧に研修するプログラムで、自分にとっては大変良かった。演習では同じような立場の指導主事と、情報交換をしながら進めることができて大変有意義であった。 ・組織として学ぶことの重要性和、それをコーディネートするリーダーの役割の重要性を再認識できた。そのために、学校が個業型→協働型へ転換すること、その大切な役割を果たすものが学校評価であることが理解できた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・小中高校の学校種別の部会に加え、教育委員会部会を新たに設置した。 ・実施経費については、全額派遣者負担とした。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度学校評価指導者養成研修 日程表

	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
7月10日(火)		受付	開講式	課題協議1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	昼食 休 憩	課題協議2 「学校経営の充実を図る学校評価」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫	演習1 「各地域における学校評価の取組」 休 憩	目的: 各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する

	9:00	10:45	11:00	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
7月11日(水)	受付	課題協議3 「学校改革に必要なリーダーシップ」 国土館大学体育学部こどもスポーツ教育学科 教授 北神 正行	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 伊丹市立総合教育センター 副主幹 臼井 久美 伊丹市立稲野小学校 主幹教諭 杉本 浩 伊丹市立錦原小学校 教諭 滝本 直人 伊丹市立西中学校 主幹教諭 村田 文生 岐阜県教育委員会学校支援課 課長補佐小栗 英幸 岐阜県立加茂高等学校 教頭 渡邊 克昇 岐阜県立多治見高等学校 教頭 浅野 靖夫	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 伊丹市立総合教育センター 副主幹 臼井 久美 伊丹市立稲野小学校 主幹教諭 杉本 浩 伊丹市立錦原小学校 教諭 滝本 直人 伊丹市立西中学校 主幹教諭 村田 文生 岐阜県教育委員会学校支援課 課長補佐小栗 英幸 岐阜県立加茂高等学校 教頭 渡邊 克昇 岐阜県立多治見高等学校 教頭 浅野 靖夫	休 憩	休 憩	演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～モデル事例の選出～」 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 山梨大学教育研究開発センター 教授 日永 龍彦	協議
		目的: 学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等にも求められるリーダーシップについて理解を深める		目的: 先行事例の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実際について理解を深める				目的: 事例検討を通して、学校評価の手法に係る現状と課題を把握する

	9:00	9:30	12:00	13:00	17:00
7月12日(木)	受付	演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～現状の課題の評価結果の分析～」 小学校部会 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 中学校部会 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 高等学校・特別支援学校部会 九州大学人間環境学研究院 准教授 元兼 正浩 委員会部会 山梨大学教育研究開発センター 教授 日永 龍彦	協議 休 憩	演習4 「学校評価の手法とその生かし方Ⅲ～現状の課題への改善方策の発表～」 小学校部会 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 中学校部会 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 高等学校・特別支援学校部会 九州大学人間環境学研究院 准教授 元兼 正浩 委員会部会 山梨大学教育研究開発センター 教授 日永 龍彦	発表準備・発表
		目的: 学校評価の手法についての知識を得るとともにその生かし方を学ぶ		目的: 効果的な学校評価を展開するために本研修成果の活用方法等を学ぶ	

	9:00	11:30	11:45	12:45
7月13日(金)	受付	全体発表 演習5 「学校評価の手法とその生かし方Ⅳ～現状の課題の改善方策を更に検討する～」 山梨大学教育研究開発センター 教授 日永 龍彦	課題協議4 「研修講師となるための 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久」 休 憩	閉講式 目的: 学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する
		目的: 学校評価の充実を図るための方策について理解を深める		

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。 このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者となることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成25年2月18日（月）～平成25年2月22日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	161	参加率 100.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	140	87.0	21	13.0	0	0.0	161
		161	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・自分の意識と研修内容に大きな違いはなかったし、ふだん学校でも自然に、なんとなく、やっているのではないかな？とも思いましたが、自然にとかなんとなくではやっていることにならないと改めて感じました。データに基づいた評価からゴールを見出し、そこに向けてどう仕組むのかを全職員（組織的に）でやっていくこと…これからやるべきことが見えてきたように思います。
・参加し自分の勉強になったとともに、指導者としての活用を感じる研修であった。講義や指導者の方々の熱意とユーモアのある指導により、5日間が充実した研修であった。全国の先生と話しをすることができ、自分の視野を広げる機会となった。自分の職場等で活用していきたい。運営にあたられた方々、指導者の方々に感謝申し上げます。
・カリキュラムマネジメントについての理解のみならず、それをもとに研修内容等を企画でき、有意義なものとなった。作成したものを持ち帰り、よりニーズに応えるような内容へと改善していきたい。
・カリキュラムマネジメント研究の第1人者である先生方の講義と演習指導により、自校で、又は地域で、学んだことを生かしたい、広げたいという意欲を持つことができた。全国の様々な学校の実践を知ることでもでき、カリキュラムマネジメントの有効性を実感した。チームの先生方をはじめ、いろいろな地域から来られた先生方と交流する中で、見聞を深めることもできて大変よかった。
・講義・演習と大変充実した内容で、勉強になりました。本研修で得たことを、自分たちの地域・学校に広めていけるよう頑張りたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成24年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程

2月18日(月)									
第1日目		10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:20 15:30	17:00	
			受付	オリエンテーション 開講式	課題協議1 これからの学校教育 ～カリキュラム・マネジメントの観点から～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する 文部科学省 視学官 永井 克昇	昼食	課題協議2 カリキュラム・マネジメントの基本とその役割 ◎目的:カリキュラム・マネジメントとは何か、学校運営における役割とその方法について具体的な理解を深める 中村学園大学 講師 田村 知子	演習1 各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 ◎目的:各地域の取組を知るとともに、課題を共有する	休憩
2月19日(火)									
		8:30	10:00	10:15	11:45	12:45	14:15 14:30	16:00 16:10	17:00
第2日目	事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 ◎目的:先行事例を通して、学校の特色を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ 【A言語活動】 広島県廿日市市立大野東中学校 校長 門戸 千幸 文部科学省 教科調査官 富山 哲也								
	【B道德教育】 東京都葛飾区立本田小学校 教諭 除村 望 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	休憩			昼食		【Dキャリア教育】 福岡県立城南高等学校 主幹教諭 下田 浩一 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助	【C総合的な学習の時間】 徳島県徳島市立助任小学校 校長 長井 明福 文部科学省 教科調査官 田村 学	【総括講義】 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人 中村学園大学 講師 田村 知子 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘
2月20日(水)									
		8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	14:50	15:50	17:00
第3日目	課題協議3 カリキュラム・マネジメントによる評価と改善 ◎目的:学校づくりに生かすカリキュラム評価の考え方・進め方について学ぶ 筑波大学 准教授 根津 朋実								
						昼食			
2月21日(木)									
		8:30	12:00	13:00	15:45	17:00			
第4日目	演習3-1 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～研修成果の活用に向けた資料作成～ (学校種別演習) ◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するために本研修成果の効果的な活用方法を学ぶ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人								
						昼食			【学校種別発表】
2月22日(金)									
		8:30	10:45	11:00	12:00	12:15			
第5日目	演習3-2 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人								